

E-0288

昭和三十八年九月二十三日

第一號

昭和八年九月二十三日

在「ソヴィエト」聯邦

特命全權大使 大田 爲

吉



外務大臣、廣田 弘毅 殿

一九三三年（度）上半期ニ於ケル「ソ」聯邦經濟事情ノ
概要報告ノ件

「ソ」聯邦當局ハ一九二八年十月ヨリ三〇年十二月ニ至ル四年三ヶ月間ニ所謂第一次五年計畫ノ實施期ヲ終リ本年一月ヨリ第二次五年

在ソヴィエト聯邦日本大使館

計畫ノ實施期ニ入りタル次第ナルカ右第一次五年計畫ノ実績ニ付當局ノ發メ表スル所ニ依レハ工業ニ付テハ計畫ノ九三、九%（内重工業ハ計畫ノ一〇八%）ヲ實行シ其ノ生産増加ハ大戰前ノ三割又一九二八年度ノ二倍ニ達シ農業ノ集團經營化ニ付テハ計畫ノ三倍即チ全農戶ノ約六十%ヲ集團化スルニ至レル趣ニシテ新工業施設ノ中「ドニエプル」發電所、「ハリコフ」及「スターリングラード」ノ「トラクター」工場、「ゴーリキー」舊「ニジニノブゴロツド」ノ自動車工場、「ロストフ」ノ農業機械工場、「マグニトゴールスク」ノ製鐵工場、莫斯科ニ於ケル「アモー」「トラツク」工場ノ如キハ既ニ作業ヲ開始セル有名ナルモノニ屬シ此ノ他多數ノ工場殊ニ軍需品工場ノ建設ヲ見ルニ至レリ然ルニ所謂第一次五年計畫ナルモノハ

在ソヴィエト聯邦日本大使館

計畫夫レ自身カ餘リニ尠大且多岐ナルニ加ヘ之ヲ四年三ヶ月間ニ強行セルノミナラス重工業ヲ偏重シ農業ノ集團化ヲ餘リニ急「テムボ」ヲ以テ敢行セル結果輕工業ニ俟ツヘキ日常必需品ノ缺乏ヲ來シ又農民ノ個人的獨立經營ヲ破壊シ彼等ノ反抗乃至反感ヲ招キ農產物ノ減少ヲ來セルカ右ノ情勢ハ同計畫實行上必要トセル機械材料ノ輸入代金及傭聘外國技術者ニ對スル報酬金ニ充當スヘキ國內產物資及食料品ノ輸出價格カ世界經濟ノ不景氣ニ依リ著シク下落セシタメ豫定以上ノ數量ヲ無理ニ輸出スルノ餘儀ナキニ至ラシメタル結果一層加重セラレ爲メニ國內ニ於ケル物資殊ニ食料ノ著シキ窮乏難ニ逢着シ人心ノ不安ヲ來スニ至レリ茲ニ於テ當局ハ第二次五年計畫ノ實施期ニ入ルニ及ヒ國內ノ工業化ニ付テハ其ノ「テムボ」ヲ緩和シテ既成

在ソヴィエト聯邦日本大使館

工業ノ内容ノ充實完成ニ又農業ニ付テハ集團化ノ強行ヲ一時停止シテ既成集團農業ノ内容ノ充實改善ニ其ノ努力ヲ集中スルノ方針ヲ發表シ所謂建設強行ノ時代ヨリ内容充實ノ時代ニ移ルコトナリ本年一月三三年度ノ國民ノ經濟計畫ヲ發表セルカ（第二次五年計畫ノ詳細ハ未タ發表サルニ至ラス）右ニ依レハ工業ニ關シテハ全工業生産増加割合ヲ三三年度ノ一六、五％中重工業ハ二一、二％（内石炭ハ約三〇％鐵ハ四四％）輕工業ハ一〇、五％トシ労働ノ生産率増加ヲ一四％生産原價ノ低下ヲ三、九％トシ農業ニ於テハ春蒔面積ヲ九千五百萬「ヘクター」穀物ノ總收穫高ヲ八億二百萬「ツェントネル」（穀物ノ收穫率増加割合ハ前年度ノ一三％）トナシ右ニ基キ所定計畫ノ實行ニ努力シ居レル處今本年度上半期ニ於ケル實績ヲ概觀スル

在ソヴィエト聯邦日本大使館

ニ工業ニ付自動車製造部門ハ成績良好ナルモ他ハ大体成績思ハシカラサルカ如ク右ハ當局カ餘リニ農業方面ニ努力ヲ傾注セル結果ナルヘシト評セラレ居レルカ上半期ノ末期ニ至ルニ及ヒ漸次成績良好トナリ來レルコトハ第一次五年計畫中ノ諸工場カ漸次落成シ又落成セムトシツツアル事實ト共ニ注目ニ値スヘシ又農業ニ付テハ當局カ本年度農作ノ成績如何ヲ以テ前記ノ如キ物資食料品ノ缺乏難ト之ニ伴フ人心ノ不安トヲ匡救ノ緩和シ第一次五年計畫ノ成果ヲ充實運用シ得ル程度ヲ決ス可キ一大要因ナリトシテ農作振興ノ爲メ凡ユル努力ヲ竭シ來レル結果其ノ成績甚タ良好ナルカ如シ右ニ付一、工業、ニ農業、三、財政及四、外國貿易ノ數項ニ分チ別紙ノ通り報告スルニ付御査閱相成様致度シ

在ソヴェエト聯邦日本大使館

第一 工業

一、本年上半期ノ工業製産ノ狀況ニ付テハ「トラクター」及自動車以外ハ今日迄各工業部門ニ付斷片的ニ發表セラレタルニ過キササルヲ以テ未タ全般ノ製産狀況ヲ詳ニスルコト能ハサルモ客年ノ上半期ニ比較シタル計畫實行比率トシテ政府當局ノ發表セル比率ヲ舉クレハ左ノ通

四人民委員部管下	百分比率
國營工業總製産	一〇二、三
生産手段ノ製産	一〇五、一
消費品ノ製産	九九、一
重工業人民委員部	一〇七、四

在ソヴェエト聯邦日本大使館

林業人民委員部（季節的部門ヲ除ク） 九三、七

輕工業人民委員部 一〇〇、七

供給人民委員部 不明

而シテ各工業部門中本年度上半期ノ計畫ヲ遂行シタルモノナク工業全般ノ計畫實行比率ハ四割三分三厘ナル趣ナルカ上半期ノ製産増加ノ比率カ月ヲ逐フテ好良トナリ居ル趣（例ヘハ重工業ニアリテハ三月ノ四、七%ヨリ六月ノ一五%ニ食料品工業ニテハ五月ノ二、六%ヨリ六月ノ一三、七%ニ増加セリ）ナルコトハ注意ニ値スヘシ

上半期ノ計畫實行ノ成績ヲ檢スルニ重工業ニ於テハ自動車製造部門ハ成績良好ナルモ他ノ主要部分就中石炭、石油及鐵ノ生産ハ豫

在ソヴィエト聯邦日本大使館

定計畫ニ達セス又輕工業ニ付テハ依然全般的ニ計畫通り實行セラ

レ居ラサルカ如シ即チ重工業中自動車生産ハ本年度上半期ノ計畫

ヲ超過實行セルモ探炭ハ一九三二年一月一三月ノ一〇、九二一、

〇〇〇噸ニ對シ一九三三年同期ハ一〇、三七一、〇〇〇噸ニ低下

シ且一九三三年四月一六月ハ最低一日二一五、〇〇〇噸ノ計畫ニ

對シ五月一六月ニ於テモ未タ漸ク二〇五、〇〇〇一ニ〇七、〇〇

〇噸ヲ上下シ居ルニ過キス從テ本年度上半期ノ計畫實行割合ハ年

計畫ノ四三、九%ニシテ前年度同期ニ對シ僅カニ三、九%ヲ増加

セルニ過キス探油ハ一九三二年上半期カー一、二五〇、〇〇〇噸

ナリシニ對シ本年度上半期ハ一〇、四四〇、〇〇〇噸ニシテ計畫

ノ四二、八%ノ實行率ナリ又同期ニ於ケル製鐵計畫ニ付銑鐵ハ一

在ソヴィエト聯邦日本大使館

四、六%、鋼鐵ハ一六、二%、鐵ハ一三、九%ノ實行不足トナリ
居リ本年度上半期ニ於ケル黑色金屬工業ノ計畫實行割合ハ年計畫
ノ三五、八%ヲ示シ居レリ尤モ前年度ニ比スレハ多少ノ増加ニシ
テ例ヘハ銑鐵ニ付テハ前年度ノ二、九八〇、〇〇〇噸ニ對シ本年
度ハ三、一九〇、〇〇〇噸、鋼鐵ハ前年度ノ三、九一〇、〇〇〇
噸ニ對シ本年度ハ三、二一〇、〇〇〇噸又鐵ハ本年度二、二四〇
〇〇〇噸ニシテ前年度ニ比シ〇、三%ノ増加ナリ之ヲ要スルニ本
年度上半期ノ全重工業生産ハ昨年度同期ニ比シ七、四%ノ増加ヲ
示セルモ年計畫ノ實行割合ハ四二、三%トナリ居レリ尙「コーク
ス」ハ計畫三六、三%、鐵鑛探掘ハ三三、八%、有色金屬ハ三
一、一%、建築材料ハ二八、七%、化學工業ハ四三、九%、機械

在ソヴィエト聯邦日本大使館

製造ハ四四、八%及農業機械製造ハ三九、二%ノ増加率ヲ示シ居
レリ次ニ輕工業ニ付本年一月一三月間ハ全般的ニ計畫ニ達セサル
コト八、一%ニシテ就中革靴、「ガラス」、陶磁器、油脂及「マ
ツチ」ノ諸部門ニ於ケル成績最モ不良ナリ又食料工業ニ付テモ供
給人民委員部所轄ノモノハ一月一三月間ニ於テ計畫ニ達セサルコ
ト八、三%、森林人民委員部所轄ノ分ハ前同期ニ於テ計畫ニ達セ
サルコト一一、四%ヲ示シ居レリ

ニ生産原價ノ低下ニ付機械工業部門ニ於テハ昨年度ニ比シ著シク之
カ低下ヲ見タル部門アルモ一般的ニハ必スシモ然ラス殊ニ石炭及
製鐵部門ニ於テハ一月一三月ニ於テ昨年度同期ニ比シ寧ロ高騰シ
輕工業ニ於テモ等シク高騰ヲ示シ居レリ労働ノ生産率モ一月一三

在ソヴィエト聯邦日本大使館

月ニ於テ重工業ニ付前年同期ニ比シ七、七%、輕工業ニ付一、五%増加セルモ未タ何レモ計畫ニ達シ居ラス

三、右ノ事態ニ對シ當國當局ハ新聞紙上等ニ於テ各方面ニ亘リ經營上ノ缺陷ヲ指摘攻撃スルハ勿論指導者ノ譴責交迭ヲ行ヒ又本年內ニ一般的清黨ヲ行フ旨ヲ宣言シ以テ黨員ノ規律ノ向上ヲ圖リ計畫實行ノ責務ヲ果サシメントスル等ノ手段ヲ採レルカ其ノ最モ關心ヲ拂ヘルハ言フ迄モナク重工業中石炭及製鐵ノ部門ナリ(五月二十八日ノ「モスカウエル、lundシヤウ」ハ右二部門ノ不成績カ重工業生産増加計畫ノ達成セサリシ主ナル原因ナリト説キ居レリ)即チ石炭ニ關シテハ主要採炭地タル「ドンパス」ニ對シ(一)本年四月八日附ヲ以テ「スターリン」「モロトフ」ノ連名ニテ採炭經營

在ソヴィエト聯邦日本大使館

方法改革ノ根本原則ヲ示シ次テ(二)五月二十一日附右兩名ノ連名ヲ

以テ右原則ニ基ク改革ノ具體的細則ヲ發表シ(其ノ要點ハ採炭ノ指導ヲ直接ナラシメタルコト及工夫ノ賃金ヲ増加シタルコトナリ

又(三)廣ク技術者ヲ募集シ技術力ノ充實ニ努力シ(四)「ボリトビユーロー」ヨリ同地方ニ「カガノウイツチ」ヲ派遣シ更ニ製鐵ニ關シテハ本年二月重工業人民委員「オルジョニキーゼ」自ラ各地工場ヲ視察シ多數ノ指導者ヲ交迭スル所アリタリ

四、前記ノ如ク本年度工業生産計畫實行ノ成績カ豫定ニ達セサルコトハ計畫自体カ餘リニ老大ナルニ依ルハ言フ迄モナキ處ナルモ直接ノ障害ヲ爲セル主ナル原因トシテ(一)經營上ノ所謂「ビユーロークラチズム」(二)生産發達ノ不均衡(三)技術者ノ幼稚及技術力ノ不足(四)

在ソヴィエト聯邦日本大使館

物資缺乏ニ依ル労働力ト労働心ノ減退及労働ノ移動ヲ舉クルコトヲ得ヘシ右ノ中(一)ノ所謂「ビューロークラチズム」ハ例ヘハ上級官廳ニ於テ其ノ所轄工場ノ支配人ノ生命ヲスラ知ラス下級機關ニ於テハ所謂机上ノ指導ヲ従業員ニ與フルニ過キサルカ如キ事例ヲ指スモノニシテ前記「ドンパス」炭坑ノ經營方法改革ニ於テ指導ヲ直接的ナラシメタルハ指導者ヲシテ生産ノ實際ニ通セシメスル「ビューロークラチズム」ノ弊害ヲ矯正センカ爲メナルカ如シ(二)ノ生産發達ノ不均衡トハ例ヘハ「トラクター」工場竣成スルモ鐵乃至石炭ノ生産力計畫ニ達シ居ラサルカ如キヲ指スモノニシテ斯ノ如ク經濟部門相互間ニ於テ原料或ハ生産手段或ハ運搬手段ニ關スル連繫ノ不充分ナル爲著シク效率ヲ害セル實例乏シカラス

在ソヴィエト聯邦日本大使館

即チ製鐵ノ不成績ナル原因ハ「ゴークス」ノ供給不足ニ依ルカ如シ(三)ノ技術者ノ幼稚及技術力ノ不足ハ當局ノ最モ苦慮シ居レル點ノ一ニシテ其ノ生産發達上大ナル障害タルハ説明ノ要ナカルヘシ(四)ノ物資殊ニ食料品ノ不足カ労働力ト労働心ノ減退ヲ來シ生産率ノ向上ヲ妨クルモノナルコトモ今更説クノ要ナカルヘク(五)ノ労働ノ移動ニ付テハ前記「ドンパス」炭坑ノ經營方法改革ニ關スル決定ニ依レハ一九三二年中ニ同炭坑ヲ去レル労働者及勤務員數ハ四十二萬三千人ニシテ新タニ傭入レタル者四十萬八千人ニ達シ本年一月ノミニテモ同炭坑ヲ去レル者三萬二千人新タニ傭入レタル者三萬五千人ナリトノ趣ニシテ斯ル事態カ工業ノ發展ニ大ナル障害ヲ與フルモノナルハ言フ迄モナキ所ナリ之等ノ諸事由ハ革命後

在ソヴィエト聯邦日本大使館

ニ於ケル當國ノ社會的並ニ經濟的機構ノ爲ニ生シタルモノト見ルヲ得ヘク從ツテ當局カ之等ヲ矯正セント努力シ且焦慮ストモ俄カニ之等ヲ根絶シ是正スルコト困難ナルカ如シ
五茲ニ注意スヘキハ「スターリン」カ言ヘルカ如ク假令第二次五年計畫ノ生産増加割合カ從來ニ比シ減少ノ傾向ニアリトスルモ各部門ニ於ケル生産増加ノ絶對高ハ從來ニ比シ著シク向上セルノ事實ニシテ此ノ點ハ以上ニ述ヘタル計畫實行率ノ内容ヲ評價スルニ際シ特ニ留意スルヲ要スヘシ又右ノ外本年度ニ於ケル工業生産狀況ニ關シ注意スヘキハ第一次五年計畫ノ最後ノ年タル一九三二年末迄ニ竣工セサリシ諸工場カ漸次落成シ又落成セントシツツアルノ事實ナリ即チ例ヘハ本年五月末「ウラル」ノ「チエリヤビンスク」

在ソヴィエト聯邦日本大使館

ニ一年四萬臺ノ「トラクタ」(無限軌道式)生産ノ能力ヲ有スル工場ヲ竣成シ(極東特別軍司令官「ブリューヘル」及「カリニン」ハ共ニ右工場ノ竣工ヲ祝スル辭ノ中ニ於テ同工場ノ軍事的意義ヲ強調セリ又六月初旬「ドニエプル」ノ「コンピナート」ニ於ケル「アルミニウム」工場カ作業ヲ開始セルカ如キ其ノ主ナル例ニシテ右ハ最近「バクー」ノ南方「ロツク、バタイン」ニ大量ノ石油噴出セルニ至レルカ如キ當國カ天然ノ資源ニ富メルコトト共ニ工業生産ノ將來ニ關シ注意ニ値スル所ナリ因ニ當國ハ天然富源ノ化學的調査ヲ怠ラス本年ニ入りテモ中央亞細亞其ノ他ニ各種ノ調査團ヲ派遣セリ

六當局カ重工業ノ發達ト共ニ軍備ノ充實ニ力ヲ注キ居レルコトハ

在ソヴィエト聯邦日本大使館

言フ迄モナキ所ナルモ右ニ關シテハ徵スヘキ資料ナキ爲具體的數字ヲ舉クルコトヲ得サルカ本年一月ノ黨中央委員會及中央監督委員會合同總會ニ於テ「スターリン」ハ第一次五年計畫カ國防ノ充實ヲ其ノ重要目的ノ一ト爲セルコトヲ言明シ又「クイヴィシエフ」ハ今ヤ「ソ」聯邦ニ於テ各般ノ最新式武器ヲ製造スルヲ得ルニ至レル旨及飛行機ノ性能ノ如キハ最早ヤ資本主義國ニ劣ラサル旨ヲ述ヘタルコト並ニ「ヴォロシロフ」ハ本年三月ノ赤軍第十五紀念祭ニ於ケル演說中ニ於テ赤軍發達ノ歴史ヲ述ヘ五年計畫ニ於テ初メテ^(後)小銃、大砲、「タンク」、飛行機、通信、化學等ニ關スル軍備ヲ充實シ赤軍ヲシテ現代の軍隊タラシムルヲ得タル旨ヲ述ヘタルコト更ニ又本年ノ労働祭ニ當リ催サレタル閱兵式ニ於テ多

在ソヴィエト聯邦日本大使館

數ノ重爆撃機、巨大ナル「タンク」等ヲ含ム新式武器ヲ展示シ列席ノ外國武官ヲシテ驚嘆セシメタルコトノ如キハ注意ニ値スヘシ

第二 農業

一、第一次五年計畫ニ依ル農業ノ集團經營化強行ノ結果農産ノ漸減ヲ見タルカ右ハ(一)集團化ニ依ル農民ノ利害心換言スレハ労働心ノ減退(二)農民ノ離村ニ依ル労働力ノ不足(三)農耕ノ爲ノ家畜ノ不足(四)大農式農業機械ノ不足即チ農業機械化ノ未完成(五)集團經營ノ日淺ク其ノ内部組織ノ不完全ナルコト等換言スレハ急激ナル集團化ノ爲農村著シク混亂シ且疲弊セルニ加ヘ農民ノ意識不足ニ基ク集團經營ノ基礎薄弱ナル)ニ依ルモノト觀測セラル政府及共產黨ノ要路者ハ右ノ如キ事態ニ鑑ミ且當國本年度農作ノ成績如何ハ第一次五

在ソヴィエト聯邦日本大使館

年計畫強行ノ結果起生セル日用物資殊ニ食料品ノ缺乏ト之ニ伴フ
人心ノ不安トヲ匡救緩和シ該計畫ノ成果ヲ充實運用シ得ル程度ヲ
決スヘキ一大要因ナルニ鑑ミ本春以來農作振興ノ爲凡ユル努力ヲ
竭シ來レリ即チ各種ノ會議ニ於テ集團經營ノ爲矯正スヘキ缺陷ヲ
指摘スルノ外種々ノ決定ヲ發布シ或ハ集團經營ニ政治部ナル共產
黨ノ指導監督機關ヲ設ケ或ハ集團經營内ノ支拂制度ヲ改正シ或ハ
穀物ノ現物納付義務及其ノ額ヲ定メ或ハ「トラクター」ノ修理及
家畜ノ取扱方ニ付詳細ナル規定ヲ設ケタルカ他面「モロトフ」、
「カリーニン」、
「ヤコブレフ」(農務人民委員)等ハ各地ニ
出張シテ農村ヲ激勵シ又本年中ニ一般的清黨ヲ行フ旨ヲ宣言シ以
テ農村ニ於テモ黨員ノ規律ヲ振肅シ計畫ノ實行ニ努力セシメ居レ

在ソヴィエト聯邦日本大使館

ルカ今日迄ノ情勢ニ付諸般ノ情報ヲ綜合スルニ播種面積ハ大体豫
定ノ通り一億三千三百五十萬「ヘクター」、其ノ中穀類一億〇百
六十萬「ヘクター」(昨年度ハ一億三千三百六十萬「ヘクター」
其ノ中穀類九千八百九十萬「ヘクター」ナリシヲ以テ右ニ比シ本
年度ハ總面積ニ於テ少キモ穀類ニ付テハ増加シ居レリ)ニ達シタ
ル趣ナルノミナラス作柄ハ各地方共大体天候順調ナリシ爲穀物、
亞麻、甜菜其ノ他概シテ良好ナルカ如ク歐露ノ北部「ウラル」、
「カザクスタン」方面特ニ良好ナル模様ニシテ就中果實瓜類ノ如
キハ「ソヴィエト」治下ニ於テ始メテ見ル豐作ナリト稱ヘラル
ニ然ルニ農業ニ於ケル指導的活動ハ第一冬季ニ於ケル春蒔用耕耘第
二種子ノ蒐集第三春蒔第四刈入第五打穀第六買付ニ細分スルヲ得

在ソヴィエト聯邦日本大使館

ル處本年度ニ於ケル當局ノ努力ハ右第二ノ種子蒐集ニ始マリ目下
刈入期ニ入ラントスル次第ナルカ從來農産向上ノ障害ヲ爲セル前
記諸事項ハ未タ全ク矯正セラレ居ラサルノミナラス（例ヘハ政府
及黨ノ幹部カ地方出張ニ際シ集團經營内ニ今尙所謂「階級ノ敵」
アル旨ヲ強調シ居レルハ集團經營内ニ怠業乃至當局ノ措置ニ反抗
スル策動ヲ爲スモノアルヲ物語ルモノト云フヘシ）播種ニ付テモ
其ノ面積ノ關スル限り計畫通り實行セラレタリトスルモ或ル地方
ニ於テハ播種粗笨ニ過キ或ハ雜草排除作業ノ充分ナラザル事情ア
ル趣ナルニ付實收穫ニ付テハ之等ノ點ニ付多少ノ斟酌ヲ加フルノ
要アルヘク又今後尙刈入、打穀、買付等ノ諸問題ヲ控ヘ居レルカ
刈入ニ關シテハ五月二十四日附又穀物ノ交付方法ニ關シテハ六月

在ソヴィエト聯邦日本大使館

二十日附ヲ以テ「スターリン」「モロトフ」ノ命令ノ下ニ詳細ナ
ル指令發セラレ更ニ卑近ナル例ヲ舉クレハ食料品缺乏ノ結果農民
カ穀物ノ新芽ヲ食スル爲當局ハ之ヲ警戒スル爲六月末農務人民委
員部ノ訓令ヲ以テ集團農業ノ各地區ニ晝夜見張番ヲ置クヘキコト
ヲ命セル等當局ハ之等ノ方面ニ於テモ萬全ヲ期セント努力シ居レ
リ然シ乍ラ穀物ノ買付ニ付當局ハ農民ノ穀物納付ヲ納稅的義務ト
爲セル結果穀物ノ上納ヲ從來ニ於ケル買付契約時代ヨリモ更ニ
強行スヘク而モ右穀物ノ納付ハ最初ノ收穫ヲ以テ之ニ充ツヘキ旨
命令セルニ鑑ミ此ノ點ニ關スル農民ノ不平從テ當局及農民間ノ衝
突ノ可能性ノ如キ相當考慮ニ入ルル要アルモ要スルニ今後一二ケ
月ノ間ニ於テ長雨其ノ他天候上ノ異變ナキ限り平年作ヲ下ルコト

在ソヴィエト聯邦日本大使館

ナカルヘク從テ右ハ當局ノ熱心ナル努力ト相俟チ現下ノ難局ヲ相當緩和スルニ至ルニ非スヤト觀測セラル

三、尙本年度上半期ニ於テ「トラクター」カ計畫ニ從ヒ着々増産セラレ居ルノミナラス「チェリヤビンスク」ニ一大新「トラクター」工場ノ竣成シ既ニ其製品ヲ出スニ至レルコトハ農業集團經營ノ成敗ニ關スル一大重要要素タル農業ノ機械化ノ發達ヲ約スルモノトシテ將來ニ於ケル當國農産ノ見地ヨリ大イニ注意ニ値スヘシ因ニ現在農村ハ十二萬臺餘ノ「トラクター」ヲ有スルニ過キスシテ「トラクター」ノ作業ハ未タ全集團經營ノ半數ニ及ハサル處本年度ニ於テハ約六十萬臺ノ「トラクター」ヲ農村ニ供給スル豫定トナリ居レリ

在ソヴィエト聯邦日本大使館

第三 財政

一、「ソ」聯邦ノ社會主義經濟建設ニ關スル財政策ノ樞軸ヲ爲スモノハ(一)公共化經濟部門ヨリノ收入及同部門ニ於ケル利益蓄積ノ利用ト(二)一般國民資源ヨリノ資金調達ニ存スルコトハ屢次報告ノ通ニシテ本年度ノ「ソ」聯邦ノ單一國家豫算ノ歲入總額三百五十億餘留中其ノ八割四分ハ公共化經濟部門ヨリ受入レ僅ニ殘餘ノ一割六分ヲ國民資源及其ノ他ノ財源ニ求メ斯クシテ調達スル資金ノ大部分ヲ社會主義經濟ノ經營並ニ其ノ建設及發展ニ投下充當セントスルニ徴シテ明カナリ而シテ這般ノ現象ハ社會主義經濟建設ノ益々進捗スルニ伴ヒ愈々顯著トナリツツアルカ右ハ「ソ」聯邦國民經濟ノ社會主義的建設ノ過程タル第一次五年計畫ノ進行ニ伴ヒ私

在ソヴィエト聯邦日本大使館

經濟部門ハ撲滅セラレ國民經濟ノ各分野ハ今ヤ殆ント公共化セラレ之カ爲ニ國家及地方財政ハ勿論各種經濟部門ノ財政經濟機構ノ上ニ重大ナル變化ヲ生シ又ハ生シツツアルコトヲ如實ニ示スモノナリ

從テ本年度ノ國家豫算カ支障ナク實行セラルルヤ否ヤハ第二次五年計畫ノ第一年度ノ計畫實現ノ運命ヲ決スルモノナルカ豫算ノ實行如何ハ復ターニ公共化經濟部門カ豫定通り計畫ヲ實現シ得ヘキヤ否ヤニ懸ル處共產黨及政府ハ公共化經濟部門ノ生産計畫ノ實行ニ努ムルト共ニ(イ)管理經營費ノ節減(ロ)建設費ノ低減(ハ)運輸費ノ輕減(ニ)物資流通費ノ減少(ホ)計畫外ナル建設費及賃銀基金ノ支出ノ嚴禁等ニヨリ經費ノ減少ヲ期シ之カ爲ニ(一)歲出入豫算ヲ嚴重ニ履行

在ソヴィエト聯邦日本大使館

シ(二)信用財政規律及獨立採算主義ヲ恪守シ(三)各經濟機關相互間ニ於ケル契約ノ履行ヲ確保スルト共ニ(四)計畫外ノ建設ヲ禁止シ以テ本年度ノ國家豫算ノ實行ヲ確保セントシツツアリ

ニ、第一次五年計畫ノ實行ニ付テハ重工業ニ主力ヲ傾注シ「人力」タルト「留」タルト其ノ犧牲ノ如何ヲ問ハス最短期間ニ建設ヲ了シテ經營ヲ開始スルニアリタルヲ以テ自然數量的方面カ重視セラレ品質的方面ヲ顧ミルノ邊ナク又輕工業方面閑却セラレタル關係上一般工業消費品ノ製産豫期ノ如ク増加セス更ニ農業集團化強行ニヨリ農民ノ反感ヲ買ヒ農業生産減少ヲ來シタルカ右ノ結果トシテ(一)勞働者及勤務員ハ益増加スルニ拘ラス(二)一般物資ノ供給之ニ伴ハス第一次五年計畫ノ最終年度ニ至リテハ未曾有ノ物資窮乏難ニ

在ソヴィエト聯邦日本大使館

陷リ(三)爲ニ勞働者ノ移動盛ニ行ハレ各種機關ノ活動ハ甚シク阻害
セラレ經濟財政規律紊亂シ事業經營ノ基礎動搖スルニ至レリ此ノ
間國民經濟ノ急需ニ應スルカ爲ニ國家財政ハ急源激ニ膨張シ國家
財政ニ對スル重壓ハ刻々増加シ「ソ」聯邦ノ國民經濟ノ發展ニ暗
影ヲ投セルカスカル國家財政ニ對スル重壓ヲ緩和シ國民經濟ノ堅
實ナル發展ヲ期センカ爲新ニ財政經濟政策ノ建直ヲ必要トスルニ
至レリ之レ第一次五年計畫ヨリ第二次五年計畫ニ移ラントスル前
後ノ「ソ」聯邦ノ一般財政經濟ノ情勢ナリ

三、第一次五年計畫ノ遂行ニ付テハ如何ナル犠牲モ考慮スル處ナク之
ヲ強行スルニアリタルコトハ前記ノ通ナルカ之ヲ「ソ」聯邦當局
發表ノ二三數字ニ徴スルニ第一次五年計畫ノ期間(四年三ヶ月間)

在ソヴィエト聯邦日本大使館

ニ社會主義經濟建設ニ投下セラレタル資金ハ無慮千百六十億留(一
計畫超過額三百億留)ニ達シ此ノ間勞働者及勤務員ハ大約千二百
萬人ヨリ千八百萬人ニ増加シ又千九百二十八年ニハ八十億留ナリ
シ貨銀基金ハ千九百三十三年ニハ三百十億留ニ激增セルカ一般國
民經濟ノ膨張ニ伴ヒ國家豫算モ増加シ千九百二十八―二十九年度
ニハ約八十一億留ニ過キサリシカ千九百三十二年度ニハ二百七十
五億餘留ニ達シ本年度ニ於テハ前記ノ通り三百五十億餘留ヲ算ス
ルニ至レルカ他方通貨モ膨張ノ一途ヲ辿リ千九百二十八年一月
一日現在ノ通貨總額十七億六千七百萬餘留(內財務人民委員部發
行額六億六千四百餘萬留)ハ千九百三十二年七月一日ニハ六十一
億八千三百萬餘留(內財務人民委員部發行額三十二億五千七百餘

在ソヴィエト聯邦日本大使館

萬留）ニ増加セリ

而シテ通貨ノ膨張並ニ急激ニ増加シタル労働者及勤務員數ト賃銀トノ増加ニ伴ヒ一般物資ニ對スル需要モ從テ増加シツツアルカ之ニ對スル供給伴ハサルコト前記ノ通ナル處斯ノ如ク急激ニ増加セル物資ニ對スル需要ト相對的ニ減少セル供給ノ「バランス」保持策トシテ黨及政府ハ「ソヴィエト」商業（國營商業「*ゴスプラン*」ホルズ」商業）ヲ獎勵シ所謂「ソヴィエト」物價政策（客年機密第四五號參照）ヲ勵行スルト共ニ他面大衆公債ノ募集（本年募集ノ三十億留ノ外已ニ募集シタル總額ハ約七十九億留客年公第二三七號參照貯金ノ獎勵（貯金局ノ資金吸收額一月現在額一九二九年三億三千五百餘萬留一九三二年十一億六千九百餘萬留一九三三年十四億二

在ソヴィエト聯邦日本大使館

千餘萬留）鐵道賃金ノ引上ヲ初メ國家ノ役務ニ對スル料金増加等

ノ政策ヲ採用シテ供給十分ナラサル物資ト横溢セル通貨ト激增セル物資需要トノ間ノ權衡支持ニ努力シ來レリ然レトモ一般消費品ノ製産及農業生産品ノ増加カ急激ナル物資ニ對スル需要ニ相應セサル限リ「ソヴィエト」商業モ物資配給ノ圓滑ヲ期スルコトヲ得ス又堅實ナル通貨ノ増發止マサル限リ大衆公債ノ募集モ將又貯金ノ勸奨モ通貨收縮上所期ノ效果ヲ齎スコト能ハス國家及各經濟機關ハ更ニ益々財政難ヲ加フルニ至レリ

四「ソ」聯邦ノ國民經濟發展ノ現階段ニ於テ其ノ社會主義經濟建設ノ原動力ヲ爲スモノハ「人力」ト「留」ナリ而シテ社會主義經濟建設ニ從事スル人力ニ對シテハ國家ハ最少限度ノ生活必需品ノ供

在ソヴィエト聯邦日本大使館

給ヲ保障シ居レルカ「ソ」聯邦ノ經濟ニアリテハ留ハ金準備ニヨ
リテ保障セラルルモノニアラスシテ事實上國家ノ保有スル物資ニ
ヨリテ保障セラルルモノナリ此ノ意味ニ於テ留ハ物資ニ對スル引
替證タル性質ヲ有スルモノナルニ付物資ノ増加ヲ見ル限リ幾何ニ
テモ増發シ得ヘキモノナリ然レトモ社會主義經濟建設ニ投下セラ
レタル留カ公共化經濟部門ヨリ一度ヒ一般消費部門ニ流出スル曉
ニハ難テ國家ニ對シ物資要求ノ増加トナリテ具現スヘシ而シテ此
ノ場合ニ於ケル留ノ使用價值ハ留保持者ノ社會的地位ニヨリテ異
ルモノナルカ特ニ勞働者ト農民トノ間ニ於テ大差アルコトヲ看過
スヘカラス（客年十二月三十一日附機密公第四六五號最近ニ於ケ
ル「ソ」聯邦ノ財政及一般經濟狀況ノ九參照）

在ソヴィエト聯邦日本大使館

留カ公共化經濟部門ヨリ一般消費部門ニ流出スル經過ハ（一）都市ニ
於テハ主トシテ勞働者及勤務員ニ對スル賃銀ノ形式ニ於テ（二）地方
農村ニ於テハ主トシテ（イ）農產品ノ買付（ロ）工場又ハ運輸等ニ季節的
ニ從事スル農民ニ對スル報酬支拂ノ形式ニ於テ行ハルルモノナル
カ（一）國家カ或ル程度迄物資ノ供給ヲ統制シ得ル都市ノ消費部門ニ
流入スル留ノ統制ハ比較的容易ナルモ（二）農村ニ流入スル留ノ統制
ハ國家カ農村ニ對シ十分ナル物資ヲ供給スルコト能ハサル限リ極
メテ困難ナルカ（三）更ニ留ハ自由市場ニ於ケル農業生産品等ノ販賣
ニヨリ國家ノ統制ヲ離レ一般消費部門ヨリモ農村ニ流入スルカ故
ニ農村ニ流入スル留ハ漸次其ノ彈力性ヲ喪ヒ農村ハ恰モ留吸收ノ
海綿体ノ如キ觀ヲ呈シツツアリ然レトモ農村ニ流入シ得ヘキ留ノ

在ソヴィエト聯邦日本大使館

數量ニモ自ラ養^依度アリ又農村ニ流入セル留ハ早晚物資ニ對スル需
要ノ形式トナリテ國家ニ提示セラルヘク理論上此ノ場合國家ハ國
定價格ヲ以テ供給セサルヘカラサルモ物資供給上極度ニ制限セラ
レ居ル現在ノ「ソ」聯邦ノ經濟狀態ニ於テ國定價格ニヨル物資供
給ノ門戸ハ堅ク一般農村ニ對シテ閉鎖セラレ居レリ故ニ農村ニ於
ケル留ノ横溢ハ農民ノ實物尊重トナリ又留ノ拒否トナリ表面化シ
ツツアルカ第一次五年計畫ノ最終年度ニ至リテハ農村ハ留ノ飽和
狀態ニ陥リ留ハ最早農業生産ノ増加ヲ刺戟スル能ハサルニ至レル
コトハ農村ノ現情ノ示ス所ナリ

五「ソ」聯邦ノ社會主義經濟ノ發展カ農業ノ發展ニ立脚セサルヘカ
ラサル理由アルコトハ今日ト雖モ何等變化ナキ處ナルカ農業ノ發

在ソヴィエト聯邦日本大使館

展ヲ圖ラントセハ先ツ留ノ購買力ヲ向上セシメ農業生産ノ増加ヲ
刺戟スルコト必要ナルカ之カ爲ニハ財政上(一)農村ニ流入スル通貨
ヲ抑止スルト共ニ(二)農民ノ通貨拒否ニ對シ安全辨ノ作用ヲナスヘ
キ一般消費品ヲ農村ニ流入セシムルコトヲ盛ナラシメサルヘカラ
ス第一次五年計畫ヨリ第二次五年計畫ニ移リタル前後ニ亘リ(一)各
工場又ハ機關カ相次テ附屬ノ農園(コルホーズ)ヲ經營シ又工場
ハ「コーベラチヴ」ノ配給以外ニ自カラ買付ニヨル自給配給ヲ開
始シ(二)政府カ農業生産品ノ買付契約制度(「コントラクタツイヤ」)
ヲ廢止シ現物收納制度ヲ採用シ又(三)建設又ハ運輸關係事業ニ使用
スル農民ノ數ヲ減少シツツアル等ハ何レモ這般ノ傾向ヲ示スモノ
ナルカ他面(四)都市ニ於テハ勞働者及勤務員數ノ減少(五)行政管理費

在ソヴィエト聯邦日本大使館

(本年度節減額三億五千萬留)ノ節減等ニ努力シ彼此相俟ツテ國家財政ヲ堅實ナラシメントシツツアリ

六、前記ノ通り黨及政府ハ從來ノ政策ヲ變更シ第二次五年計畫ニ入ルニ際シ社會主義經濟建設ノ速度ヲ緩和スルト共ニ(一)工業方面ニ於テハ輕工業ニモ力ヲ注キ計畫實行上生産能率ノ増加生産費減少等ノ品質的方面ニ重キヲ置キ(二)農業方面ニ於テハ集團化ノ強行ヲ中止スルト共ニ農村ニ對スル一般消費品ノ流入増加ヲ策シ(三)事業經營ニ對スル財政規律ヲ振興シ事業ノ「レンタビリチイ」ヲ確保スル爲獨立採算主義ヲ嚴格ニ適用シ以テ事業ノ經營發展ノ基礎ヲ鞏固ナラシメ(四)労働者及勤務員ヲ減少シ(五)行政管理費ノ節減ニ努力スル一方(六)大衆公債三十億留ヲ募集シ以テ國家財政ニ對スル重壓

在ソヴィエト聯邦日本大使館

ノ緩和ヲ圖リ本年度ニ於テ労働ノ生産力ヲ一割四分増加シ生産費ヲ三分九厘方低下セシメ此ノ間ニ國家財政ニ對スル新財源ヲ求めントシツツアルカ之ヲ國家財政上ヨリ觀察スレハ漸次堅實ナル道程ヲ辿リツツアルモノト謂フコトヲ得ヘシ

本年七月一日現在ノ通貨總額ハ六十八億二千五百餘萬留(内國立銀行發券額三十三億五千六百餘萬留財務人民委員部發行額三十四億六千八百餘萬留)ナル趣ナルカ(七月二十一日及八月一日「エコノミチ」チエスカヤジーズニ)國民經濟ノ發展ニ比較シ又從來ノ通貨ノ増發ノ割合ニ鑑ミ其ノ膨張ノ程度ハ慎重ナリト謂フヘク又國家豫算收入中ノ大部分ヲ占ムル公共化經濟部門ヨリノ收納金ノ本年上半期ノ實績ハ財務當局ノ發表スル處ニヨレハ(四月十二

在ソヴィエト聯邦日本大使館

日及七月九日「エコノミチエスカヤ、ジーズニ」第一期ハ一〇
 二、五％第二期ハ一〇四％ニ達シ計畫ヲ超過實行シタル由ナルカ
 本年度上半期ニ於ケル國家豫算歳入ノ実績ヲ客年ノ同期ト比較對
 照スレハ左ノ如シ（八月二十九日「エコノミチエスカヤ、ジーズ
 ニ」）

一九三三年度				一九三二年度			
豫算計上額		上半期ノ実績比		豫算額		單位百萬留 上半期ノ実績比	
		率				率	
一、總收入額		三〇、九二六、一六、一九二、五二、四二、三、九四二、一、二、二〇、九五一、					
内公共化		經濟部門		二六、六三一、一三、九九一、五二、二〇、三四四、一〇、八九九、五三、六			
ヨリ受入		右ノ内取引		稅及特別商		品基本	
二、八四九、一一、八四〇、五四、一一、四、六四一、八、一七〇、五五、八							

在ソヴィエト聯邦日本大使館

民間資源 ノ調達額	三、五三二	一、五五二、四三、九	三一、五四	一、〇七九、三四、二
三、其ノ他	七六三	六四九、八五一	四四四	二三一、五二、〇

右ハ歳入ノ部ノミニシテ歳出ノ狀況尙判明セサルヲ以テ國家豫算
 遂行ノ実績ノ全班ハ未タ判斷スルコト能ハサルノミナラス公共化
 經濟部門ノ財政經濟狀態ノ思ハシカラサルコトハ各新聞雜誌ニ揭
 載セラルル記事論說ニヨリテモ其ノ一斑ヲ察知シ得ラルルカ重工
 業部門ニ於テハ其ノ大宗タル黑色金屬及石炭ノ部門ノ成績舉ラス
 輕工業部門ニ於テモ亦豫期ノ通り製産増加セス運輸部門依然振ハ
 ス更ニ計畫外ノ賃銀ノ支出尙盛ニ行ハレ又運轉資金ト固定資金ト
 ノ混淆矯正セラレス從テ各種經濟機關ノ事業經營ハ今尙概シテ堅

在ソヴィエト聯邦日本大使館

疾
ナラサルモノノ如ク本年度ヲ以テ最終ノ困難ナル年度タラシメ又
「コルホーズ」員ヲ裕福ナラシメントスル希望カ實現スルヤ否ヤ
未タ豫斷ヲ許ササルモノト謂フヘク從來所謂採算ヲ無視シ放慢ナ
ル經營ニ流レタル各經濟機關ノ事業活動ヲ採算主義ニ基キ堅實ナ
ル基礎ノ下ニ經營セシメムトスルコトノ困難ナルハ云フ迄モナキ
處ナルヲ以テ生産費ノ減少生産能率ノ増進ノ如キ將又物價ノ引下
ハ勿論事業ノ「レンタビリティ」ノ如キ尙長ク將來ノ問題トシテ
殘ルヘシト雖モ國家豫算ノ嚴重ナル實行ト國立銀行ノ信用制度ノ
峻烈ナル監督ノ續行セラルル限り漸次各種經濟機關ヲシテ這般ノ
問題解決ノ方向ニ向ハシムルニ至ルヘキカ本年度ノ好良ナル農作
ハ更ニ之ヲ助長セシムルコト尠ナカラサルヘシ

在ソヴィエト聯邦日本大使館

第四 貿易

一 本年度上半期ノ「ソ」聯邦ノ外國貿易ハ輸出二億二千四百五十七
萬二千留（此ノ數量六百八十五萬一千噸）輸入一億九千九十一萬
四千留（此ノ數量五十六萬八千噸）計四億一千五百四十八萬六千
留ニシテ前年同期ノ六億八千四十三萬三千留ニ比較シ三割九分ノ
減少ヲ示シ又輸出入別ニ於テハ輸入ハ半ハ以下ニ激減セルコト左
記（イ）ノ通ナルカ貿易「バランス」ニ於テハ千九百二十九年以來初
メテ三千三百六十五萬八千留ノ出超ヲ示シ又輸入品ノ内容ニ付テ
ハ一般消費品ノ輸入ハ極度ニ制限セラレ大部分ハ工業化及農業集
團化ニ必要缺クヘカラサルモノナルコト左記（ロ）ノ通ナリ

在ソヴィエト聯邦日本大使館

		一九三二年上半期		一九三三年上半期		比較増減 百分比率
輸出	數量	七二〇九	千噸	六八五一	千噸	五減
	金額	二七五一六〇	千留	二二四、五七二	千留	一八、四減
輸入	數量	一、〇四二		五六八		四五、四減
	金額	四〇五、二七三		一九〇、九一四		五二、九減
輸出入總額		六八〇、四三三	千留	四一五、四八六	千留	三九減
貿易尻		一三〇、一一三	(入超)	三三、六五八	(出超)	
(イ) 輸入品ノ内譯大別 一九三二年上半期 一九三三年上半期						
品目	數量	價格	數量	價格		
食料品、飲料品及煙草	一九七、三四六	噸	三三、六二八	千留	二五、九三一	噸
動物及動物製品	二八、八一八		一四、三九八		二二、二七六	一〇、七八〇

在ソヴィエト聯邦日本大使館

木材、植物種子等	三、四五一	一、〇六六	二、八九二	四七三
建築材料	六七、一八一	三、九五四	五、二七一	九〇二
燃料等	七二、九七八	七、七〇〇	一三、八六四	二、二八六
化學製品、藥品等	一七、四一二	五、六一五	八、六〇七	二、七一三
鑽石、金屬及金屬製品	五八三、〇二二	二五八、二九九	四四七、四九三	一三四、六二七
電氣裝置品及科學用器具	二九、七一	五〇、九四八	一三、七五一	一五、七二〇
紙、原紙等	一、二四三	七〇五	一、八四九	四〇四
纖維及纖維製品	四一、一九八	二九、九三七	二八、四九九	一四、五二四
其ノ他	二四	二三	一〇	九三
計	一、〇四二、三八三	四〇五、二七三	五六八、四四三	一九〇、九一四

在ソヴィエト聯邦日本大使館

ニ世界諸國ノ外國貿易ノ激減ハ世界的不況ニ基因スルモノニシテ「ソ」聯邦ト雖モ亦其ノ例外ヲナスモノニアラスト雖モ本年上半期ノ外國貿易ノ激減ハ(一)對外支拂決済上輸入ヲ手控フル必要アリタルコト(二)世界的不況ニ基ク輸出價格カ一般ニ低下シタルコト(三)「ソ」聯邦ノ對外貿易ハ多クハ貿易定量主義(「コンチンゲント」)ノ基礎ニテ行ハルルモノナルカ故ニ輸入ノ手控ハ自然輸出ノ減少トナリタルコト(四)更ニ後記ノ通り依然トシテ其ノ對外貿易カ政治的考慮ニ依リテ支配セラルルコト等ノ事由ノ外ニ(五)第二次五年計畫ノ第一年度ニ於テハ工業化ノ速度ヲ緩和シタルト共ニ(六)他方第一次五年計畫實行ノ結果國內工業發達シタルコト等モ亦輸入減少ヲ可能ナラシムル原因トナリタルモノト認メラル

在ソヴィエト聯邦日本大使館

三、「ソ」聯邦ノ工業化ノ進展ニ伴ヒ所謂經濟的獨立ノ聲ハ漸次「ソ」聯邦ノ關係當局者ニヨリ唱道セラレ從來「ソ」聯邦製品ヲ以テ外國品ニ代フヘキ旨發表セラレタルコト一再ナラス更ニ本年二月下旬重工業人民委員「オルジョニキゼ」ハ器械類ノ輸入額ヲ二千百萬留削減スヘキ命令ヲ發シタリト雖モ右等ハ主トシテ輸入削減ノ必要ニ迫ラレタルモノト見ルヲ至當トスヘク第一次五年計畫ノ實施期ヲ終リタル今日ト雖モ「ソ」聯邦ニ於テハ尙「機械ハ外國製品、原料ハ「ソ」聯邦産」ノ域ニアルモノナルコトハ前記ノ通り輸入總額一億九千九十一萬四千留中鑽石金屬製品ノ輸入額カ一億三千四百六十二萬七千留ニ達シ居ルニ徴スルモ容易ニ判斷シ得ラルヘク將又今日外國品ノ輸入ヲ制限シテ「ソ」聯邦產品ヲ以テ工

在ソヴィエト聯邦日本大使館

業化及農業集團化ノ需要ヲ充ス可能性ニ付テハ當國當局ニ於テモ
疑問ヲ有スト傳ヘラルル處ナルカ右ハ例ヘハ本年外國貿易國家獨
占制度採用十五年紀念日ニ當リ外國貿易人民委員「ローゼンゴリ
ツ」カ其ノ演說中ニ於テ「ソ」聯邦ニ對スル輸出ニ付テハ長期信
用ノ附與殊ニ商品信用ヨリモ財政信用ノ附與ノ必要ヲ説キ又「リ
トヴィノフ」カ倫敦經濟會議ニ於テ「ソ」聯邦ノ對外注文ヲ獲得
セントセハ長期信用附與ノ必要アル旨ヲ強調セルニ鑑ミテモ其ノ
一斑ヲ窺知セラルル次第ニシテ輸入ノ制限ハ「ソ」聯邦工業化ノ
發達ニ相當ノ障害ヲ與フヘキモノナルコト明カナリ
四上半期ニ於ケル主要ナル諸國トノ輸出入貿易狀況ヲ擧グレハ左ノ
如シ

在ソヴィエト聯邦日本大使館

國名	輸 出	輸 入	輸出入總額
獨逸	一九三二年 一九三三年 一九三三年 一九三三年	一九三二年 一九三三年 一九三三年 一九三三年	一九三二年 一九三三年 一九三三年 一九三三年
英 國	一九三二年 一九三三年 一九三三年 一九三三年	一九三二年 一九三三年 一九三三年 一九三三年	一九三二年 一九三三年 一九三三年 一九三三年
支 那	一九三二年 一九三三年 一九三三年 一九三三年	一九三二年 一九三三年 一九三三年 一九三三年	一九三二年 一九三三年 一九三三年 一九三三年
蒙 古	一九三二年 一九三三年 一九三三年 一九三三年	一九三二年 一九三三年 一九三三年 一九三三年	一九三二年 一九三三年 一九三三年 一九三三年
伊 太 利	一九三二年 一九三三年 一九三三年 一九三三年	一九三二年 一九三三年 一九三三年 一九三三年	一九三二年 一九三三年 一九三三年 一九三三年
佛 國	一九三二年 一九三三年 一九三三年 一九三三年	一九三二年 一九三三年 一九三三年 一九三三年	一九三二年 一九三三年 一九三三年 一九三三年
白 耳 義	一九三二年 一九三三年 一九三三年 一九三三年	一九三二年 一九三三年 一九三三年 一九三三年	一九三二年 一九三三年 一九三三年 一九三三年
波 蘭	一九三二年 一九三三年 一九三三年 一九三三年	一九三二年 一九三三年 一九三三年 一九三三年	一九三二年 一九三三年 一九三三年 一九三三年
米 國	一九三二年 一九三三年 一九三三年 一九三三年	一九三二年 一九三三年 一九三三年 一九三三年	一九三二年 一九三三年 一九三三年 一九三三年

在ソヴィエト聯邦日本大使館

波 蘭	一七九六	一八八七	五〇七四	一三六五	六八七三	三二五九
和 蘭	九八七二	八八二九	四〇三二	一六九四	一七九〇	一〇五九
日 本	二八六四	二四一八	八七二	三二一〇	三七三六	五六一八
アフガニスタン	五二四五	八四六四	三三七三	五五八二	八六一八	一四〇四六
ラトヴィア	一八四二	八四八六	一二三	四〇九五	一九六五	一五五八一
希 臘	二六二五	二八九七	一九四	八二	二八一九	二九七九
西班牙	三〇一八	三二八〇	一八三	四	三二〇一	三二八四

在ソヴィエト聯邦日本大使館

前表ノ通り輸出入貿易關係ニ於テ獨逸依然第一位ヲ占メ約貿易總額ノ半ニ達シ英國第二次ニ位シ之ニ次クモノハ蒙古、支那、伊太利、佛蘭西、白耳義、和蘭、米國、波斯等ノ諸國ナリ而シテ「ソ」聯邦ノ對外貿易カ政治的考慮ニヨリ支配セラレ居ルコト尠ナカラサルハ前表ノ貿易額ノ示ス處ニシテ對英貿易ノ激減ハ英國政府カ採用シタル「ソ」聯邦品ノ輸入禁止ニ對スル報復措置ニ出テタルモノナルコト謂フ迄モナキカ波斯「ラトヴィア」等ノ諸國トノ間ノ貿易カ異常ニ減少シ對米貿易カ依然不振ヲ極ムルニ反シ波蘭トノ貿易カ増加シ蒙古、佛蘭西、希臘、伊太利等良好關係ニアル諸國トノ貿易關係カ略前年ト同様ノ趨勢ヲ維持シ若シクハ減少ノ程度緩和セラレ居ル如キハ注視スヘキ現象ナリ

在ソヴィエト聯邦日本大使館

然レトモ「ソ」聯邦ハ其ノ國策トシテ何レノ國トモ平和關係ヲ維持シ通商關係ノ發展ニ努メ以テ所謂社會主義經濟發達ノ營養ヲ資本主義諸國ノ經濟ニ求メツツアルモノナルカ本年春獨逸トノ間ニ一九三二年七月十五日ノ信用協定ヲ本年末迄延長シ更ニ本年二月ヨリ本年中ニ一億四千萬麻克ニ相當スル商品及地金ヲ「ソ」聯邦ヨリ獨逸ヘ輸出シ對獨支拂ニ充當スル協定締結セラレタルカ如キ又伊太利トノ間ニ信用及關稅協定成立シ又瑞典トノ間ニモ通商條約更新セラレタルカ如キ又「ソ」支國交回復ニ伴ヒ已ニ對支貿易カ好調ヲ示シツツアルカ如キ又波蘭トノ政治的良好關係カ兩國ノ通商經濟關係ニ反映シツツアルカ如キ何レモ「ソ」聯邦ノ對外商業政策カ平和關係ノ維持ト通商協定トヲ基調トシテ通商貿易關

在ソヴィエト聯邦日本大使館

係ノ發展ニ資セントスルモノナルコトノ證左ニ外ナラサルカ近時此ノ傾向益々顯著トナリツツアルコトハ注目ニ値スヘシ

在ソヴィエト聯邦日本大使館

通商局

E1-20.81-P1

公第
第九
九號

昭和八年十二月二日

在オデッサ

領事 出 中 文

外務大臣

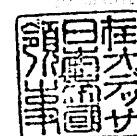
出 弘

殿



「ソ」聯邦國民經濟狀況ニ關スル件

本年七月ヨリ九月ニ至ル第三期ニ於ケル「ソ」聯邦國民經濟ノ大勢
別紙ノ通り茲ニ報告申進ス



昭和八年十二月廿六日接達

別紙

昭和八年十一月

「ソ」聯邦國民經濟ノ大勢

(一九三三年第三期)

在オデッサ領事館

在オデッサ日本領事館

在オデッサ日本領事館

E-0288

0133

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

目次

總説
農業

一、穀物收穫

(一)	ウクライナ	六
(二)	北高架索	八
(三)	中央黒土地方	一三
(四)	全聯邦ノ穀物刈倒成績	一四
(五)	打穀	一八
(六)	禾堆積	二三

在オデッサ日本領事館

(七) 收穫高
(八) 穀物ノ喪失

二、穀物徵集

三、工業原料作物及特殊作物ノ收穫

四、農業當局及農民ノ排機械的傾向及機械恐怖症

「トラクター」使用組織ノ改善法

五、「コルホズニキ」ハ裕福ニナルヤ

六、冬蒔物播種

七、本秋農事ノ結果

工業

二五
三一
三七
五〇
五七
六三
六五
七三
八八
九五

在オデッサ日本領事館

一、國營工業ノ總生産額	九五
二、重工業一般	九八
イ 製産、ロ 勞働生産力ノ増加	
ハ 重工業ニ於ケル「コスト」ノ低下	
三、建設工事	一一三
四、採炭	一一五
五、石油	一二〇
イ「アズネフチ」、ロ「グロズネフチ」	
ハ 其他ノ「トラスト」	
六、泥炭	一三一
七、製鐵	一三一
イ 銑鐵及鋼ノ製産、ロ 鑛石、ハ「コークス」	

在オデッサ日本領事館

八、有色金屬	一四三
イ 銅、ロ 亜鉛及鉛	
九、機械製造	一四八
イ 自動車及トラクター製造	
ロ 交通運輸機械ノ製造	一五二
ハ「ディゼル」製造	
一〇、輕工業	一五六
綿業	
一一、食品工業	一五九
イ 罐詰、ロ 煙草、ハ 漁業、ニ 製糖	
一二、工業徒弟學校學制ノ改正	一六六
一三、結	一六八

在オデッサ日本領事館

運輸

一、鐵道運輸

一七三
一七三

イ第三期運輸成績、口南露諸鐵道ノ業績不振
ハ車輛ノ不足、ニ「レール」ノ不足
ホ鐵道收入、ヘ鐵道建設

二、河川運輸

一八七

イ上半期ノ成績、口第三期実績

商業

一、商業

一九一
一九一

二、外國貿易

一九八

イ輸出入品、口穀物ノ輸出、ハ米棉ノ輸入
ニ波蘭及佛國輸入ノ躍進ト日本輸入ノ不振

在オデッサ日本領事館

財務

第三期財務計畫ノ実績
第四期財務計畫

二一二

結

二二〇

(終)

在オデッサ日本領事館

「ソ」聯邦國民經濟ノ大勢 (第三期)

總 說

本第三期國民經濟ニ對スル「ソ」聯邦當局注意ノ焦點ハ穀物收穫ニ集中セラレ農民ヲシテ天候ニ恵マレタル豐作ヲ遺漏ナク速ニ取入レシメ而シテ農民ノ義務的納入穀物ヲ出來得ル限り早目ニ且多量ヲ徵集シ以テ昨年來缺乏セル民食ノ危機ヲ救ハントシ之カ爲メニ當該關係「ソウエト」及經濟ノ機關ハ更ナリ黨員青年團員ヲ動員シ工場労働者及都市住民ヲ驅リ出シ村落ニ送り指導強制總ユル手段ヲ以テ收

在オデッサ日本帝國領事館

穫ノ成功ヲ圖レリ

七月半ニ至リ一般作物殊ニ麥類ノ作柄ハ近年稀ニ見ル豐穰ナルコト確メラレ爲メニ各方面ニ著シク活氣ヲ與ヘタリ收穫事業ハ農事労働者及牽引力ノ不足其他ノ困難アリタルモ昨年ニ比シ遙ニ順調ニ進捗シ之ト併行シテ行ハレタル穀物ノ徵集ハ初期ニ於テ特ニ豫定以上好調ニ行ハレ八月末ヨリ「テムボ」ハ漸次遅レタルモ十一月七日ノ國祭日迄ニ約九割ノ收納アリ「ウクライナ」其他主要地方モ完納又ハ之ニ近キ成績ヲ舉ケタリ

本春來兎角不成績ナリシ鐵道運輸ニ付テハ秋期穀物ノ輸送ヲ第一トシ燃料鑛石其他ノ貨物秋冬出廻期ニ對スル準備トシテ七月早々運輸組織及從業員ノ待遇改善ノ方法ヲ講シタル處右對策及當局ノ努力ハ

在オデッサ日本帝國領事館

九月ニ至リ漸ク効ヲ現ハシ相當ノ進歩ヲ見タリ

工業ハ昨秋以來農業振興ノ急ニ迫ラレテ閑却セラル、ノ傾アリシカ
採炭及製鐵ノ基本工業ハ六月以來各大炭坑及熔鑄爐並ニ製鋼工場間
ノ競争ヲ行ヒ九月迄ヲ一期トシ尙引續キ年末迄行フコト、シ又四月
決定ノ「ドンパス」炭坑ノ業務改善ニ關スル對策ノ結果モアリ本期
採炭ハ豫定ノ九割以上ノ成績ヲ舉ケ採油ハ「バクウ」油田ノ噴井油
増加ノ爲メ「グロズヌイ」油田ノ不成績ヲ補填シテ尙大體豫定ニ近
キ好成績ヲ示シ製鐵ハ建設工事カ全然進捗セサル爲メ豫定計畫通り
ノ製煉ヲナシ得サリシモ逐月増産シ且從來夏期製産減退ノ現象ハ無
ク本年ハ却テ夏期増産ヲ現ハシ採炭ノ同一現象ト共ニ工業ノ成功ト
稱セラル、ニ至レリ自動車及「トラクター」ノ製造ハ豫定以上ノ數

在オデッサ日本帝國領事館

3

量ヲ製出シ質的ニモ好成績ニシテ當局ハ工業發展ノ好例トシテ之ヲ

誇稱シツ、アリ然レトモ交通運輸機械製造ハ材料ノ不足及送達不良

ニ依リ車輛ノ製造遅レ殊ニ「レール」ノ不足甚タシ

軍事工業ハ非常ニ發達シ居ル模様ニシテ基本化學工業製品ノ増加及

一般製造工業及需要ニ對スル鐵鋼ノ不足等ハ其一端ヲ語ルモノナリ

輕工業食品工業ノ製産ハ可ナリノ成績ナルモ其製品不足ニシテ供給

配達ノ不調アリ國民ノ日常生活ノ困難ハ依然タリ

在オデッサ日本帝國領事館

4

農業

一、穀物收穫

二年來ノ農業ノ衰退、農村ノ悲況、民食ノ缺乏逼迫セル際穀物ノ收穫如何ハ「ソ」聯邦國民經濟ノ消長ノミナラス國勢ノ安危ニモ係ハルモノアリ昨冬來農事ノ振興ニ專念努力シ來レル黨部及「ソウエト」ノ中央及地方當局ハ全力ヲ動員シテ穀物ノ收穫ニ有終ノ効果ヲ收メントシ幸ニモ天候ニ恵マレ豐作ナリシヲ以テ大ニ力ヲ得テ更ニ盡カスル處アリタリ其結果收穫ノ業績ハ昨年ニ比シ著シク進捗シ幾分

在オデッサ日本帝國領事館

5

ノ刈殘シ取入レ未済ハアリタルモ昨年以上ノ成績ヲ得政府ニ對スル穀物モ買上法改正ノ措置ト相俟テ十月末迄ニ大體ヲ完了スルコトヲ得タリ

今左ニ主要農耕地方ノ收穫工程、全國收穫ノ成績ニ付記述スヘシ

(一) 「ウクライナ」

「ウクライナ」ニ於テハ七月早々收穫ニ取掛リ村落ニ於ケル勞働力ノ不足ニ鑑ミ重要ナラサル工場ヲ一時閉鎖シ其勞働者ヲ村落ニ向ケ尙足ラサル處ハ學生、軍人及市民ヲ派シ（「オデッサ」市ノ如キ此種手傳人ハ四萬人ト稱セラル）「ソウエト」當局及黨員之カ指導ニ當リタルカ氣候少シ遅レタル爲メカ刈倒ハ兎角順調ニ進捗セス八月

在オデッサ日本帝國領事館

6

一日迄ニ「ウクライナ」全般ニテ麥類刈倒地積農民部五三九三、六〇〇「ヘクタール」、收穫總地積ノ三八四%、各種「ソフホズ」四四九、一〇〇「ヘクタール」一二七三%、計五八二四七〇〇「ヘクタール」一三七二%ニシテ農事頽廢セル昨年同期ノ八百十九萬千六百「ヘクタール」一五、九%ニ比シ及ハサルコト甚タシク一九三一年同期ノ千三百八十一萬三千「ヘクタール」一七七一%ノ半分ニモ及ハス「ウクライナ」南部ノ穀物早熟地方ニ於テハ「オデッサ」州ハ八月一日現在昨年ノ七五三%ニ對シ五八八%、「ドネプロベトロフスク」州ハ八四五%ニ對シ六、四%、「ハリコフ」州ハ五二、四%ニ對シ三、六%昨年最不成績ナリシ「キエフ」州ニ於テサハ昨年ノ二九一%ニ對シ二、七%、「ウインニツア」州ハ三〇、三%ニ對シ一、二%ナリ而モ日

在オデッサ日本帝國領事館

ヲ經ルニ從ヒ其「テムボ」ヲ低下スルモノアリタリ之ヲ以テ八月聯邦農務人民委員「ヤコブレフ」ノ巡視アリ「オデッサ」ニハ十五日來著シ當局モ更ニ努力ヲ加ヘタル結果刈倒ハ急ニ進捗シ八月二十日ニハ大體終了シ全共和國刈倒地積千四百四十八萬四千「ヘクタール」、收穫總地積ノ九二七%ニ達セリ

(二) 北高架索

「ウクライナ」ト共ニ「ソ」聯邦主要農耕地方タル北高架索地方ハ收穫ノ初期ニ於テ非常ニ不成績ナリシ爲メ黨本部ヨリ農務科長「カガノウイチ」出張シ七月二十二日地方黨支部及執行委員會ニ於テ收穫ニ關スル決定ヲナシタリ右決定ニハ收穫戰初期ニ於テ「ライオン

在オデッサ日本帝國領事館

「ノ黨部並ニ「ソウエト」機關、MTC、「ソフホズ」「コルホズ」長其他ノ指導者並ニ勞働者ノ業績不良ニシテ徒ニ時間ヲ空費シ昨年ノ過誤ヲ繰返シ「クラキ」分子ノ活動及反抗ヲ許容シ「コルホズ」ニ於ケル勞働能率極メテ低ク機械ハ種々ノ故障ニテ其三分ノ二ハ休止シ作物ノ拾收粗雑ニシテ落穂ハ三四割ニ及ヒ若シ今後モ斯ノ如ク推移セハ重大ナル結果ヲ來ス悞アリ依テ之カ對策トシテ(一)麥類ハ是非トモ八月五日迄ニ刈倒ヲ了シ(二)農業機械ノ全部ヲ利用シ(三)農民ノ他作業ニ在ルモノヲ收穫ニ從ハシメ(四)穀物ノ基本部分ハ八月中ニ打穀シ(五)農民ニ交付スヘキ勞賃タル穀物ノ量ヲ増加シ(六)黨部各機關各員ヲ動員シ就中「ライオン」ノ「アクチフ」ノ八五%ハ現業ニ從事スヘキコト等ヲ決定セリ

在オデッサ日本帝國領事館

右實行ノ方法トシテ北高架索地方ハ同様ノ狀況ニ在ル隣接地方「ハリコフ」州及「ウオルガ」下流地方ト七月二十七日麥類收穫及穀物政府納入ヲ期限前ニ完了スヘキ競争ノ契約ヲ結ビ之ニ依リ麥類ノ刈倒ハ八月五日迄ニ終了スヘキヲ宣シタリ
然ルニ麥刈ノ實績ハ之ニ添ハス七月二十五日現在「コルホズ」及個人農家ノ所謂農民部麥類收穫總反別五百六十一萬八千六百餘「ヘクタール」ノ内刈倒ヲ了セルモノ百七十三萬四千四百「ヘクタール」即チ三〇・九%ニシテ前年同期ノ三百萬、一九三一年ノ五百萬「ヘクタール」ニ對シ甚タシク遅レタルモノアリ而シテ前顯黨地方支部及執行委員會ノ決定並ニ競争契約ニ指定セル刈倒完了期タル八月五日ニ於テハ收穫總反別五百五十七萬三千七百「ヘクタール」(當初ノ計數ヨリ

在オデッサ日本帝國領事館

減少)ノ内刈倒シタル地積三百七十四萬一千一百「ヘクタール」即チ
六七一%ニシテ三分ノ一殘レリ

九月二十日現在ノ狀況ニ付地方當局ノ統計ニ依レハ農民部ハ收穫地
積ノ五九%ハ打穀シ二二%ハ禾堆積トシタルカ残りノ一八九%ハ
束ノ儘又ハ寄せ集メタル儘畑ニアリ束ノ儘及束寄せ集メタル儘畑ニ放
置セラレタル穀物一百萬「ヘクタール」ニハ既ニ朽腐シカケタルモノ
アリ向日葵ハ一、四二五、四七五「ヘクタール」ノ内三一三、六〇〇「ヘク
タル」即チ昨年ヨリ二四六千「ヘクタール」少ナク收穫セリト
「ソフホズ」ノ收穫事業成績ハ右農民部ヨリモ劣リ地方全般ノ「ソ
フホズ」ノ麥類刈倒地積ハ七月二十六日現在一五%ニシテ地方一般
ノ成績タル二九%ニ比シ劣リ居リ就中聯邦最大ノ「ギガント」及教

在オデッサ日本帝國領事館

育試験農場ノ七月三十日ニ於ケル成績ハ實ニ左ノ如シ(單位「ヘク
タル」)

	ギガント	試驗穀物ソフホズ
要收穫總反別	六九一二三	五六四一八
刈倒地積	六九〇〇	三四七三
内コムバイン使用ニ依リ	三、五八五	一、三九四

斯ル狀況ニ願ミ黨支部及執行委員會ハ七月三十一日付ヲ以テ右様狀
態ハ「ソフホズ」カ穀物ノ成熟ヲ願慮セス機械ヲ利用セス落穂多ク
三四割ニ及フモ之ハ機械使用ノ當然ノ結果ナリトシ現場ノ指導ヲ怠
リタルニ職由スルモノナリトシ各「ソフホズ」ニ對シ個別的ニ麥類
刈倒終了期ヲ定メ最モ晩キモ八月十日トナシ農具使用ノ定數及時間

在オデッサ日本帝國領事館

ヲ一定シ落穂拾等ニ關シ詳細決定シ農場長個人ノ責任ヲ設定スル處
アリタリ右決定ハ全部ハ遂行セラレス期限迄ニ所定ノ事業ヲ完了ス
ルヲ得ス「ギガント」農場長初メ場長ハ免職其他ノ處分ヲ受ケタル
モノアリタルモ八月末迄ニハ九十九萬七千「ヘクタール」即チ九七％
餘ノ刈倒ヲ了セルカ其中「ゼルノソフホズ」ハ大ニ不成績ニシテ九
月末ニ尙禾堆積セサルモノ二十萬「ヘクタール」、打穀セサルモノ三
十一萬五千「ヘクタール」分即チ收穫面積ノ半分アリ

(三) 中央黒土地方

今春播種成績、納税成績等前年ニ比シ不良ナリシ中央黒土地方モ「
ウクライナ」北高架索地方ト同様ニ收穫ノ初期ニ於ケル成績不良ニ

在オデッサ日本帝國領事館

13

シテ「ウォルガ」中流地方ト收穫競争ヲ契約セルカ八月五日現在麥
刈反別ハ「ウォルガ」中流カ冬蒔物九三六％ヲ刈倒シタルニ本地方
ハ總テノ穀物作付地ノ中三三〇九七四九「ヘクタール」即チ六三六％
ヲ刈了シタルノミナリ然レトモ其後努力シ八月末ニハ他ノ隣接地方
同様ノ成績ニ漕キ付ケタリ

(四) 全聯邦ノ穀物刈倒成績

南露主要農耕地方ノ初期麥刈成績ハ大體右ノ如クナルカ八月三十一
日ニ於ケル右諸地方及全聯邦ノ成績ハ聯邦農務及「ソフホズ」兩部
ノ公表セル統計ニ依レハ左ノ如シ（單位千「ヘクタール」）

在オデッサ日本帝國領事館

14

	一九三三年 八月卅一日			一九三二年 九月一日			一九三一年 九月一日		
	%			%			%		
全聯邦	七〇、二五一	八三、八	%	六四、六九四	七八、六	%	六七、五三	五八	
ウクライナ	一五、二八五	九六、五		一三、五〇二	九三、〇		一八、四一六		
北高架索	六、九九三	九五、四		六、三〇八	九一、九		七、七八六		
ウォルガ下流	五、九七八	九四、七		四、九四五	八七、六		七、〇二五		
中央黒土地方	五、五七五	九六、六		五、六一六	九五、八		七、五三七		

右ノ如ク八月末ニ於ケル今年ノ麥刈成績ハ一昨年ニ劣ルモ昨年ニ比シ其面積並ニ「テムボ」共ニ優レタリ
社會部門別（八月三十一日現在）（單位千「ヘクタール」）

在オデッサ日本帝國領事館

ソフホズ全部	六〇、五八七	七二、七		五、六八一	七〇、五		四、九三一		
ソフホズ部所管	三、七八六	七四、五		一	一		一		
コルホズ全部	五、四四四	九八、七	八四、五	五、七六七	九七、四	七〇、四〇			
MTC	三、二七〇	四九、一	七二、四	七〇、七八九	一				
個人農家	九、七四四	七二、五	一三、四	三、四七二	三、三八七				
計	七〇、二五一	八三、八	六四、六	九三、七	八六、七	五三、五	八		

穀物ノ刈倒ハ主要地方ニ於テハ九月十日迄ニ終了シ北方及極東モ九月十五日迄ニ終了セルカ地方ニ依リ成績ノ最モ良好ナルハ「タタリヤ」其他主要農耕地方ナルカ邊疆地方ハ非常ニ不成績ニシテ作付反別ノ六割以下ノモノ九月十五日現在ニテ東部西部利ノ四六七%、八月末日現在ニテ「カレリヤ」ノ三八一%、「キルギジャ」ノ四六四

在オデッサ日本帝國領事館

%、「ヤクウツク」一三・九%、「タジクスタン」四四・一%、「アル
メニヤ」ノ五八・七%等アリ

社會部門別ニ付テハ昨年ニ比スレハ個人農家以外ノ社會化部門ハ其
刈倒地積ノ絶對數ニ於テモ又其割合ニ於テモ良好ナリトス

前掲表ニ現ハレタル數字ニ依リ本年ノ穀物作付地收穫時反別ノ絶對
數ヲ算出スレハ八千三百八十萬「ヘクタール」ニシテ昨年ノ八千二百
四十萬「ヘクタール」ヨリ百萬「ヘクタール」増大セルモ一九二九年ノ
九千八百八十三萬「ヘクタール」、一九三〇年ノ九千八百九十萬及一九
三一年ノ一億四百八十萬等ニハ及ハストス

右ノ内實際刈取ヲ了シタル絶對地積ニ付テハ政府公表ニ依ル打穀及
禾堆積成績ニ示セル%ヨリ算出スル外ナキ處右數字ハ殆ント毎回變

在オデッサ日本帝國領事館

動シテ一定セサルカ最モ遲キモノ二、三ヲ採リテ見ルニ左ノ如シ

公表ノ日付 打穀ノ%ヨリ算出 禾堆積ノ%ヨリ算出

九月十日	七五・六	百萬ヘクタール	七五・三	百萬ヘクタール
十月十五日	八三・四		八二・九	
十月二十日	一		七八・三	
十月二十五日	一		七八・〇	

依テ最終ノモノヲ探レハ七千八百萬「ヘクタール」トナル

(五) 打 穀

收穫穀物ノ打落成績ハ昨年ニ比シ良好ナルモノアルカ其打穀地積及
刈倒地積ニ對スル割合ハ左ノ如シ(單位千「ヘクタール」)

在オデッサ日本帝國領事館

全聯邦	ウクライナ	北高架索	八月三十一日		九月十日	
				%		%
一九三三年	一九三三年	一九三三年	二六四一	二七六	三五二	一四六
一九三二年	一九三二年	一九三二年	一九四三	三〇〇	二八二	九二四
一九三一年	一九三一年	一九三一年	二八〇七	二七五	△七六〇	六四九
一九三三年	一九三三年	一九三三年	五六九〇	三七二	六〇二	二四三
一九三二年	一九三二年	一九三二年	三八三	五二八		
一九三一年	一九三一年	一九三一年	四七五	一六一〇		
一九三三年	一九三三年	一九三三年	二〇八五	三四九	二六八	九四三

在オデッサ日本帝國領事館

ウオルガ下流	中央黒土地方	八月三十一日		九月十日	
			%		%
一九三二年	一九三二年	九三四	一八九	一五六	六二
一九三一年	一九三一年	二三八	五三三		
一九三三年	一九三三年	一七八〇	三一九	二六八	四四七
一九三二年	一九三二年	二七一	八四八	三七六	七六六
一九三一年	一九三一年	三〇一〇	三九九		
(一九三二及三一年ハ九月一日現在)					

備考 右表中「ウクライナ」本年九月十日現在ノ數ハ聯邦政府
發表ニ依レハ六六〇七千「ヘクタール」、四三%ナルモ其後
ノ發表ニ依ル數字ト照合シ「ウクライナ」政府農務部發表
統計ヲ正確ト認メ之ヲ記載セリ
其後ノ聯邦政府公表ニ依ル全聯邦打穀面積ヲ前年ノ夫ト比較スレハ
左ノ如シ(單位千「ヘクタール」)

在オデッサ日本帝國領事館

	十月五日	十月十五日
一九三三年	五五二九四	六七一
	六七一	六〇、五七一
		七二八
一九三二年	四一、三四二	五四〇
	五四〇	四三、三九九
		一
一九三一年	四七四〇〇	四八〇
	四八〇	一
		一

而シテ十月二十五日迄ニ六五、四九千「ヘクタール」分即チ刈倒地積
ノ七八一%ヲ打穀シ了リ最近年中最良ノ成績ヲ示シタリ地方別ニ付
テハ主要農耕地方左ノ如シ（單位千「ヘクタール」）

	十月五日	十月二十五日
ウクライナ	一、七二二	七六二
	七六二	一、二四五八
		八、一〇
北高架索	四七〇八	七、五
	七、五	四九二二
		七五五
ウォルガ下流	五、三七四	八七四
	八七四	五、三三四
		八六七

在オデッサ日本帝國領事館

中央黒土地方 四六九〇 八、九 五、一一二 八九三

右表中「ウォルガ」下流地方ニ關スル數字ハ政府公表ノ儘ナル
カ多分後ニナリテ訂正セルモノナルヘシ

十月二十五日ノ成績ニ付テ見ルニ聯邦中最好成績ナルハ「ウォルガ」
「中流ノ九三%ヲ最上トシ中央黒土地方之ニ次キ「クリミヤ」「イ
ワノフ」「バシキリヤ」「タタリヤ」ノ順位ナルカ白露ノ「六〇二
千「ヘクタール」、六三、四%、「ゴリキイ」地方ノ三、五四五千「ヘク
タル」一六九七%、「ウラル」州ノ三、〇三二千「ヘクタール」一六五
三%次テ極東ノ二九五千「ヘクタール」一三五八%、東部西伯利ノ三
八八千「ヘクタール」一二三三%、「ヤクウツク」ノ一千「ヘクタール
」一、九%及「カレリヤ」ノ二千「ヘクタール」一五二%ハ最劣等ナリ

在オデッサ日本帝國領事館

「ウクライナ」中最モ不成績ナルハ「オデッサ」州ノセニニ%ナリ
穀物「ソフホズ」ニ於ケル打穀成績ハ農民部及他ノ「ソフホズ」ニ
比シ不良ニシテ十月二十日現在六〇%ヲ打穀セリ
本年ノ打穀成績ノ良好ナルハ「ソウエト」及黨部カ農事成績ニ専念
シテ成功ヲ圖リ準備ヲ早クシMTC、「コルホズ」及「ソフホズ」
ノ新設政治科ノ力ヲ以テ又都市黨員ヲ動員シテ村落ニ遣ハシ其指導
ト強制力トヲ重加シ農民モ亦食料難ニ在リテ新作穀物ヲ以テ飢饉ヲ
救ハントシ收穫ヲ急キタルモノトス

（六） 禾堆積

穀物ノ刈倒及打穀ト共ニ禾堆積モ必要ナル處本年ハ豐作ナリシト刈

在オデッサ日本帝國領事館

倒及打穀ニ専念シ禾堆積ニ對シ昨年程熱心ナラサリシ爲メ九月一日
迄ノ成績ハ昨年ニ劣ルコト著シキモノアリシヲ以テ當局ハ再ヒ警ヲ
傳ヘテ之ヲ強行セシメタル結果大ニ改善セリ
穀物ノ禾堆積及畑ヨリ取入レタル合計反別及刈倒反別ニ關スル聯邦
政府發表ノ統計ヲ示セハ左ノ如シ（單位千「ヘクタール」）

全聯邦	ウクラ	イナ	九月一日		九月十日		十月十五日	
			噸	%	噸	%	噸	%
三三年	三三年	三三年	三、四二七、九四八	八五、四四二、六七二	三、七六六、五九九	九二、四		
三二年	三二年	三二年	三、九七九、四六一	五五、〇二五、七六九	四、六二五、三三六			
三三年	三三年	三三年	六、〇三〇、三九五	一一、二九六、七三、五	五、〇三八、九七八			
三二年	三二年	三二年	八、二七二、六一、三	一〇、三九〇、七四七				
三三年	三三年	三三年	一、二二二、一九四	四、四四一、六八九	五、五四五、八四二			

在オデッサ日本帝國領事館

北高架索	ウオルガ下流	中央黒土地方	三二年	三三年	三二年	三三年
三、九〇〇	三、二九五	三、三八〇	三、二二五	三、二二五	三、二二五	三、二二五
四、六〇〇	五、五五〇	五、五五〇	五、五五〇	五、五五〇	五、五五〇	五、五五〇
三、四五一	三、七五八	四、九九九	四、九九九	四、九九九	四、九九九	四、九九九
五、三三四	六、一六三	五、一四六	五、一四六	五、一四六	五、一四六	五、一四六
五、三三四	六、一六三	五、一四六	五、一四六	五、一四六	五、一四六	五、一四六
五、三三四	六、一六三	五、一四六	五、一四六	五、一四六	五、一四六	五、一四六

其後十月二十五日現在成績ハ全國七三、九三九千「ヘクタール」分ニシテ刈倒地積ノ九四七%ニ及ヘリト

(七) 收穫高

本年ノ穀物ハ降雨量多ク天候適順ナリシ結果農穫ニシテ「オデッサ

在オデッサ日本帝國領事館

「市附近ニ於テハ一九三〇年ニ優ルモノアリ當局ノ調査ニテハ「ウクライナ」ノ「オデッサ」及「ドオプロベトロフスク」ノ兩州及北高架索ニ於テ七月一日ノ調査ニテハ平年ノ一「ヘクタール」ニ付七一八五「ツェントネル」ニ對シ「二一三」ツェントネルナリシカ七月十五日ノ調査ニテハ更ニ上リタリ之ヲ以テ政府及黨本部ハ七月十三日ノ決定ヲ以テ「ウクライナ」北高架索「クリミヤ」「ウオルガ」下流、後高架索及中亞ニ於ケル「ソフホズ」ノ政府納入穀物量ヲ「決定セル量」ニ對シ三八%ヲ増加シ其後中央及東部地方モ同様作柄良好ナルノ故ヲ以テ其地方「ソフホズ」ノ納入穀物量ヲ四〇%方増加シタリ之ヲ以テ看ルニ政府ハ今年ノ收穫ヲ昨年ニ比シ三八一四〇%方増加セルモノト見込ヲ立テタルモノトナシ得ヘシ

在オデッサ日本帝國領事館

實際ノ收穫率ニ關シテハ七月十四日付政府及黨本部ノ決定ニ依リ收穫率査定委員會ハ八月十五日及九月一日ノ二回ニ決定スルコト、セ
ルカ地方ヨリノ報告ナク右期限ヲ延期シ而モ其期ニ所要ノ報告未提
出ナルモノアリテ正確ノコトヲ決定シ難ク從テ未タ公表ナキ處各地
方當局ノ舉示セル例ヲ見ルニ左ノ如シ

- (一) 「クリミヤ」ハ同共和國黨支部長ノ報告ニ依ルニ本年ハ一九
二七年以來ノ豐作ニテ同國一般ニテ「ヘクタール」ニ付小麥ハ
一〇、九、大麥ハ一〇、九、燕麥ハ九、一「ツエントネル」ナリ
(二) 「オデッサ」州ニ於ケル個々ノ「コルホズ」ニ付其成績ノ優
秀ニシテ代表的ナルモノハ小麥ハ一四、五「ツエントネル」昨
年ノ四五、一七三「ツエントネル」ニ對シ二倍

在オデッサ日本帝國領事館

27

- (三) 「ドネプロベトロフスク」州四十四「コルホズ」平均各種穀
物一ニ「ツエントネル」昨年ハ五、一「ツエントネル」ナリ
(四) 各方面農事成績最優秀ナル「タタリヤ」ニ於テハ各種穀物平
均七一「ツエントネル」ナリ
(五) 「ゴリキイ」地方ニ於テ最モ優秀ナル「ボチンコスキイ、ラ
イオン」ノ「クラスヌイ、ルチ、コルホズ」ニ於テハ小麥一六
「ツエントネル」ニ達シタリ
以上舉ケタル各地ノ收穫率ハ「クリミヤ」「タタリヤ」及「ドネプ
ロベトロフスク」州一部「コルホズ」ノ外ハ代表的最優等ノ成績ヲ
例止セルニ止マリ之ヲ以テ一般的收穫率ニ付概括的觀念ヲ與フルコ
トハ困難ニシテ「オデッサ」地方ノ豐作ナリシコトハ實見ノ上認め

在オデッサ日本帝國領事館

28

ラル、處ナルモ昨年ノ二倍ナリトハ斷シ難キナリ
本年ノ統制數字ハ昨年ノセ「ツエントネル」ニ對シハ「ツエントネ
ル」トセルカ若シ「ソフホズ」ノ政府納入量増加ノ割合卽チ三八一
四〇%カ一般收穫ノ上ニモ適用シ得ルナラハ本年ノ收穫率ハ一一一
一、二「ツエントネル」ナルカ右ハ「クリミヤ」及「タタリヤ」ノ
實績ヨリ多ク例年ノ例ニ依レハ全國收穫率ハ此二地方ヨリ低ク且十
一月頃ニ至リテ各地一般ノ成績ニ付豐作ト稱スルモ實際ハ平年作又
ハ夫レ以下ノ結果ナリト云フモノサヘアル程ナルヲ以テ本年ノ收穫
率ハ全國平均シテ統制數字豫定ノ八「ツエントネル」位トスルヲ至
當トスヘシ尙各種穀物ノ平均收穫率ハ一九二八年ハ七九二「ツエ」
一九二九年一七四七「ツエ」、一九三〇年一八四八「ツエ」ナリ

在オデッサ日本帝國領事館

收穫量ニ付テハ收穫時作付反別ハ昨年ノ八千二百四十萬「ヘクタ
ル」ニ對シ八千三百八十萬「ヘクタ爾」ナルカ穀物ヲ刈倒シタル地積
ハ昨年ノ七千六百十五萬「ヘクタ爾」ニ對シ打穀及禾堆積ニ歸スル
統計ヨリ算出シテ七千八百萬「ヘクタ爾」ニシテ刈取りタル穀物ヲ
畑中ニ放棄シテ打穀又ハ取入ヲナサス既ニ腐朽シ又ハ發芽シテ役ニ
立たサルモノアリテ取入打穀ヲナシ又ハ禾堆積トシテ漸次打穀スル
ヲ得ル様ニセル分ハ十月二十五日迄ニ七千三百九十三萬九千「ヘク
タル」ナリ依テ之ヲ七千四百萬「ヘクタ爾」ト概算シ本年ノ收穫率
ヲ八「ツエントネル」トセハ本年穀物ノ收穫高ハ五千九百二十萬噸
ナリ右統計ハ麥類ノミニテ雜穀ヲ含マサル様ニモ考ヘラル、ニ依リ
之ヲ前年ト比較セハ左ノ如シ（單位千噸）

在オデッサ日本帝國領事館

穀物	麥類
一九三三年 五九二〇〇？	五九二〇〇
一九三二年 五三、三〇五？	五三、三〇五
一九三〇年 八三、五四五	七三、八二〇
一九二九年 七、七四一	六二、一九〇
一九二八年 七三、三一九	六五、四一九

(ハ) 穀物ノ喪失

成熟穀物ノ喪失防止ニ付テハ本年ハ政府ノ穀物買上法改正ノ故ヲ以テカ昨年ノ如ク特ニ指令ヲ以テ訓戒スル處ナカリシカ收穫地積ハ前項ニ記セル如ク八千三百八十萬「ヘクタール」ノ處政府公表ノ統計ニ

在オデッサ日本帝國領事館

依リ算出スルニ刈殘シタルモノ約四百八十萬「ヘクタール」即チ五%刈倒シタルモノ之ヲ畑中ニ放棄シ打穀モ禾堆積ニモセサル爲メ其收穫ヲ得サルモノ四百萬「ヘクタール」即チ兩者ヲ合算シテ收穫反別ノ一割近クノモノヲ收得セサリキ

次ニ收穫ニ當リ機械ノ使用粗雑ニシテ刈殘シタルモノ、落穂、故意ニ刈落ヲナシ又ハ取入レヲナサ、ルモノ等本年モ相當ニ多ク北高架索地方ニ於テハ同地方執行委員會及黨支部ノ決定ニ記載セル如ク七月收穫ノ初期ニ於テ之等落穂刈殘等ハ三四割ニ及ヒ國營農場ニ於テモ同様ニシテ之カ收拾方ヲ命セルコトアリシカ「ウクライナ」ニ於テモ同様ニテ「ドネプロベトロフスク」州「コルホズ、アパンガル」ハ收穫及穀物ノ納付ヲ逸早く完成シ農事成績非常ニ優秀ニシテ

在オデッサ日本帝國領事館

冬蒔小麦「ヘクタール」當リ「三」ツエントネルノ收穫ヲナシタルカ調査ノ結果右ノ外「五」ツエントネル即チ二割ノ落穂刈殘ヲナセルコト分明シタリ又當局カ「マリウボリ」附近ノ代表的四「コルホズ」ニ就テ調査セル處ニ依レハ冬蒔小麦ハ打穀ノ結果七四「ツエ」ナリシカ再打穀ニ依リ「ツエ」、落穂收拾ニ依リ「一」ツエ「、打穀ノ際ノコボレ「三」ツエ」合計四七「ツエ」ト落穂及畑中ニ在リテ收拾出來サルモノ「四」ツエ、打穀ノ際ノコボレ「四」ツエ」計「八」ツエアリタリト尙同州「ソフホズ」ニ於テモ之ニ劣ラサル喪失アリ例ヘハ「クリウオロジエ」附近「ラトフカ」（養畜農場）ニ於テハ冬蒔小麦打穀收得九六「ツエ」ニ對シ喪失合計二「ツエ」、同「ライオン」穀物農場ニ於テハ打穀「二〇」ニ「ツエ」

在オデッサ日本帝國領事館

33

ニ對シ「三〇」四「ツエ」アリ内「二」%ハ再收拾セリ「ベルジヤンスキイ」同様農場ニ於テハ冬蒔小麦「三」ツエ春蒔小麦「五」ツエアリ成績良好ナル「ブリヤンスキイ」養豚「トラスト」ニ於テハ四七%ナリ概シテ「一〇」ニ「二〇」%ノ喪失アリトス

納付済穀物ノ喪失

右ノ穀物喪失ハ農民及農場ノ損失トナルモノナルカ既ニ政府ニ納付セルモノモ又積卸ノ際容器不完全又ハ荷役不注意ノ爲メ道路其他ニ於テ漏失スルモノ少ナカラス八月二十日前後「オデッサ」港ニ附近村落ヨリ搬出セル小麦カ岸壁ニ撒積サレ何等ノ蔽ヒ無ク土砂石炭等ト混シ居レルモノ二千四百噸アリ其後降雨アリタルニ「ブレゼント」無ク濡損アリ九月一日及十日前後ニ三四日宛連續降雨アリタルカ

在オデッサ日本帝國領事館

34

農場村落ヨリ停車場ニ搬出セル穀物ニシテ積出サレス倉庫モナク「
ブレゼント」其他ノ蔽遮物無ク雨風ニ曝サレタルモノ「オデツサ」
鐵道「ライオン」ノミニテ八月三十一日千五百三十二貨車ナリシカ
九月十日ニハ二千二百二十二車ニ達シタリト依テ「オデツサ」州黨
支部ハ漸損其他ノ穀物喪失防止ノ方法ヲ講スルト共ニ九月十八日決
定ヲ以テ州内ニ穀物七萬五千噸分ノ倉庫置場ヲ緊急用意スヘキコト
トセリ
右ノ如キハ單ニ「オデツサ」地方ニ止マラス少クトモ南露一帯ニハ
通有ノ現象トス
又鐵道運送中貨車不完全ノ爲メニ穀物ノ漏失スルモノト又故意ニス
ルモノニ依ルモノモ相當ノ量ニ及フヘシ

在オデツサ日本帝國領事館

35

穀物ノ陰匿及盜取ニ付テハ穀物政府納入ノ方法改正セラレ輸入率ハ
作付反別ニ依リ一定率ヲ納入スルコト、ナリタルモ其率ハ必スシモ
一定不變ノモノニ非ス作柄ニ依リ加減セラレ得ヘキヲ以テ收穫高ヲ
過少ニシ又ハ自用ニ供スル爲メ申告高ヲ過少ニスルモノアリ後者ハ
「オデツサ」州「ソフホズ」其他各地ノ「ソフホズ」ニ於テ多ク責
任者ノ處罰セラレタルモノ少ナカラス
盜取ハ刈倒シ取入ヲ故意ニ粗雑ニシ打穀ノ「コボレ」及打落殘シヲ
多クシ後來之ヲ自用ニセントスルモノ、收穫前畑ニ於テ又ハ倉庫ニ
於テ夜陰竊取スルモノアリ之等ハ孰レモ昨年ヨリハ甚タ減少セルカ
尙相當行ハレツ、アリ右盜取防衛ノ爲メ「オデツサ」郊外ノ例ヲ見
ルニ積出ヲ待ツ數袋ノ穀物ニモ必ス獵銃ヲ手ニセル青年團員ノ番人

在オデツサ日本帝國領事館

36

アリ（野菜物小屋ニ於テサヘ之有リ）倉庫其他ノ多量ノ置場ニハ更ニ嚴重ナル番人ヲ附セリ之等番人ハ多ク青年團員ナルモ北高架索地方ニ於テハ少年隊ヲ動員シテ之ニ當ラシメタリ之等ハ其割合ヲ計算スルコト困難ナルモ相當多量ニシテ民食ノ供給ニ影響ヲ及ホスモノナリ

二、穀物徴集

穀物買上法ハ本年一月ノ改正ニ依リ

一、從來政府ハ「ザガトゼルノ」ナル經濟機關ヲ通シテ特約ニ依リ農民ト穀物ノ買上高ヲ契約シタル處此改正ニ依リ農民ハ作付反別

在オデッサ日本帝國領事館

37

ノ高ニ應シ規定率ノ穀物ヲ租税同様義務的ニ國家ニ納付スルコトトナリ穀物買上ハ從來契約關係ナリシカ今年ハ法律ニ依ルコト、ナレリ

二、從テ「ザガトゼルノ」ナル穀物買上ノ經濟機關ハ廢セラレ穀物徴集ハ行政機關ノ手ニ移レリ右行政機關ハ中央及州ニ於テハ買上委員會ニシテ從前ノ勞働國防會議ノ代リニ内閣ニ隸屬シ州、地方及「ライオン」ニハ其代表ヲ置ク

• 政府收納穀物ノ種類

政府カ農民及「ソフホズ」ヨリ徴集スル規定ノ穀物以外ニ租税同様ニ強制的ニ徴集スル穀物ハ左ノ如シ

(一) M T C カ「コルホズ」トノ契約ニ依リ耕作料及打穀料トシテ現

在オデッサ日本帝國領事館

38

物ヲ以テスルモノ、打穀料ハ本年ハ打穀高ノ八%

(二) 種子及食糧ノ貸下分ノ返納、之ハ十月十五日迄ノ規定

(三) 製粉料(ガルンツエ)ハ從來通り(昨年ハ一億布度ノ豫定ニ對シ六千三百萬布度ヲ收納セリト)

尙「コルホズニキ」ニシテ團體的ニ作付セル外其納入率カ個人農家ヨリ低率ナルヲ以テノ故ニヤ本年個人的ニ宅地附近ニ作付セルモノ多ク七月十日現在ニテ全國「二九六五千」ヘクタール内「ウクライナ」八十三萬「ヘクタール」アリ之等ニ對シテハ個人農家ヨリ五%方低ク「コルホズ」團體ノヨリ五%方高キ納入率ヲ定メラレタリ

● 徵集計畫

在オデッサ日本帝國領事館

昨年ノ穀物買上ハ收穫ノ初期七八月中ニ不成績ナリシニ鑑ミ本年ノ計畫ハ此初期ニ於テ徵集ヲ強化シ完了期限ハ昨年ヨリ少シク延期シテ十二月半トシ各月ノ徵集割合ヲ左ノ通り定メタリ(年「プラン」ニ對スル%)

	昨年実績	本年計畫
七月	一八	三六
八月	一一二	二二〇
九月	二四四	二七二
小計	三七四	五三八
十月	一六九	二六八
初期計	五四三	七九六

在オデッサ日本帝國領事館

重ナル地方別ニ付テハ十月一日迄ニ年「ブラン」ニ對シ「ウクライナ」一五三%、「クリミヤ」九五%、「ウォルガ」下流一五五%、北高架索、「ウォルガ」中流及中央黒土地方各六〇%ト豫定スル處アリタリ

● 徴集ノ實績

「ウクライナ」

「ウクライナ」ニ於ケル穀物納入成績ハ當局ノ措置ニ依リ收穫ノ初期殊ニ八月中非常ニ好成績ニシテ七月ハ全「ウクライナ」ニテ月「ブラン」ノ八四六%、南部收穫早キ「オデッサ」州ニ於テハ一〇、三%ニシテ九月一日迄ニ農民部ハ年「ブラン」ノ五九二%ヲ遂行シタリ右ハ昨年同期ノ一五七%、一九三一年ノ三〇、二%及政府豫定ノ

在オデッサ日本帝國領事館

五三%ニ比シ成績良好ナリ其後ノ年「ブラン」遂行率左ノ如シ

	農民部	ソフホズ	對MTC 現物料	ガルンツエ
九月二十六日	七八一%	七五〇%	六七〇%	二一、六%
十月二十六日	九〇、二	八三、八	八六、二	三三、三

昨年九月二十六日ニ於ケル成績ハ三、八%ナリ而シテ十一月七日迄ニ各州共完納シ或ルモノハ之ヲ超過シ其徴集セル量ハ昨年同期ノ二倍半、昨年全年ノ五割弱増ナリ

北高架索

北高架索ニ於ケル農民部及「ソフホズ」ノ穀物納入成績ハ「ウクライナ」同様收穫ノ初期八月迄ハ好成績ナリシカ時ヲ經ルニ從ヒ農民

在オデッサ日本帝國領事館

中ニ役員の氣分出來リ其「テムボ」遲滞セリ

北高架索ノ穀物納入ハ收穫ト共ニ七月二十七日「ハリコフ」州「ウオルガ」下流地方トノ競争契約ニ依リ其完了期ヲ「コルホズ」十月二十日、「ソフホズ」ハ十月五日、個人農家ハ九月二十日（「ハリコフ」州「ウオルガ」下流地方ハ之ヨリ夫々十日遅レ）トシタルカ其成績左ノ如シ（月「プラン」遂行ノ割合）

月	北高架索	ウオルガ下流	ハリコフ州
七月	一〇八%	一〇六%	三八五%
八月二十五日間	八一	六二二	一六七五

其後ノ成績ニ付テハ資料ヲ缺ク處北高架索地方ノミノ成績ハ左ノ如シ（單位千噸）

在オデッサ日本帝國領事館

43

	七月		八月		十月		累計
	プラン	實行%	プラン	實行%	プラン	實行%	
農民部 義務的納入	九〇一	一九四	五三八	九三六	〇三	五八	一五九二一八〇
MTCヘノ 現物支拂	二五〇	九四一	三四六	七九〇	四九	四〇	九五八三
ソフホズ	八一	三三	二一九	二七八	四	六一	二一三八
ソフホズ 貸下物返納	八一	七	三四五	三四七	二〇	五	四〇四七
計	二〇五	一〇八	九二七	七五二	六三六	二五	五六七八七一

備考 九月ニ關スル資料缺

兎ニ角初期七月ハ非常ノ好成绩ナリシカ漸次時ヲ經ルニ從ヒ成績舉
ラス終ニ他地方トノ競争ニ定メタル期限ニモ政府豫定期限ニモ其競

在オデッサ日本帝國領事館

44

務ヲ遂行スルヲ得サリシナリ而シテ「ソフホズ」ノ不成績ナルコト
ハ右ノ表ニ依リテモ充分知り得ヘシ

「ウォルガ」下流地方

「ウォルガ」下流地方ハ十一月五日迄二年「ブラン」ノ七八五%ヲ
納入セリ

中央黒土地方

本年ハ農事其他ニ於テ兎角不成績ナリシ本地方ハ九月ニ至リ昨年同
月ヨリモ不成績ニシテ月「ブラン」ノ五五六%ヲ納入シタルノミナ
ルカ十月一日迄二年「ブラン」ノ六二、三%ヲ遂行シ政府豫定ノ六〇
%ヲ超過セリ但シ同地方納入穀物ハ搬出セサルモノ多ク腐朽セルモ
ノ少ナカラスト

在オデッサ日本帝國領事館

45

「モスクワ」州ハ九月二十五日迄ニ農民部ノ義務納入量ハ一〇〇、一
%、「ソフホズ」一〇、八%、MTCヘ支拂フヘキ現物一〇〇、一%
種子返納一〇〇%ヲ遂行セリ

十一月初迄ニ穀物納入義務ヲ完済セルモノハ「タタリヤ」「ゴリコ
フスキイ」「モスクワ」州、「クリミヤ」、後高架索及「ウクライ
ナ」ニシテ全國納入量ハ昨年全年ヨリ一億布度多キ由ナリ

「ソフホズ」ノ穀物納入

南露ノ作柄良好ニシテ平作ノ上ナルヲ以テ内閣及黨本部ハ七月十三
日付ヲ以テ三月一日決定ノ「ソフホズ」納入量ヲ増加シタルカ重ナ
ル地方別左ノ如シ（單位千布度）

在オデッサ日本帝國領事館

46

	増加量		改正納入年量	
	計	ゼ ル ノ ホ ズ	計	ゼ ル ノ ホ ズ
ウクライナ	一三、五七八	七五〇〇	四〇、五〇〇	二〇、七〇〇
北高架索	六九七六	五四〇〇	三一、一〇〇	二五、五〇〇
ウクリミヤ、 ウオルガ下流、 中亞、後高架索	三、四〇〇	二、〇〇〇	一五、八六七	一〇、三一〇
	二、三、九五四	一、四九〇〇	八七、四六七	五六、五一〇

即チ南露六地方ニ於テ二千三百九十五萬四千布度（三十九萬二千七百噸）即チ三八％ヲ増シ就中「ウクライナ」ハ五割増ナリ

其後中央及東部モ作柄良好ナルヲ以テ八月十日付内閣及黨本部決定ヲ以テ十七州及地方ニ付千八百六十六萬八千布度（三十萬五千噸）

在オデッサ日本帝國領事館

47

納入成績	
即チ四〇％ヲ増額シタリ之ヲ以テ本年全國各種「ソフホズ」ノ穀物納入總高ハ一億五千二百六十五萬布度（二百五十二萬四千噸餘）ノ豫定ニシテ就中「ウクライナ」及北高架索兩地方「ソフホズ」ノ納入量ハ七千六百六十萬布度ニシテ昨年ノ納入豫定高六千六百萬布度ニ比シ二、三、六％餘ノ増加ナリトス	
「ソフホズ」ノ穀物納入成績ハ十月二十日迄ニ九千三百八十七萬三千布度即チ年「ブラン」ノ六、五％ヲ納入シタリ	
其内「ゼルノトレスト」「ソユズサハル」「ソルトセムトレスト」及「ゴスプロムソフホズ」以外ノ各合同ハ三〇、一六七千布度即チ「ブラン」ヲ一〇、四％超過シテ遂行セリ	

在オデッサ日本帝國領事館

48

地方別ニ付テハ「クリミヤ」「モスクワ」「レニングラド」各州ノ
「ソフホズ」ハ年「プラン」ヲ完了シ「タタリヤ」ハ九十九%ヲ遂行
シ「ウクライナ」ハ本年四〇、五〇〇千布度納入豫定ニ對シ十月二十
五日迄ニ八六二%ヲ納入シタリ

「コルホズ」商業開始ハ未タシ

政府ニ對スル穀物ノ義務的納入、MTCニ對スル農具使用料トシテ
現物及政府貸下種子ノ返納ノ成績ハ右ノ如クナルカ右義務履行後許
サルヘキ「コルホズ」商業ノ實行迄ニハ種子ノ貯藏及種子物保險料
即チ種子所要年額ノ一〇—一五%ノ貯藏ノ完済ヲ要ス然シ之ハ官憲
ノ強制ヲ加ヘサルモノナレハ成績良好ナラス「クリミヤ」ノ如キ農

在オデッサ日本帝國領事館

事成績良好ナル地方ニ於テサヘ十一月初迄ニ種子物ハ半分ヲ準備シ
タルノミナリト

三、工業原料作物及特殊作物ノ收穫

「ウクライナ」ノ甜菜

甜菜作付計畫——「ウクライナ」ニ於ケル本年甜菜作付反別ハ當
初九十一萬「ヘクタール」ト豫定セラレタルカ其後九十一萬三千八百
「ヘクタール」ト改正セラレ右ハ前年計畫ニ比シ四一、二千「ヘクタ
ール」、實績ニ比シ三三、五二千「ヘクタール」ノ減少ナリ

作付成績——本年「ウクライナ」ニ於ケル甜菜作付成績ハ非常ニ

在オデッサ日本帝國領事館

シテ昨年ニ比シ二十五日間早ク作付了シ六月一日迄ニ九十一萬七千六百「ヘクタール」即チ「ブラン」ノ一〇〇、一％ヲ作付シタリ「ウクライナ」農務部ノ發表ニ依レハ右社會別左ノ如シ（單位千「ヘクタール」）

ソフホズ	一〇九九	九七六	%
コルホズ	六九三〇		
個人農家	一一四七	一〇〇、五	
計	九一七六	一〇〇、一	

備考 右發表ニ於テハ本年甜菜作付反別豫定ヲ九一三、八千「ヘクタール」ヨリ九一六、七千「ヘクタール」ニ増加セリ

右本年作付反別ハ一九三一年ノ「一九五千「ヘクタール」、一九三二

在オデッサ日本帝國領事館

年ノ「二四九千「ヘクタール」ニ比シ大ニ減少セルモ「ブラン」實行ノ割合ハ前年ノ九四、二％ニ比シ遙ニ良好ニシテ一九三一年ノ一〇〇、四％ニ比シテハ幾分劣ル

而シテ甜菜主産地方ノ作付「ブラン」遂行狀況ハ「ウインニツア」州一〇〇、四％、「キエフ」州一〇、六％、「ハリコフ」州一〇〇、一％（二五、二八六「ヘクタール」）ニシテ「オデツサ」州ハ九九、二％ナリ

然ルニ甜菜收穫期ニ入り當局ノ發表セル處ニ依レハ本年ノ甜菜收穫豫定面積ハ八六、六千「ヘクタール」ナルヲ以テ實際作付反別ニ比シ約五萬五千「ヘクタール」ヲ減少セル次第ナリ

除草、其他手入 前年甜菜收穫ノ不良ナリシハ除草其他ノ手入ヲ

在オデッサ日本帝國領事館

怠り收穫率低下セル爲メナルモノトテ本年ハ特ニ此方面ニ意ヲ用ヒ
シモ除草手入ハ遅々トシテ進マス當局ノ再三ノ注意喚起ニ依リ七月
五日迄ニ兎ニ角作付反別ノ九七三%ノ手入ヲ終レル由ナリ
作柄ハ大ニ好ク「グラフサハル」ノ調査ニ依レハ九月十日現在ニテ
甜菜ノ單位重量ハ昨年ノ一五七八瓦ニ對シ一七二瓦ナリト

甜菜買付 ー 「ウクライナ」内閣及黨本部ハ三月二日付決定ヲ以
テ本年甜菜買付總量ヲ七千七百八十七萬五千七百「ツエントネル」
前年「ブラン」ノ八千百三十七萬「ツエントネル」ニ比シ四三%減
トセル處其後作柄ノ良好ナルニ依リ九月七日付決定ヲ以テ一億百四
十八萬八千六百「ツエントネル」、前年「ブラン」ニ比シ二四七%
増トセルカ右ハ本年甜菜作付反別ハ前年ニ比シ二六六%減ナルニ不

在オデッサ日本帝國領事館

53

拘買付量カ前年ニ比シ二四七%増加セルハ前年收穫率カ「ヘクタ
ル」ニ付七二「ツエントネル」ナリシニ對シ本年ハ之ヲ當初ノ九八
二「ツエントネル」ヲ一一「ツエントネル」ニ引上ケタルカ爲メ
ナリ

收穫 ー 「ソ」聯邦本年ノ甜菜作付地ハ收穫時ニ於テ百二十萬「
ヘクタ爾」トセラル、カ之カ採掘及搬出成績ハ良好ナラサルカ昨年
ヨリハ好成績ニシテ十月二十五日迄ニ全國ニテ八十五萬「ヘクタ
ル」即チ七三%（昨年同期五〇七%）ニシテ「ソフホズ」ハ五八二
%（昨年同期五五五%）ナリ

主要生産地タル「ウクライナ」及中央黒土地方ニ付テハ「ウクライ
ナ」ハ十月一日迄ニ三〇%、十一月一日迄ニ全部採掘スヘキ豫定ノ

在オデッサ日本帝國領事館

54

處其採掘實績ハ十月一日一九七%、十月二十五日六九六%ナリ中央
黒土地方ハ十一月一日迄ニ採掘ヲ完了スヘキ豫定ニ對シ十月二十五
日迄ニ七七九%ヲ採掘セリ
採掘セル甜菜ノ取入ハ十月二十五日迄ニ「ウクライナ」ハ採掘高ノ
四四二%、中央黒土地方ハ七〇一%ナリ
採掘法ノ粗雑ナル爲メ喪失セル高二割ニ達ス右不成績ノ原因ハ指導
不足ノ結果勞働者不足シ勞働紀律弛緩シ「クラキ」側ノ妨害アル爲
ナリトセラル

向日葵

向日葵ノ收穫ハ進捗セス十月五日迄ニ「ウクライナ」ハ二九七%、

在オデッサ日本帝國領事館

中央黒土地方ハ四七五%、「ウオルガ」下流ハ六六五%ニシテ作付
反別最モ大ナル北高架索ハ最モ不成績ナリ
收穫不成績ノ影響ハ之カ買上ニ及ヒ本年十月五日迄ノ買上高ハ七萬
六千五百噸ニシテ昨年同期ノ八萬噸ニ及ハス
而シテ製油工場ハ百十九工場作業開始スヘキ處原料ノ搬入無キヲ以
テ作業開始ノモノ五十七工場ナリ
右原因ハ穀物ノ豐作ト之カ收穫等ニ專ラニシテ此方面ヲ疎ニセル爲
メナリ

玉蜀黍

玉蜀黍ハ其栽培M.T.Cニ對シ本年初メテ専門「コムバイン」ヲ供給

在オデッサ日本帝國領事館

シタルモ耕作法カ之ニ相應セサル爲メニ使用出來ス且穀物收穫ニ專念シ之ヲ顧ミサルカ如キ傾向アリテ十月五日迄ニ「ウクライナ」ハ三九%、北高架索ハ四六%、「ウォルガ」下流ハ一、五%ヲ收穫セ
ルノミナリ

四 農業當局及農民ノ排機械的傾向及機械恐怖症

本年穀物收穫カ豫定ヨリ手間取り進捗セサリシハ人民ノ不熱心ヲ別ニスレハ主トシテ事業ノ組織不完全ナルト労働者ノ不足ト機械ノ能率揚ラサルニ職由スルモノナルカ就中機械ノ能率揚ラサリシコトニ付テハ八月初メ收穫ノ最盛期ニ於テ當局及新聞ハ農業當事者及農民

在オデッサ日本帝國領事館

ニ排機械的傾向及機械恐怖症アリトナシ之カ匡正ヲ叫ヒタリ
今其例ヲ示サンニ重工業部機關紙所報ニ依レハ八月十日現在左ノ例アリタリ

(一) 「ドネプロベトロフスク」州「ソフホズ」ハ「コムバイン」五五九台、「トラクター」一三四台、自動車三二六台ヲ有シ其指導者ノ言ニ依レハ孰レモ破損ナク燃料モ充分ニシテ労働者及牽引力ニモ不足ナキ由ナルカ「コムバイン」ニ依リ穀物ノ七五%ヲ處理スル豫定ナル處本機械ヲ全部トシテ使用セス其一部ヲ打穀機トシテ使用シ他ノ部分ハ使用セラレス「コムバイン」ノ使用率ハ九三—一四九%ノモノ四農場アリ特別優等ノ農場ニテ四七一五三%ナリ八月五日同州十二「ソフホズ」ハ五五九台ノ「コムバイン」

在オデッサ日本帝國領事館

ヲ有シ居リ二千「ヘクタール」即チ一機當リ四「ヘクタール」ヲ收穫セリ又自動車ニ付テモ同様ニテ常ニ最少限二五%ハ修繕ニ在リ就中「アゾフ」農場ハ所有自動車二七台中二五台ハ使用シ得ル状態ニ在ルカ十二台ハ雜用ニ供シ穀物運送ニハ十三台ヲ使用セルノミナリト

(二) 「キエフ」州「ヤロシエフ」農場ハ「コムバイン」三台ヲ以テ一日二十二「ヘクタール」ヲ收穫セルカ他一「ソフホズ」ハ結束機一三八台ヲ有シ居リ一日八「ヘクタール」分ヲ結束スル豫定ニ對シ機械取扱不良ニテ破損シ實際ハ豫定ノ半分ヲモ實行セス

(三) 北高架索「ドン、ゼルノソフホズ」ハ所有「ロボグレイカ」七一台中使用シ得ルモノハ三八台、結束機ハ四一台ノ中一七台、「

在オデッサ日本帝國領事館

コムバイン」ハ四五台中一八台、打穀機ハ一〇台中一台、其能率ハ僅ニ二五%ニシテ機械恐怖ノ爲メ同農場第六區ハ隣接「コルホズ」ト「コムバイン」一台ト「ロボグレイカ」一六台トヲ交換使用セリ其結果同「ソフホズ」ハ二千「ヘクタール」分ノ刈倒ヲナシタルカ「コムバイン」ニ依ルモノ一七〇「ヘクタール」、打穀ハ刈倒地ノ一割ヲ了セルノミ

(四) 八月十五日ニ於ケル状況ニ關シ同紙所報ニ依レハ「ドンパス」ノ「シャフノナヨル」農場ニ於テハ「コムバイン」一〇四台中七五台ヲ使用セルノミニシテ打穀機ハ使用セス

「オデッサ」州「ベリスラブリ」農場ニ於テハ一日平均六「ヘクタール」ヲ收穫セルカ打穀機ハ一三台中一台ヲ使用シ播種機一五台

在オデッサ日本帝國領事館

米國製同機二六台、穀物荷役機一〇台ハ使用ナク休止セリ

(五)「トラクター」ハ全國「ソフホズ」ニ五萬四千台、MTCニ十萬一千台アル由ナルカ「ウォルガ」中流地方ニテハ其能率ハ半分ニ及ハサル由ニシテ九月播種期ニ「ハリコフ」ヨリ「クリウオイロダ」ニ航空旅行セル某國領事ハ一台ノ「トラクター」モ畑中ニ見得サリシ由、十月中旬約一週間旅行セル本官ハ使役中ノ「トラクター」ヲ二台見タルノミナリ

尙工場カ農業機械ヲ發送スルニ必要ノ部分ヲ送ラサルモノアリ本夏「コムバイン」製造工場ノ「コンムナル」カ中亞ニ送リタル「コムバイン」ハ之カ爲メニ使用シ得サリシトテ同工場當局者カ裁判ニ附セラレ處分セラレタルコトハ新聞ニ依リ殊更喧シク報道セラレタル

在オデッサ日本帝國領事館

處ナリ

右ノ如ク農業機械ハ其品質粗惡ニシテ破損シ易ク修繕又不良、部分品不足等ノ爲メニ使役スルコト困難ニシテ殊ニ操縦者ニ智識ト熟練トヲ缺ク爲メ破損ヲ來シ修繕ヲナシ得ス且責任ハ嚴重ヲ極メ居ル等ノ爲メニ農場ノ當局及農民共之カ使用ヲ忌避シ居ルコトハ事實ナリ然レトモ機械ノ數ハ驚クヘキ多數ノ増加アリ(十月一日現在)

	一九三三年	一九三二年
トラクター	一九七八三五	一三七一二六
自動車 貨物	二四〇二六	一三、二一七
同 乗用	四四二八	七八五
穀物コムバイン	二二、二一七	一三、八六八

在オデッサ日本帝國領事館

其能率モ時ト共ニ漸増スルコトモ事實ニシテ「クリミヤ」共和國黨支部長ハ本收穫期ニ於テ農業機械ノ能率増進ニ付述ヘ八馬力ノ打穀機ノ能率ハ従前ノ一三一六「ツエントネル」ニ對シ一七一「ツエ」ニ増加セリ然シ複雑ナル機械ハ其能率ヲ未タ發揮セサル旨ヲ報告スル處アリ簡單ナル機械ハ相當ニ善ク利用セラレツ、アリ「トラクター」ノ代リニ馬匹及牝牛ヲモ使用シ本春來政府及黨部モ之ヲ保護獎勵スル策ニ出テタル爲メ本年ノ農事ハ相當進捗セルノ事實ハ認めサルヲ得ス

「トラクター」使用組織ノ改善法

勞働國防會議ハ九月二十一日付決定ヲ以テ「トラクター」ノ使用ハ

在オデッサ日本帝國領事館

從來秩序ナク不經濟ニシテ破損休止シ又ハ相當ノ期間ヲ經サルニ廢棄スルニ至リ其運轉手ハ未熟ニシテ變動多ク無能分子ヲ含ミ機械ノ修理ハ無組織ニシテ其質粗惡ナリ本年播種收穫ハ多少ノ改善ヲ見タルモ之カ整備ヲ要スルモノアリ之カ爲メニ「トラクター」ノ受入保管ヲ完全ニスル爲メ現在ノ技師ヲシテ其保管ノ責ニ當ラシメ各「トラクター」ニ「パスボルト」ヲ付シ責任ノ所在ヲ明ニシ「トラクター」ノ置場ヲ注意シ「トラクター」ノ使用ニ付テハ「ブリガド」組織トシ其長ヲシテ機械ノ使用ヲ管理セシメ各機ニ運轉手二人ヲ附シ其機ニ對スル責任ヲ持タシメ修理ノ手續ヲ定メ「運轉手」ニ付テハ明年二月十五日迄ニ技術ノ程度ヲ試験シ充分ノ人數ヲ準備シ賃銀ハ勞働日一日二留半及穀物三疋以上トシ仕事ノ難易ニ依リ勞働日ノ

在オデッサ日本帝國領事館

歩合ヲ定メ作業期ノ休業ニ對シテハ勞銀ヲ支拂ハサル等ヲ定メタリ

五 「コルホズニキ」ハ裕福ニナルヤ

農家ノ收得ニ付テハ第一ニ本年ハ天候好適ニシテ近年稀ニ見ル豐穰ナリシ爲メ農家ノ收得モ昨年ヨリハ増加セルカ政府及黨ハ農村ノ反對派「サボタジニキ」ヲ排除シ「スタリン」ノ「コルホズニキ」ハ裕福タルヘキナリトノ標語ノ下ニ穀物買上法改正、農事指導等ヲ行ヒ爲メニ政府ノ徵集スヘキ穀物ハ昨年ヨリハ好成績ニ進捗シ十月頃迄ニ約九割ヲ完了セリ農民「コルホズニキ」ハ幾何程度ノ收入ヲナシ得タルヤ又裕福トナレルヤハ大ニ重大ナルコトナルカ「コルホズ

在オデッサ日本帝國領事館

65

ニキ」ノ收得ハ穀物ハ總收穫高ヨリ(一)作付反別ニ對シ所定ノ率ヲ乘

シタル數量ノ義務的納入量(二)MTCニ對スル農具、「トラクター」

及打穀機使用料トシテノ現物(三)政府ヨリ貸下ヲ受ケタル種子返納分

ノ第一ニ強制的ニ納入スヘキ分ヲ差引キ之ヨリ種子及種子保険料(

全種子ノ一〇—一五%)並ニ家畜飼料ヲ差引キタル殘額ヲ仕事ノ難

易ニ依リ割合ヲ定メタル勞働日ニ分チ組合員各自ノ勞働日ニ依リ之

ヲ分配スルモノナリ

「コルホズニキ」ノ作物收得分ニ付テハ各地各機關ニ於テ代表的「

コルホズ」ノ好成績ノモノヲ舉ケツ、アルカ其例ヲ示セハ左ノ如シ

(一)「オデッサ」市郊外「コルホズ」「チエルボンヌイ、ネザモ

ジニク」

在オデッサ日本帝國領事館

66

所有地	四六一ヘクタール	
收穫物		ツェントネル
冬蒔小麦	二一二二、八	
ライ麦	一、二二五	
大麦	二、八九六	
小計	六、二四三、八	一「ヘクタール」當 一三、五ツエ
黍及玉蜀黍	二、三六	
碗豆及扁豆	二、一五	
計	六、六九四	同 一四、五
支出穀物		
政府納入、MTCヘノ支拂 農業技師及教師俸給基金二%		

在オデッサ日本帝國領事館

種子	二、〇六六	ツェントネル
保險料 一二%	五〇四	
畜糧 一頭馬六「ツエ」 牛三、豚四ノ割合	一、〇一三	
計	三、六四四	
差引 残	三、一五〇	
労働日數計	四、四〇〇	日
労働日一日當穀物	七疋	
同「コルホズニキ」中第一ノ取高多キモノハ二百十日分即チ九十 布度ヲ受取りタリ		
(二) 八月二十六日「エリオ」ノ訪問セル「オデツサ」附近ノ「チエ		

在オデッサ日本帝國領事館

ルボンヌイ、プロミニ」ニ於テハ一労働日ハ金ノ外穀物一三、五疋ナリト

(三) 「クリミヤ」ノ「ウルマン」MTC管下「ノワヤ、ザリヤ」ハ労働日一日ニ對シ昨年ノ一五「フント」及金四八哥ニ對シ三〇「フント」(約一二疋)及セニ哥ナリ
「クリミヤ」ニテハ最高六〇「フント」ニテ村一番ノ取高二八四日分家族ノ分ト合シテ一家穀物四百二十布度、~~葱~~十八布度ヲ受ケタルモノアリ

(四) 十一月三日付新聞「ブラウダ」ノ記載セルモノニ

(イ) 「セメルスキイ、ライオン」ノ「シユブリコフ」ハ一労働日ニ對シ穀物一〇、五疋及金三留五十哥ヲ受ケ

在オデッサ日本帝國領事館

(ロ) 「チエルボンヌイ、ガイ」ノ「コスチャ、パフレニコフ」ナルモノハ平均收穫一五「ツエ」ニシテ一労働日十六疋、二百二十日分計三、五二〇疋ヲ受ケタリ

(五) 「オデツサ」州「リュバシエフスキイ、ライオン」ノ「チエルボンニ、シワチ」組合ハ五十二戸ニテ四百四十「ヘクタール」ヲ耕作シ一労働日穀物十八疋ノ分配ヲナシ「ゴリク」ナル者ハ夫婦ニテ四百労働日ヲ、「ソコリュク」ナル獨身者ハ春以來百九十五日分ヲ稼キ「ザゴロドニク」一家(人數不詳)ハ七千二百疋及八百留ノ分配ヲ受ケタリト

(六) 北高架索地方ニ於ケル代表的ノモノニハ「バニコ」ハ夫婦ニテ六百七十三日分ニテ穀物一、四四〇疋及二千留ヲ得、「ログビノ

在オデッサ日本帝國領事館

「姉妹ハ二人ニテ七百六十日分即チ一、八〇〇疋及三千留ヲ得
其父一家ハ千二百四十一日分ニテ一六〇〇〇疋及三千留ヲ、
「マ
スラク」一家ハ七百八十日分ニテ一四四〇〇疋及二千五百留ヲ受
ケタリ

右ハ代表的ノ最高ノ收得ヲ舉ケタルモノニシテ一般的ノ資料未タ見
當ラサルカ「クリミヤ」ニ於テハ全「コルホズ」ノ五分ノ一ハ一〇
疋餘ヲ、「コルホズ」ノ半數ハ昨年ノ五一六疋ニ對シ七疋ヲ受ケタ
ル由ナリ「オデツサ」州第二MTG管下ノ「コルホズ」ハ平均シテ
一勞働日當リ一〇五疋ヲ分配シ「オデツサ」全州平均七疋ニシテ
「ハリコフ」地方ハ七五一八五疋ニシテ「ウクライナ」共和國全般
ニテ四乃至六疋ナリ「ゴリキイ」地方ハ八五一〇疋ヲ代表的トス

在オデツサ日本帝國領事館

「コルホズ」員ノ勞働日數ニ付テハ仕事ノ難易ニ依リ標準ヲ定メ其
率ニ出稼日數ヲ乗シタルモノヲ分配收得ノ勞働日數トスルモノナル
カ「クリミヤ」「スタロクリムスキイ」「ライオン」ノ一「コルホズ
」ノ例ニ依レハ「コルホズ」長三〇七日、經濟部長二四三日、簿記
係二八三日、農夫中優秀ナル「ブリゲド」員二四〇日、園藝二〇七
日等アリテ二百日分ノ分配ヲ受クル農民ハ優等ノ部類ニ屬ス家族ノ
勞働分ニ付テハ好資料見當ラサルカ一家五人ニシテ戸主以外ノモノ
カ戸主同様ノ勞働日數ヲ働クトシ合シテ二百四十乃至三百日トシ一
日ニ對スル穀物分配量ヲ「ウクライナ」平均ノ五疋トセハ千二百乃
至千五百疋トナル

地方民ノ話ヲ綜合スルニ作物ノ計算分配ハ中々困難ニシテ右ニ舉ケ

在オデツサ日本帝國領事館

ルカ如キモノハ稀ナルカ如シ農民ノ取分ハ十月迄ニ其四五割ハ分配
 済ニシテ他ハ未済ナルカ右分配済ノ内ニハ收穫開始當時ヨリ既ニ前
 渡（一〇―一五％ノ定）ヲ受ケ居リタルモノヲ含ミ居リ今後受クヘ
 キ分ハ全部打穀シ居ラサル關係モアリ多少變化アルヘシ

六 冬蒔物播種

(一) 計畧播種反別

冬蒔物播種計畧ニ付テハ昨年ハ八月十七日付農務部決定ヲ以テ定メ
 タルカ本年ハ之ヨリ一ヶ月早ク七月十七日付内閣決定ヲ以テ各地方
 社會部門別及小麥ニ關シ定メタリ其重ナル部分ヲ昨年ト比較シテ示

在オデッサ日本帝國領事館

セハ左ノ如シ（反別單位千「ヘクタール」）

一、地方及社會部門別

	一九三三年計畧			一九三二年計畧		
	全聯邦	ウク ライナ	北高架索	全聯邦	ウク ライナ	北高架索
總計	三八〇一〇	一〇、七三〇	三、九三〇	四一、九五三	一〇、七三〇	四、四五〇
コルホズ	二七八一五	七、五八〇	三、〇三〇	二九、一六〇	七、八〇〇	三、五五〇
内 MTC	一七、〇〇三	六、二〇〇	二、四五八	一七、〇〇〇	六、一〇〇	二、九二五
ソフホズ	三、四一五	九五〇	七二〇	三、五〇〇	九九一	七五五
個人農家	六、七八〇	一、四七〇	一八〇	九、二九三	一、九三九	一、四五
ニ小麥						
總計	一二、六〇〇	五、七三一	三、〇二四	一四、六一〇	六、五〇〇	三、七六〇

在オデッサ日本帝國領事館

内	コルホズ	MT C	ソフホズ	個人農家
	九六三〇	七九一四	一八七九	一〇九〇
	四七〇〇	四二五〇	六九〇	三四一
	二二六四	一八八一	六一〇	一五〇

本年冬蒔穀物ノ統制數字豫定ノ播種反別ハ三千八百五十萬「ヘクタール」ナルカ右内閣ノ決定ニ依ルモノハ約一%減縮ナリ之ハ本春以來實行セラレタル作付反別ノ縮少多收穫政策ノ續行ト見ルヘキモノナリ

右ハ昨年ノ計畫ヨリ三百九十四萬「ヘクタール」即チ九四%ノ減少ナルカ昨年ノ実績ヨリハ幾分多ク一九三〇年ノ程度トス主要農耕地方タル「ウクライナ」及北高架索ニ付テ見ルニ昨年ノ計畫數ニ對シ前

在オデッサ日本帝國領事館

計	ソフホズ	コルホズ	MT C	個人農家
小麥	五八五〇	七一〇	四八四〇	四二六八
				三〇〇

者ハ六八%、北高架索ハ一七%ノ減少ナルカ右減縮ノ原因ハ北高架索ハ昨秋ノ成績非常ニ不良ナリシ結果ナルヘシ

社會部門別ニテハMT Cヲ利用スル「コルホズ」ニ歸スルモノ、増加セル外他ハ孰レモ減少シ殊ニ個人農家ハ二百五十一萬「ヘクタール」二七%ノ減少ナリ右ハ「コルホズ」ニ移レルモノアリ本春ノ個人作付地積ハ昨春ニ比シ三三%モ減少セルカ爲メナリ

小麥ハ昨年計畫數ニ比シ一三%減ナリ

「ウクライナ」政府ハ右聯邦内閣ノ豫定ヲ變更シ左ノ統制數字ヲ豫定セリ（單位千ヘクタール）

在オデッサ日本帝國領事館

ライ麦 四一五〇 二四〇 二八六六 二〇一七 一〇四四
計 一〇〇〇〇 九五〇 七七〇六 六二八五 一三四四

(二) 播種実績

聯邦農務部ノ公表ニ依レハ九月三十日現在播種地積左ノ如シ(單位
千ヘクタール)

	一九三三年	一九三二年	一九三二年
全聯邦	二七〇五四七、一	二六四七六六四七	二九六五一六九〇
内			
ウクライナ	(五) 九八七五九九	五〇五五四七七	七三一六六六五
北高架索	七八八二〇、一	九六八二二、一	(四) 〇一四二二、五
ウォルガ下流	一、四六三六〇、二	一、四五四六六一	一、八七五八二、〇
	ン對 %ラ	ン對 %ラ	ン對 %ラ

在オデッサ日本帝國領事館

中央黒土地方 三、三一〇八四九 三、七〇五九四八 三、七五五

本年ノ秋蒔播種ハ全國トシテハ反別ニ於テモ「テムボ」ニ於テモ昨
年ニ優リ一九三一年ニ比シテハ反別ハ減少セルモ「テムボ」ニ於テ
優レリ

其後聯邦農務部ノ公表ニ依レハ十月二十日現在ノ成績左ノ如シ

	一九三三年	一九三二年	一九三一年
全聯邦	三、〇七〇八七〇	三、三四六九八、七	三、四七七八〇、九
ウクライナ	九一〇八九四、一	八七八七八二、九	九七八三八七、三
北高架索	二、一四四五四、五	二、二六三五一、五	二、三二八五一、七
	%	%	%
			三對 〇一年九

在オデッサ日本帝國領事館

中央 地方	土	ガウ 下オ 流
三六八一 九四四	二〇〇五 八〇七	二〇六七 九四〇
三八六三 九八八	二〇三七 九七七	二〇六八
三八五八 九八九	二〇六八	

十一月五日迄ニ全聯邦播種反別ハ三千五百三十五萬一千一ヘクタ
ル「プラン」ノ九三、二%ニ達シ主要農耕地方中「ウクライナ」ハ九
九五%ヲ遂行シタルモ北高架索地方ハ七三、一%ナリ
南露主要農耕地方ノ内「ウクライナ」ハ「ソフホズ」ハ北部ハ九月
二十日、中部二十五日、南部十月一日、「コルホズ」農民部ハ之ヨ
リ夫々五日遅レノ期限ヲ以テ播種完了ノ豫定ニ對シ十月一日現在ノ
成績ハ六割ニ達セス「ソフホズ」ハ五、五%ニシテ個人農家ハ四七
%ナリ尤モ北部ノ「キエフ」州ハ全部門ニテ九三、三%ヲ播了セリ
而シテ之ヲ一昨年ニ比スレハ未タ及ハサルモノアルカ昨年ニ比スレ

在オデッサ日本帝國領事館

州	播種 總面積	小麥播種 面積	コル ホズ	個人農家 ソフホズ	計
キエフ	一、三四二	六〇一	一、一〇	六七一	一、一〇〇、六
チエルニゴフ	七六六	八八一	一六三	七九七	一、一〇〇、〇
ウインニツア	一、〇六七	五八六	一〇九一	七七四	九四六
					九八八

ハ幾分優ルモノアリ依テ「ウクライナ」黨本部ハ十月三日付ヲ以テ
「オデッサ」州ハ十月二十日、他ハ十五日迄ニ是非共播種ヲ終了ス
ヘキ旨ヲ命令スル處アリタリ
右十月十五日ノ期限ニ豫定以上ニ播種セルモノハ「チエルニゴフ」
州ノミナリ而シテ「オデッサ」州ノ爲メニ定メラレタル十月二十日
ニ於ケル各州ノ播種成績左ノ如シ（單位千ヘクタ）

在オデッサ日本帝國領事館

ハニコフ	一、六三九	七二〇	一〇七六	五六七	一一〇、三	一一〇、一
ドネプロベト	一、七七六	一、四六〇	八九三	二二、三	七五〇	八五七
オデツサ	一、五二六	一、四二九	七九〇	四〇、四	六二、七	七五九
ドネツ	七八八	三八一	八八五	五五〇	八三、九	八六六
モルダビヤ	二〇一	一七〇	九二、四	八九五	〇九二	九二、五
計	九一〇七	五四三九	九六〇	六七六	八四六	九一、一
十月二十五日現在	九四六六	五六八一	九九六	六九〇	九〇、八	九四七

右ノ如ク「ウクライナ」ニ於ケル秋蒔物ノ播種ハ豫定期限ニ遅レタルモ昨秋十月二十日現在全「ウクライナ」ハ七八七千「ヘクタール」ハ二九%、一九三一年ノ九七八三千「ヘクタール」ハ七三%ニ比スレハ好成绩ナリ地方トシテハ十月二十五日迄ニ北部四州ハ豫定ヲ超過

在オデッサ日本帝國領事館

シ南部中「オデツサ」ノ八、九%ヲ除ケハ他ハ九割台ナリ「オデツサ」州ニ付テハ同州北部「ノウオウクラインカ」其他四「ライオン」最不成績ニシテ豫定ノ五六割ヲ遂行セル状態ニ依ルモノニシテ昨秋十月二十日現在ノ一、四三七五〇〇「ヘクタール」六七%ニ比スレハ稍々好成绩ニシテ基本的ニハ昨秋ヨリ二十日早ク終了シタリ其不成績ノ原因ニ付テハ當局ハ例ノ如ク「クラキ」分子ノ活動ニ依ル「サボタージュ」馬匹牽引力ノ動員不足等ヲ舉ケツ、アルモ同地方ノ農事不振ハ昨年来ノコトニシテ昨年ノ不作ニ依リ多數農民ノ餓死死亡ノ結果ニシテ農作期ニ同地方ハ奥地ニシテ南部カ市民労働者ノ援助ヲ受ケタルニ反シ之ヲ受ケサル爲メナリトス

社會部門別ニ付テハ個人農家ノ部最モ不成績ニシテ十月二十五日迄

在オデッサ日本帝國領事館

ニ「オデッサ」州ハ四七三%、「ドネプロベトロフスク」州ニ七六%ナルカ「コルホズ」ノ好成績ハ大ニ之ヲ補ヒ「ソフホズ」ハ南部三州不成績ナリ

十一月六日迄ニ「ウクライナ」全體ニテ九百九十四萬八千一ヘクタール「ブラン」ノ九九五%ヲ播種シ「オデッサ」「ドネプロベトロフスク」「ドネツ」三州以外ノ各州ハ豫定ヲ超過シタリ

小麥ハ豫定ノ一〇三、四%、「コルホズ」ハ一〇五、二%ヲ遂行セリ一般ニ「ウクライナ」本秋ノ播種ハ最近二年ニ比シテ幾分優ルモノアリ唯本秋ハ從來ヨリ播種ニ宣傳其他計畫遂行ヲ助クヘキ運動ヲ盛ニ行ヒタリ

北高架索、「ウォオルガ」下流、中央黒土地方ハ前二年ニ比シ孰レモ

在オデッサ日本帝國領事館

83

劣リ北高架索ハ北部ハ九月二十日、東部ハ十月一日、「クウバン」ハ十日迄ニ播種ヲ終了スヘキ豫定ナリシモ右ノ如ク十月一日現在ニテ僅ニ二〇%ハ甚タシキ不成績ナリ而シテ十月十日迄ニ同地方「コルホズ」及個人農家ハ一、一六九千一ヘクタール「ブラン」ノ三六四%ヲ播種セルノミナリ右ハ昨年ヨリ少シ好成績ナルカ同地方穀物MTCハ本年「トラクター」三千二百台ヲ新ニ受ケタルカ其勞役時間ハ四二%ニシテ他ハ休止セル等能率揚ラス「クウバン」ハ殊ニ不成績ナリ

之等南方主要農耕地方ニ於ケル冬時播種ハ單ニ進捗セサルノミナラス耕作法不良ニシテ機械ノ使用ハ兎角忌避シ又ハ機械ヲ使用シ得ス當局ノ怠慢、農民ノ不熱心改マラスト之ニ反シ北部各地方ハ大概九

在オデッサ日本帝國領事館

84

月三十日迄ニ豫定ヲ超過シ「ウォルガ」中流地方モ之ニ近キ成績（九七一％）ヲ示シ居レリ

社會部門別ニ付右全國播種成績ヲ見ルニ左ノ如シ（千ヘクタール）

	一九三三年	對プラン%	一九三二年	對プラン
ソフホズ	一、七七四	五、九	一、四〇五	四〇、〇
内ソフホズ部所管	一、〇四六	四、五五	一	一
コルホズ	二、〇一ニ	七、五五	一、七八〇	四、一
内MTC	一、一八五	六、五八	九、三五三	五、五
個人農家	四、二〇八	六、二九	七、二六七	七、八二

本年ノ播種成績ハ「ソフホズ」ハ他ノ部門ニ比シ遅レ居ルモ昨年ニ

在オデッサ日本帝國領事館

比シ「ソフホズ」「コルホズ」共優ルモノアルカMTCノ力ヲ藉ラサル「コルホズ」カMTC關係ノ「コルホズ」ヨリ好成绩ニシテ「ゼルノソフホズ」等「ソフホズ」部所管ノ「ソフホズ」カ農務部所管ノモノヨリ不成績ナリ個人農家ハ播種反別モ作付行程モ昨年ヨリハ不成績ナリ

尙十月二十日現在成績ハ左ノ如シ

	一九三三年	一九三二年
ソフホズ	二、四二三	七、一〇
コルホズ	二、五七八五	九、二四
MTC		一、二九一三
個人農家	四、八六二	七、二八
		八、二〇五

在オデッサ日本帝國領事館

犁起

來春作付準備トシテノ作付地犁起モ秋蒔其他農事同様昨秋ニ優ルモノアルカ一昨年ニハ及ハス「トラクター」農業機械其他農事補助機關ノ増加發展セル今日ニ於テ斯ル成績ハ決シテ賞揚スルニ足ルモノニ非ス殊ニ國營農場ノ不振ハ此ノ狀態ヲ一層濃厚ニ示スモノナリ今聯邦農務部公表ニ依リ犁起成績ヲ示セハ左ノ如シ（十月二十日現在、單位千ヘクタ爾）

	一九三三年	一九三二年	一九三一年
ソフホズ	一、二八四一九六	一、三一三	三、一二一
ソフホズ	%	%	%
コルホズ	一四、〇八四五二、〇	一、七一七	一七、三一

在オデッサ日本帝國領事館

個人農家

計	一、四一一五二七	一、九五五	二、一九六
	一六、七七九四六〇	一四、九八五三四	八二、六二八五三

本秋農事ノ結果

以上述べタル本期農事成績ヲ要約スレハ左ノ如シ

一、八月末穀物刈倒面積ハ七千二十五萬「ヘクタ爾」、作付地積ノ八三、八%ニシテ一昨年ヨリ劣ルモ昨年ノ六千四百六十九萬「ヘクタ爾」一七八六%ヨリ好成績ナリ主要農耕地方タル南露四地方ハ孰レモ昨年ヨリ好成績ヲ示シタリ

在オデッサ日本帝國領事館

社會部門別ニテハ個人農家ハ其自體ノ數作付反別減少セル外收穫成績モ他部門及前年ニ比シ甚タシク劣リ「ソフホズ」モ成績舉ラ
ス

一、穀物打穀ハ八月末迄ニ全聯邦ニテ二千六百四十一萬「ヘクタ
ル」刈倒地ノ三七六%ヲ了シ一昨年ヨリ絕對數ニ於テ少ナキモ其割
合及昨年ノ千九百四十三萬「ヘクタ爾」一三〇%ヨリ好成績ナリ
南露四地方ノ成績ハ昨年ヨリ優レルモ「ウォルガ」下流地方以外
ハ一昨年ニ及ハス殊ニ「ウクライナ」及北高架索地方ハ一昨年ニ
ハ遠ク及ハサルモ「アリ」十月二十五日迄ニ全聯邦ハ刈倒地ノ七八
一%ヲ、南露四地方ハ七五五一八九三%ヲ打穀シタリ
東部西伯利、極東等ノ收穫ハ刈倒モ打穀モ極度ニ不成績ナリ

在オデッサ日本帝國領事館

89

國營農場ノ打穀成績ハ農民部ニ及ハサルコト甚タシ

一、本年ノ收穫時ニ於ケル穀物作付反別ハ八千三百八十萬「ヘクタ
ル」昨年ヨリ一百萬「ヘクタ爾」多キモ一九二九年乃至一九三一
年ノ孰レヨリ八百萬乃至二千萬「ヘクタ爾」少ナシ

實際刈倒ヲ了シタル地積ノ絕對數ハ大約七千八百萬「ヘクタ爾」
ニシテ昨年ヨリ百四十五萬「ヘクタ爾」多ク刈殘地積四百八十萬
「ヘクタ爾」アリ而シテ畑ヨリ取入レタルモノ及禾堆積トセルモ
ノハ約七千四百萬「ヘクタ爾」ナレハ四百萬「ヘクタ爾」分ノ穀
物ハ東ニシ又ハ寄セ集メタル儘畑中ニ放棄サレアリ既ニ腐朽セル
モノアリ

一、收穫率ハ昨年ニ比シ南露ニハ二倍ニ達セルモノアルモ昨年ノ一

在オデッサ日本帝國領事館

90

「ヘクタール」ニ付セ「ツエントネル」ヨリハ優リ大體統制數字
豫定ノ八「ツエントネル」程度ト推定セラル、モ若シ「クリミヤ
」並ニ十「ツエントネル」ヲ全聯邦平均トセハ本年ノ穀物收穫高
ハ七千四百萬噸ニシテ一九三〇年ノ八千三百五十四萬噸ヨリハ劣
リ一九二八年ノ七千三百三十二萬噸ニ近似シ一九二九年ノ七千百
七十四萬噸ヨリハ優ルコト、ナル

「政府買上ノ穀物ハ穀物買上法ノ改正ニ依リ租税同様強制的ニ徵
集セルト當局及黨部ノ活動指導強制ニ依リ豫定以上ノ「テムボ」
ニテ徵集シ主要農耕地方タル「ウクライナ」ハ十一月七日迄ニ完
納シ北高架索其他等モ豫定以上ニ納入シ「ソフホズ」モ農民部ヨ
リ不成績ナルモ豫定以上ニ納入セリ之ヲ昨年ハ年末迄ニ八五％程

在オデッサ日本帝國領事館

度ニ納入セルニ比スレハ時期早ク之以上ヲ徵集シ得タルコトハ成
功ナリトス

「本年收穫期ニ於テ「ウクライナ」「ドネプロベトロフスク」及
「キエフ」州ノ「ソフホズ」ハ勞働者二四―二五％不足ナリシ由
ナルカ之ハ同地方ニ於テ今春來缺食及其餘病ノ爲メ多數（「ウク
ライナ」ニ於テハ少クトモ五百萬人）死亡シタル結果ナリトス
「農業機械ハ昨年ヨリ非常ニ増加シタルモ其増加程度ノ能率ヲ舉
ゲス殊ニ複雑ナル機械ハ農民ノ智識技術ノ低キ爲メ能率極メテ低
シ「コルホズ」ニ於ケル收穫事業ノ進捗ハ黨部ノ指導強制ト不足
乍ラ馬匹ノ利用カ昨秋ヨリ高マリタル爲メナリ

「「コルホズニキ」ノ收穫ハ豐作ノ爲メ昨年ヨリ多キコトハ事實

在オデッサ日本帝國領事館

ナルモ未タ裕福トナル途ニ入レルヤ否ヤ今ノ處不明ナリ
一、冬蒔穀物ノ播種反別ハ全聯邦ニテ十月二十日迄ニ三千三百萬一
ヘクタール豫定ノ八七%ヲ作付シタリ右ハ豫定計畫遂行ニ於テハ
前二年ニ比シ一、一五三%優レルモ絶對反別ハ少ナシ
南露四大地方ニ於テハ「ウクライナ」ハ前二年ヨリ好成績ナルモ
他ノ三地方ハ劣ル

一、來春作付準備ノ舉起ハ十月二十日迄ノ成績ニテ昨年ニハ優レル
モ一昨年ニハ及ハス國營農場ハ農民部ニ比シテモ前二年ニ比シテ
モ劣ル

一、以上列舉セル如ク本年ノ收穫ハ全般ニ涉リ昨年ヨリハ好成績ナ
ルモ一昨年ニハ及ハサルモノアリ南露主要農耕地方ハ右同様ノ狀

在オデッサ日本帝國領事館

93

態ナルカ東部西伯利極東其他北方ハ甚タシク惡シ

一、新麥類ノ輸出ハ九月迄ニ於テ小麥カ昨年ニ比シ少シ多キモ麥類
全體トシテハ少量ニシテ一九三一年ノ五分ノ一位ニ止マル

在オデッサ日本帝國領事館

94

工業

一、國營工業ノ總生産高

本年一月ヨリ九月ニ至ル三期間ノ國營工業ノ總生産高ニ付新聞「エ
コノミイチエスカヤ、ジイズニ」所報ヲ綜合スルニ左ノ如シ（單位
百萬留）

四部所管工業總生産額 一五三〇四三 二二七八三六
上半期 三期累計

在オデッサ日本帝國領事館

内
A 類 八五四三一 一二、九二〇〇
B 類 六七六一二 九八六三六
右生産額ノ年「プラン」及前年同期ニ對スル比較ヲ示セハ左ノ如シ
（單位％）

全國營工業總生産額	A 類	B 類	重工業	林業	上半期		第三期		一―九月累計	
					對年 ％	對前年 同期％	對前年 同期％	對年 ％	對前年 同期％	對前年 同期％
四三、三	四二、九	四三、八	四二、二	四九〇	一〇二、三	一〇五、一	一一三、九	六四、五	一〇四、二	六七、二
一〇二、三	一〇五、一	九九、一	一〇七、四	九三、七	一一〇、八	一一一、四	一一四、七	六四、九	一〇九、六	六七、二

在オデッサ日本帝國領事館

輕工業	四九七一〇〇七	九九一	六八一
食品工業	三九二	一〇五九	五九〇

右表ニ依リ第三期ニハ輕工業ノ外孰レモ昨年同期ヨリ生産増加セルカ全部豫定通りノ業績ヲ舉ケタルモノ無ク林業及輕工業ハ上半期ヨリモ減産ナリ

一月ヨリ九月ニ至ル三期間ノ生産成績ニ付テハ國營工業全體トシテハ昨年同期ヨリ四二%ノ増産ナルカ之ハ重工業ノ増加ニ依ルモノニシテ他ノ三部所管工業ハ少シク減産セリ

本年統制數字ハ本年ノ工業生産額ノ増率ヲ昨年実績ニ比シ全體ニテ一六五%内A類二、三%、B類一〇、五%ト豫定セルカ過去九ヶ月ノ成績ハ遙ニ之ニ及ハス此備ニシテ推移セハ重工業ノ増産アルトモ本

在オデッサ日本帝國領事館

年ハ豫定ヨリ一割餘ノ不足ヲ見ルヘシ

一九三二年ノ大工業生産額三百四十三億留ニシテ五年計畫ノ一九三二一三年度ノ豫定三百六十六億留ニ對シ六三%ノ不足ヲ見タルカ一九三二年十月ヨリ本年九月ニ至ル一年間ノ工業生産モ亦右五年計畫末年度ノ豫定ニハ達セス尤モ重工業ハ計畫ヲ超過セルカ消費物品製造方面ニハ大ナル缺陷アリトス

ニ 重工業一般

イ 製産

在オデッサ日本帝國領事館

本年上半期重工業總生産額ハ昨年同期ニ比シセ四%ノ増加ニシテ幾
 多成功セル方面アルモ其「ブラン」ニ對シテハ第一期ハ九一、四%、
 第二期九三、八%ニシテ年「ブラン」ハ四三、三%ヲ遂行セルノミ
 本第三期七月ニ於テハ六月ニ比シ石炭、石油、鐵類及自動車「トラ
 クター」製造等ノ生産増加セルモ他ハ減退シ爲メニ重工業全體ノ生
 産高ハ同月「ブラン」ノ八七%、年「ブラン」ノ六九%ヲ實行シタ
 ルノミ
 八月ハ各部門共一般ニ生産増加シ四八%ノ増率ヲ見タルモ同月ノ「
 ブラン」モ増大シ居リシ爲メ其遂行率ハ八五七%ナリ
 九月ハ自動車「トラクター」製造、基本化學工業ノ成績良好ニシテ
 石炭、石油ノ採收及製鐵モ引續キ増産アリ有色金屬及交通運輸機械

在オデッサ日本帝國領事館

第一期	第二期	上半期計	七月	八月
九一、四	九三、八	九三、三	八七、〇	八五、七
對前月%	對前月%	對前月%	對前月%	對前月%
一〇三、五 (一〇三、九)	一一〇、二 (一一〇、一)	一〇七、四	一一一、二	一一六、六
對前年同期%	對前年同期%	對前年同期%	對前年同期%	對前年同期%
對年ブラン%	對年ブラン%	對年ブラン%	對年ブラン%	對年ブラン%
		四二、三	六九	七六

製造ノ不成績アリシモ總體ニ於テ前月ニ比シ三、八%増産、月「ブラ
 ン」ハ八七、七%ヲ遂行セリ
 右ノ成績ヲ表示セハ左ノ如シ

● 重工業ノ生産成績

在オデッサ日本帝國領事館

探炭	四三、九	八〇	七六	八五、六八〇	一一四、六
探油	四二、八	七七		六六、九	一〇二、〇
グロズ ネフチ	三七、六			五四、六	
發電量	四五、五		(六〇、二)		一二二、三
基本化學	四三、九				一二〇、二
有色金屬	三一、一	五六	七一	五九、四九七	
建築材料	二八、七				
機械製造 全般	四四、八				一一四、五
農具	三九、二		(五〇、四)		
自動車 トラクタ		(五九、九)		八〇、四	一八三、六

在オデッサ日本帝國領事館

102

九月	八七・七	一〇三・八	一一五・三	七・九
第三期	八七・四		一一五・一（一一一・四・七）	二二・四
三期累計			一〇九・六	六四・七

・ 重工業生産高ノ年「プラン」ニ對スル割合 （一）内ハ「エコノミイチエスカヤ、ジイズニ」所報				
重工業	上半期%	七月	八月	九月
製鐵	四二・三	六九・七・六		七九・六・四・七
銑鐵	三五・八	六七		五六・五・一一・二・九
鋼	三三・八	六五・六・九 (四二・八)		七一・五四・三・一一・〇・三
				三期計對前年同期

● (一) 内ハ「エコノミチエスカヤ、ジイズニ」所報
重工業生産高ノ年「プラン」ニ對スル割合

在オデッサ日本帝國領事館

101

E-0288

0187

採油	製鐵	銑鐵	銅	有色金屬	自動車 トラクタ	電機	農具	交通機械	化學工業
八五八	九三	九三	八二八	六〇七	一〇三六				
一四二	一二九	一二九	一二八				九一、四	六五九	一三三、〇
九七八	八、〇	八六六	八三〇			九七四	七六七	九六八	
一〇七二	一二六	一二八	一四二〇	一〇八八					一四九一
九九九		八三三	八六〇						
一二六		一二二	一三九						一六三、〇
二九二	八五三	八八九	二八四					六七六	
一三九		一二五	一三六						
六		九	一						

在オデッサ日本帝國領事館

交通機械	旋盤製造	重工業主要部門ノ成績ニ付各月ノ月「プラン」ノ實行割合及前年同月ニ對スル割合ハ左ノ如シ	重工業	發電量	採炭
三六八			八七〇		九一、四
			一一、二		一二七六
			八五七	九二七	九〇、二
			一一六六	一二六八	一三七六
			八七セ		九〇、〇
			一一五三		一四〇、〇
六三			八七四		九〇、六
五五八			一一五		一三六八
一〇、八					
一九九					

在オデッサ日本帝國領事館

本年ノ重工業生産ハ二月以降逐月増加シ前年同期ニ對シテモ増加ヲ見殊ニ五月ヨリ八月ニ至ル從來ノ夏期工業減退期ニ於テ減産ナク却テ増産ヲ見タルコトハ成功ト稱スヘシ
然レトモ豫定計畫ノ實行ハ本年ノ計畫力從前ヨリ縮少シアルニ不拘自動車及「トラクター」製造ノ外豫定ニ達セルモノナク其各月成績ハ六月以來少シク減退シ第三期ノ成績ハ生産ノ絶對數カ第一期ニ比シ一三・二％増加セルモ「ブラン」ノ實行ニ於テハ第一期ニモ及ハス且従前年同期ニ對スル増率ハ八九兩月ヲ除ケハ昨年ノ「テムボ」ニ及ハス一月以降九月迄ノ累計ニ於ケル増率ハ昨年ノ二三％ニ對シ本年ハ九六％ニシテ此「テムボ」ハ既ニ遞減ノ域ニ入りタリト謂フヘシ

在オデッサ日本帝國領事館

105

□ 労働生産力ノ増加

本年工業生産計畫ニ於テ國營工業全般ニ於ケル労働生産力即チ労働者一人當リノ生産高ハ昨年ニ比シ一四％増其内譯重工業部一六・五％輕工業部一二％、林業部一八・一％、供給部一四・六％増加ニシテ之ニ依ル金額四十億留ノ豫定ナリ而シテ労働者員數ノ増加ハ重工業ニ於テ二％ヲ豫定セリ
昨年ノ労働生産力増加計畫ハ國營工業全般ニ付二二％ナリシカ其實績ニ付テハ繼リタル資料ナキモ之ヲ遂行スル能ハサリシコト明カナルカ其重ナル原因ハ生産手段及勞力ノ利用即チ労働組織ノ問題ニ歸スル處労働力ノ過剩、労働者ノ移動、缺勤ノ多キコト、補助的人员

在オデッサ日本帝國領事館

106

ノ多數、官僚的机上の指導、技術家ヲ管理方面ニ集中セルコト、労働計算及勞銀組織ノ不良、供給ノ缺陷等ナリ
本年ノ産業計畫ハ從來ト異リ工業ノ質的改善ニ相當重キヲ置キタルカ重工業ニ於テハ労働者人數ハ昨年同期ニ比シ減少シ第三期ニ於テハ第二期ヨリ二萬五千人少ナキモ九月ニハ増加シ昨年九月ヨリ〇・一%増シタリ從テ労働日數ノ割合モ増加セリ労働生産力増加ニ關スル統計數ヲ示セハ左ノ如シ

第一期	第二期	昨年同期ニ對スル労働人數ノ割合%	昨年年平均額ニ對スル%	實期プランノ%	對前年同期%
		九四三 九四一	一〇三・五 一一四・六	九五六 一〇〇・五	一一〇・一 一一八・六

在オデッサ日本帝國領事館

107

上半期平均		三期平均	三期各月ノ重工業労働生産力ヲ昨年同期ニ比スレハ左ノ如シ
第三期	三期平均		
九八四	九八四	九八四	尙第三期各月ノ重工業労働生産力ヲ昨年同期ニ比スレハ左ノ如シ 六月 一一六・七 % 七月 一〇九・八 八月 一一二・三 九月
一〇九・一	一一〇・八	九八四	
九五九	九五九	九五九	
一一八・六	一一四・二	一一四・二	
一一八・六	一一四・二	一一四・二	

第二期

第三期

在オデッサ日本帝國領事館

108

E-0288

0190

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

機械製造	一一五七	一一六一
石炭	一一四九	一一五九
石油	一〇二七	一〇四一
製鐵	一〇五五	一〇九七

第四期ハ二〇%増ノ豫定ナリ

重工業各部門ニテ労働生産力ノ昨年ニ比シ減少セルモノハ石油（「グロズネフチ」ノ不成績ニ依ル）ノ外耐火煉瓦、「セメント」及製材業ナリ

労働生産力即チ労働者一人當ノ生産高ノ増加ノ原因ハ

(一) 缺勤ノ減少ニシテ昨年九ヶ月労働者一人當ノ労働時間二一四時ノ内實際労働時間一八九八時即チ八八七%ニ對シ本年同期二一九

在オデッサ日本帝國領事館

五九時即チ九二%トナリ此ニ依ル重工業部所管工業ノ收得ハ三億留ヲ超ユ

(二) 労働者ノ出入移動ハ幾分減少セリ即チ平均一日ノ出入労働者ノ

割合ハ左ノ如シ

入 出

全工業	三二年八月 一、〇%	三三年八月 一、〇、五%	三二年八月 一、三、二%	三三年八月 一、〇、四%
A類	一、一	一、一	一、四〇	一、一、六
B類	一、〇、九	九、四	一、一、七	七、九

(B類ノ労働生産力ハ九ヶ月ニ前年同期ニ比シ三、四%増)

(三) 機械ノ利用率低ク採炭ニ於テハ依然七割前後、「クズバス」ハ「ドンバス」ヨリモ一割方低シト

在オデッサ日本帝國領事館

(四) 労働者移動ノ最大原因タル給養ノ内住宅ノ建築ハ進捗セスード
 シバス」ニ於テ七ヶ月間ニ年「プラン」ノ二九・四％、「ゴルキイ
 」(ニイジエゴロド)自動車工場ハ二〇・二％ヲ完成セルノミナリ
 ト

ハ 重工業ニ於ケル「コスト」ノ低下

本年重工業ノ「コスト」ノ低下ハ五％ノ計畫ナル處第一期ハ昨年ノ
 年平均ト同一程度ニシテ四月ハ四・三％、五月四・六％、六月五・八％、
 第二期平均五％ヲ低下セルカ上半期ハ結局二・六％ヲ低下セリ但シ原
 料ノ實價ト計畫價格トノ間ニ大ナル開アルヲ以テ此低下モ効果顯著
 ナラス

在オデッサ日本帝國領事館

重工業ノ重ナル部門ノ上半期ニ於ケル原價ノ低下率ヲ示セハ左ノ如
 シ

	豫定	実績	備考
一、機械製造	八・五％	一・六％	
自動車トラクター製造	一四・〇	二・五	実績ハ工場價格
旋盤製造	一・三	二・六	同
二、製鐵	七・五	六・九	
三、採炭	三・五	一・四	
四、コークス	一・一	一・四	
五、採鐵鑛	七・六	三・〇	
六、アズネフチ石油	八・〇	五・三	

在オデッサ日本帝國領事館

一般ニ第二期ハ低下ノ度ヲ加ヘ(一)有色金屬業ハ第一期三、一%向上、
第二期五、六%低下(二)發電所ハ第一期三、五%、四月五%、五月七、一%
六月一、〇、二%ヲ夫々低下シタリ

三、建設工事

第三期ニ於ケル大建設事業ハ非常ニ不振ニシテ本期中完成セル重ナルモノ左ノ如シ

一―九月累計	
單位	第三期完成プラン
實績	
發電所	千キロワット
	五八〇
	三七〇

在オデッサ日本帝國領事館

113

熔鑛爐	基	一	一〇	五
マルテン	基	九		一二
ブルウミング基	一			三
壓延台	基	三		六

而シテ特筆スルカ如キ大工場ノ本期中完成セルモノナシ

●「アゾフスタリ」ノ熔鑛爐

「マリウボリ」ニ建設中ナル製鐵「コムピナト」「アゾフスタリ」
ノ第一熔鑛爐ハ八月十一日火入ヲナシ八月十三日初メテ銑鐵三十噸
ヲ製煉セリ右ハ聯邦ニ於ケル百七番ノ熔鑛爐ナリ
同製鐵所ハ第一次設備トシテ左ノ設備ヲ有ス

在オデッサ日本帝國領事館

114

九三〇立方米

二五〇 頤

コークス化學コンビナト 生産能力、三〇〇千噸

年產高銑鐵九二四千噸、鋼一、三、五千噸、レール六六〇千噸及「ブ

リユムスレ一八〇噸ナリ

同工場ハ「ケルチ」鐵鑛ヲ原料トスルモノニシテ採鑛低廉ニシテ尙

鑛石ニハ年額約五百噸ノ「ワナジウム」ヲ採收シ得ルモノナリ

在オデッサ日本帝國領事館

115

探炭高ハ六月ヨリ九月ニ至ル迄各炭坑探炭競争アリ之ニ参加セルモノ「ドンバス」七十坑及「クズバス」「モスコウゴル」十三坑ニシテ主トシテ「ドンバス」ノ好況ニ依リ其絶對數ハ例年夏期減退ニ反シ毎月漸増シ左ノ成績ヲ舉ケタリ

在オデッサ日本帝國領事館

116

キゼリ	八六〇	八一〇	七三三	七七九
ボゴスロフスキエ				
炭坑		一	五九一	
クズバス	九四八	八九六	八八一	八九六
東部西伯利	八二二	八二三	七六八	六九一
極東	七一〇	七七九	六六〇	六六九
カラガンダ	六三七	七九〇	七三七	六四六
中亞	六一二	四七〇	四二九	四三一
トランウゴル		五二六	五七七	

右ノ如ク石炭ノ採掘ハ昨年ニ比シテモ増加シ逐月漸増ノ傾向アリ殊ニ主要「トラスト」ニ於テ好成績ナルカ此好況カ持續スルトシテモ

在オデッサ日本帝國領事館

石油ノ採收高ハ本期七月ニ入り前月ヨリ減退セルカ八月ヨリ増加シ				
九ヶ月間累計高年豫定高ノ六六九%ニ達セリ各月ノ成績左ノ如シ				
對プラン%	對前月%	對前年同期%		
七月	八五八	九一〇		
八月	九七八	一一四〇	一〇七二	
九月	九九二	一一〇三	一二六二	

上半期ノ不成績ニ依リ本年ノ豫定計畫ハ約一割ノ不足ハ免レサルヘシ

石油

在オデッサ日本帝國領事館

第三期

九〇、二

一

一

一―九月累計 △六六九

△八年「ブラン」ニ對スル割合

右ノ如ク本期採油ハ「ブラン」ノ九二、九％ニシテ昨年同期ニ比シ「ブラン」ノ遂行率高ク殊ニ從來夏期生産減退期ニ減退セスシテ反テ増産セルコトハ成功ナルモ本年ノ採油「ブラン」ハ昨年計畫ヨリ減縮シ實績ノ一割増ノ年二千四百四十萬噸ノ豫定ナレハ過去九ヶ月間採油量累計ハ「ブラン」ノ六八、五％トシテ千六百七十一萬噸ナレハ昨年同期ニ比シ僅ニ二％餘ノ増加ナリトス依テ本年ノ豫定即チ昨年の實收量ノ一割増ハ第四期ニ於テ豫定以上ノ採收ナキ限り實現シ難シ

在オデッサ日本帝國領事館

121

聯邦油田中最大ノ「アズネフチ」ハ第三期中豫定以上ノ好成績ヲ見タルカ之ニ次ク大油田「クロズネフチ」其他ノ小「トラスト」ハ成績好轉セサルヲ以テ右缺陷ヲ來セル次第ナリ
原油ノ採收高ハ第三期中「ブラン」ノ九〇、二％ナルカ「ケロシン」ハ八七、八％、「ベンジン」ハ八五、％ニシテ製造ハ採油ヨリ劣リ居レリ

イ アズネフチ

「バクウ」ヲ中心トスル「アズネフチ」ノ第三期採油計畫ハ一日四萬四千噸ト航海期終了迄ニ「バクウ」ヨリ海路送荷スヘキ五十萬噸ヲ採收スヘキ指令アリタルヲ以テ下半年期ノ採油豫定量ハ當初ノ計畫

在オデッサ日本帝國領事館

122

E-0288

0197

國立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

ヨリ一百万噸増加セリ

其實績ハ第二期ノ好成绩ニ安心シテ當局ノ努力ヲ怠リタルモノアル
由ニテ七月ハ前月ヨリ生産減退シ「プラン」ノ八九九%ナリシカハ
月ヨリ恢復シ九月ニハ「ロクバタン」ノ噴油又新ニアリ（第六五號
井ハ九月二十七日深サ三四七米ニ於テ六千噸近ク噴出セリ）テ豫
定ヲ超過シ三ヶ月ニテ四百十五萬噸即チ豫定ヨリ二五%一十萬噸増
收ヲ見タリ右採油各月ノ成績左ノ如シ

	採 收 量		前年 同期
	実績 千噸	一日平均噸 對プラン%	千噸
上半期	六六九八一	三七〇一一	六三一五
六月	一二六七九	一〇二九	一〇九一

在オデッサ日本帝國領事館

123

七月	一一九八六	三八六六七	八九九	一〇四九
八月	一三九九六	四五一五〇	一〇二六	九九五
九月	一五四五六	五七七一〇	一〇〇六	九二三
第三期計	四一四三八	四五一〇八	一〇二五	二九六七
一―九月 累計	一〇、八四一、九			九二八二

右ノ如ク採油高ハ昨年ハ六月以降逐月減退セルニ對シ本年ハ反對ニ
逐月増産シ其結果第三期ノ採油量ハ昨年同期ニ比シ三九%餘ヲ増シ
一月以降累計ニテ一六六%ヲ増シ此儘ニテ推移セハ本年統制數字豫
定ノ一割増ハ實現セラルヘシ尙十月ノ採油豫定ハ百七十萬五千噸、
一日平均五萬五千噸ナリ

右採油ノ好成绩ハ黨部及當局ノ措置ニ依リ組織上ニ於テハ指導者ノ

在オデッサ日本帝國領事館

124

一元主義充實シ現業指導力増加及熟練技術者ノ現地従業等實現シタルアリ復試掘事業進捗セル等アルモ重ナル原因ハ噴油ノ多量ナルモノニシテ機械掘ノ増加ニ非ス本年初九ヶ月間ノ採油高ニ付テ見ルニ噴油ハ「ブラン」ノ一五三・九％ナルニ全採油量ノ七二・八％ヲ占ムル機械力ニ依ル採油ハ九〇・二％ニシテ第三期ハ八七％ナリ其内深キ筒ニ依ルモノハ九ヶ月間ニ「ブラン」ノ八七・九％、「コムブレソル」ハ九一・五％ナリ

然ルニ石油採收ノ前途ニ付當局カ特ニ警ヲ叫フモノハ鑿井工事ノ進捗セサルコトニシテ同工事ハ上半期ハ「ブラン」ノ六八・四％、七月三三・九三五米一六三・七％、八月四〇・三二〇米一七二・九％、九月五七・七五〇米一七七・九％ニシテ八月ヨリ好轉セルカ材料設備ノ送達逐延

在オデッサ日本帝國領事館

125

シ機械ノ破損依然頻繁ニシテ休止多ク且労働者ノ移動出入頻繁、技術者熟練工ノ不足モ重要問題ナリ
新井ノ作業開始ハ常ニ遅レ九月二十五日迄ニ新井八十五ノ作業開始ヲナスヘキ命令アリタル處十月初メ迄ニ作業ニ着手セルモノ六井ノミナリ

石油ノ製造ハ好成績ニシテ八月ハ「ネフチ」八十一萬八千噸一〇・一八％、「マツウト」二十六萬八千噸一〇・七三％ヲ製造セリ
石油ノ輸送殊ニ「アストラハン」「マハチカラ」「クラスノウオドスク」宛ノ裏海汽船ニ依ル搬出ハ頗ル重要ナル處九月中九五七千噸搬出ノ豫定ニ對シ二十五日間ニ七二・四千噸（七五・六％）ヲ輸送シ相當ノ不足アリ十月ハ百九十三萬噸搬出ノ豫定ナルカ現状ヲ以テ推セ

在オデッサ日本帝國領事館

126

ハ一割以上ノ搬出未能ハ免レサルヘシト云フ

ロ グロズネフチ

「グロズネフチ」ハ聯邦第二ノ大油田ニシテ其設備優良ナルニ不拘
採油及鑿井ノ成績不良ニシテ採油ハ第二期ハ一、二七九八〇〇噸ノ「
ブラン」ニ對シ八八六％ナリシカ本期七月ハ前月ヨリ六八％減退セ
四七％、八月七三、四％、九月六五％ト逐月減退シ第三期採油高ニ二
〇、二〇〇噸一月以降九ヶ月ノ累計三、八一八九〇〇噸ニシテ（「グ
ロズネフチ」八ヶ月ノ採油總量ハ去年同期ニ比シ實ニ三七一％少ナ
シ）年「ブラン」ニ對スル割合ハ上半期三七六％ヲ遂行セルニ第三
期ハ一七％ニシテ三期間ニテ僅ニ五四六％ナリ一日ノ採油量ハ一萬

在オデッサ日本帝國領事館

127

三千噸台ニシテ八九月中左シタル變動ナク他方一日ノ豫定「ブラン」
ハ八月一萬八千五百噸、九月二萬五千噸トナレリ

九月十四日付重工業部長ノ決定ニ依レハ鑿井工事非常ニ手間取り千
米ノ井戸掘ニ九一十二ヶ月ヲ費シ勞働紀律ナク破損頻繁ニシテ之ニ
依ル休業ハ勞働時間ノ四割ニ當ルト云フ鑿井工事ハ七月六八五％、
八月六四二％ナリ（年「ブラン」ニ對シ上半期二六六％）

經營方法モ復不良ニシテ機械利用ニ努メス噴井採油ハ昨年八割ナリ
シカ今日モ同様ニシテ試掘モ進捗セスト

ハ 其他ノ「トラスト」

石油ノ採收ハ「アズネフチ」ノ「バクウ」附近ノ油田ニ於テ増産ヲ

在オデッサ日本帝國領事館

128

見ルノミニテ他地方所謂二三流油田ノ發達極メテ遲緩ニシテ然モ鑿井工事ノ進捗極メテ不良ニシテ近キ將來ニ於テ其改善ヲ期待シ得ヘカラサル状態ニ在リ新聞「ザ、インダストリアリザチヤ」所報ニ依レハ鑿井及新井ノ作業開始成績左ノ如シ

	八ヶ月間鑿井 對プラン%		鑿井進捗 平均米		新井ノ作業開始 豫定 實績	
エムバ	六四		七九		一八	七
サハリン	六〇		一			一
ツルクメン	二三		一			一
グルウジヤ	四四		一			一
中亞	一		四三七		一三	三

在オデッサ日本帝國領事館

129

ワストク
(ウラル、バシキリヤ)
一 五〇%
アズネフチ
一 一四〇 一

右新地ノ鑿井成績不良ノ原因ニ付テハ地方カ遠隔不便ノ地ニシテ住民少ナキ爲メ(一)専門技術家ナク(二)住宅及供給不足ニシテ例ヘハ住宅建築ノ如キ支出濟一年間ノ建築費ノ出來上リ分ハ年初以來五ヶ月ニテ「エムバ」「ツルクメンスタン」各二〇%、「ワストコネフチ」ハ僅ニ二、三%ナリ(三)交通運輸ノ便不足ニシテ「ワストコネフチ」ノ「イシムバエウオ」間ノ鐵道枝線ノ如キ明年竣工ノ豫定ナルニ今尙起工セス自動車モ極メテ少數ニシテ不足甚タシ

在オデッサ日本帝國領事館

130

六 泥 炭

泥炭ハ九ヶ月間二年「プラン」ノ八二・五％ヲ遂行シ前年同期ニ比シ
一・九％増ナリ右ハ第二期ノ好成績ニ反シ第三期不成績ナリシ爲メナ
リ

セ 製 鐵

イ 銑鐵及鋼ノ製産

在オデッサ日本帝國領事館

六月ヨリ開始セル各熔鑛爐及製鋼工場間ノ製産競争ハ九月迄四ヶ月
ヲ第一期トシテ行ハレ毎日其成績ヲ競ヒタルカ熔鑛爐ノ参加セルモ
ノハ現有百七基ノ内九十二基、製鋼工場現在六十六工場中四十七工
場ナリ

・ 銑鐵

	製煉高	對プラン％	一日平均	對前年同期 ％
六月	六四四一	九四〇	二一・三	一二三・五
七月	六六六五	九三一	二一・五	一二九・一
八月	六三五五	八六六	二〇・五	一二八・二

在オデッサ日本帝國領事館

九月	六五二八	八三三	二一九	一二二四
第三期計	一九五四八	八八九	二二二	一二五九
一月以降累計	五一三六一	△五七一		一一三四
● 鋼				
六月	五八二〇	八二七	一九一	一一八七
七月	五八九五	八二六	一八九	一二八七
八月	六一三一	八三〇	一九八	一四二〇
九月	六三六五	八六〇	二一四	一三九二
第三期計	一八三九一	八四一		一三六一
一―九月累計	四八六三四	△五四三		一一〇三
● 壓延鋼材				

在オデッサ日本帝國領事館

第三期計 一、二三一〇 七九四 一三六〇
 一―九月累計 三、四八二七 一一〇四
 △八年「プラン」ニ對スル割合
 右ノ如ク本期ハ例年ノ夏期減産ノ例ナク却テ大體毎月増産セルコト
 ハ特異ノ點ナリ
 銑鐵ニ付昨年ハ銑鐵ノ増産ハ新熔鑪爐ニ依リ例ヘハ昨年七月ノ如ク
 一九三〇年前ニ完成セル舊爐ハ一九三〇年同月平均一日三萬三千噸
 ヲ製煉セルニ一萬一千三百噸ニ下リタリ然ルニ本年ノ増産ハ舊爐ニ
 依レリ尤モ新爐中ニモ「マグニトゴルス」第三號爐ノ如ク作業開
 始以來計畫能力以上ノ製煉ヲシタルモノアルモ之ハ例外トス
 製鋼高ノ豫定ニ達セサル重ナル原因ハ新築平爐ノ竣工手間取ル爲メ

在オデッサ日本帝國領事館

ナリ

壓延鋼材ハ第三期ハ昨年同期ニ比シ優レタル成績ヲ舉ケタルモ豫定計畫ニ及ハサルコト二割ナルカ右ハ現有工場ノ作業休止頻繁ニシテ或ルモノハ一五%ニ達スルモノアルト新築壓延台ノ竣工手間取ルカ爲メナリ

特殊鋼ハ最近益々増産セルカ其壓延鋼材ニ對スル割合ハ一九二七年八年度ニ七%、其翌年三六%、一九三一年一〇八%、一九三二年一五九%、本年八ヶ月ニテ一七九%ト年々増加セリ

製鐵各「トラスト」中最大ノ「スタリ」ハ銑鐵ニ付テハ七月八月「フラン」ノ九八九%、九月ハ八六四%ニシテ第三期「フラン」ニ對シ九〇一%、一月以降九月迄二年「フラン」ノ六二五%ヲ遂行セリ

在オデッサ日本帝國領事館

135

次ニ「ウラル」ノ「ワストコスタリ」ハ聯邦中最良ノ成績ヲ舉ケツ、アルカ月「フラン」ニ對シ七月九三六%、八月一〇二%、九月一〇四二%ニシテ九ヶ月間ノ累計年「フラン」ノ八一%ヲ遂行シ計畫以上ノ成績ヲ舉ケツ、アリ

「マグニトゴルスク」「クズネツク」等新工場ハ成績不良ナリ

口 鑛 石

製鐵競争ニ依リ鑛石ノ採掘高モ増加シ三月以降毎月増加シ九月ニハ平均一日四萬四千噸トナリ昨年同期ニ比シ七月三三六%、八月三七六%、九月三四四%宛、第三期三六一%、九ヶ月累計一六八%ノ増採ナルカ豫定「フラン」ノ遂行ハ未タ不充分ニシテ七月ハ「フラン

在オデッサ日本帝國領事館

136

「ノ七八三%、八月七八六%、九月七八四%、第三期七九三%ニシテ過去九ヶ月間二年「プラン」五五%（内第三期分二、三%）ニシテ採炭ノ六八%、銑鐵ノ五七一%ヨリハ幾分劣レリトス

ハ コークス

「コークス」工場ノ建設

「コークス」工場ノ建設ハ工事中ノモノ現今十八件アリ内七件ハ繼續工事ニシテ十一件ハ新ニ着手セルモノナルカ本一九三三年完成スヘキ「コークス」竈ハ十五基其年産能力三百九十二萬四千噸ノ豫定ナルカ建築順調ニ進捗セス其大部分ノ工事ヲ引受ケタル「コークスヒムモンタジ」ノ工程ハ上半期中同期「プラン」ノ四九二%ヲ遂行

在オデッサ日本帝國領事館

137

シタルノミニテ今日迄完成セルモノ四基ナルカ新聞「ザ、インダストリアリサチヤ」所報ニ依レハ九月初メノ状態左ノ如シ

東方 六基 其年産能力 一、八三四千噸

一、「ケメロウオ」二基、竈ハ七割完成

二、「マグニトストロイ」二基、内第五號ハ三月ノ豫定ヨリ遅レテ六月竣工、第六號ハ九月十五日作業開始スヘキ旨特ニ重工業部長ヨリ命令アリタリ

三、「クズネツ」二基、第四號ハ十月、第三號ハ十二月普通作業開始スル様ノ特令アリ

南露 九基 其年産能力 三、〇九〇千噸

四、「カメンスコエ」二基、内第四號ハ二月ノ豫定ニ對シ四月十八日

在オデッサ日本帝國領事館

138

竣工、第五號ハ大體完了九月十五日作業開始ノ豫定
 五「マケエフカ」三基、第二號ハ二月ノ豫定ニ對シ三月、第三號ハ
 三月ノ代リニ八月一日竣工、第四號ハ四月二十五日ノ竣工豫定ニ
 對シ九月末迄ニ出來上ラス
 六「サボロジスタリ」二基、第一號ハ九月、第二號ハ十月竣工ノ計
 疊ナルカ耐火煉瓦ナキ爲メ完了期豫想シ難シ
 七「エナキエウオ」一基、年産能力二一五千噸、十一月二十五日竣
 工豫定ナルカ「サホロジスタリ」ト同様ノ状態ニ在リ
 八「ブリヤンスク」一基、五月一日竣工豫定ヲ八月ニ延期シタルカ
 今尙出來上ラス
 右ノ如ク九月末迄ニ竣工引渡セルモノハ三基ニシテ「サボロジスタ

在オデッサ日本帝國領事館

リ」ノ如キ熔鑛爐第一號ハ近ク竣工スルモ「コークス」竈ハ來年三
 四月ナラテハ出來サルヲ以テ作業開始スルヲ得サルモノアリ

「コークス」ノ生産

「コークス」生産ハ七月ハ一工場増加シ二十八工場トナリ八月更ニ
 一工場増加シ其製造高左ノ通り

	製造高(千噸)	對プラン%	對前年同期%
七月	八九三、六	九〇、〇	一二〇、八
八月	九二四、三	九〇、〇	一三九、六
九月	九四二、九	九一、五	一三九、四
第三期計	二七六〇、八	九〇、七	
一―九月累計	七四〇四、七	八五、〇	一一九、四

在オデッサ日本帝國領事館

右九ヶ月間製造高ハ年「ブラン」ノ五八六%ニ當リ銑鐵製煉高ノ年「ブラン」遂行率五七一%ヨリ少シク大ナリ
右ノ如ク第三期ノ「コークス」製造成績ハ比較的良好ナルカ南露製鐵所ノ爲メ十月一日迄ニ二十五萬噸ノ豫備ヲ貯藏シ置クヘキ豫定ノ處十月十日現在ノ貯藏高ハ五萬噸ニシテ貯藏高ハ漸減シツ、アリ尙「コークス」ノ品質不良ニシテ灰分多ク所定ノ一倍半及二倍ニ達スルモノアリ

右ノ如ク第三期製鐵成績ハ從來ニ比シ甚タ優良ニシテ製鐵ノ絶對數量ハ各月増加シ來リ鑛石ノ採掘高ハ豫定ノ八割ナルモ「コークス」製造ハ九割以上ニシテ第四期ニ入りテモ大體向上ノ傾向ニ在ルヲ以テ今後モ同様ノ好況ヲ持續スル見込アルカ夫ニシテモ本年ノ製鐵ハ

在オデッサ日本帝國領事館

141

豫定ノ八割前後ナルヘク銑鐵ハ七百萬乃至七百五十萬噸ニシテ一九三一年ノ大計量ニ依ル本年銑鐵千七百萬噸計畫ハ實現セラレス其四一四四%ニ終ルヘシ
製鐵一般ノ勞働生産力ハ昨年同期ニ對シ第一期九九七%、第二期一〇六六%、第三期一一五六%、九ヶ月計一〇七三%ナリ
勞銀ハ勞働者一人當リ第一期三九七留、第二期四〇九留、第三期四四二留ニシテ九ヶ月合計ニテ昨年同期ニ比シ四二%ノ増加ナリ依テ勞働生産力ノ増率ハ勞銀ノ増率ヲ初メテ追越シタリ
「コスト」ノ低下ハ管理費ノ削減ニ依リ減少セルモ原料及燃料ノ節約ハ實現未タシ

在オデッサ日本帝國領事館

142

八 有色金屬

イ 銅

製銅ハ最近三年間何等著シキ進捗ナク其高ハ

	粗 銅	内 鑛 石 ヨリ
一九二七―八年度	三一、七五三	一六、九八一
二八―九年度	三六、七二四	二四、五九一
三〇年	四五、五八七	三四、一一〇
三一年	四五、八二二	三一、二三四

在オデッサ日本帝國領事館

743

三二年

四六、六九四

三〇、七八五

三三年計畫

五〇、〇〇〇

三八、〇〇〇

本年八ヶ月間ノ銅鑛採掘高ハ、二〇三千噸ノ豫定ニ對シセ〇、三%、粗銅製煉高ハ二九三〇〇噸即チ「ブレン」ノ七七六%ニシテ硫化鑛ハ九二、三%ナリ之ヲ昨年同期ニ比スレハ銅鑛ハ一%増ナルカ粗銅ハ五五%不足ナリ

而シテ銅鑛ノ採掘高ハ計畫通りニ進捗セサルカ其質ハ低下シ「ウラル」ノ例ヲ見ルニ粗銅一噸ヲ製煉スルニ要セル鑛石ハ一九二九―三〇年ニハ二十七噸ナリシカ昨年ハ四十噸、本年八ヶ月間ニハ四十一噸トナレリ「カラタ」ニ於ケル銅ノ含有率ハ三四年前ニハ五九二%ナリシカ本年ニハ二、〇一%トナレリ右ハ熟練採鑛工夫不足ノ爲メニ

在オデッサ日本帝國領事館

444

E-0288

0208

國立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

シテ右工夫ノ數ハ「ブラン」ニ對シ「カラタ」六九%、「カラバシ」六九六%、「クラスノウラリスク」四八六%ナルカ地上労働者ハ之ニ反シ過多ナリ

又採鑛夫ノ労働生産力ハ更ニ低ク上半期「カラタ」ハ「ブラン」ノ六七%、「カラバシ」ハ八〇%、「クラスノウラリスク」ハ六九四%ニシテ準備事業ノ方ハ更ニ低シ尙熟練労働者ヲ専門外ノコトニ使用シ機械力ノ利用不足ニテ機械修理ノ爲メノ休業二五%ニシテアル機械ノ半分ハ修理中ニシテ勞銀ノ計算モ不良ナリト

九月ノ製銅ハ「ブラン」ノ七五五%ニシテ前月ヨリ七四%増ニテ前年同月ニ比シ二七二%増ナルカ右ハ鑛石ヨリノ製煉ニ因ルモノニシテ昨年九月ヨリ四六%増加セル爲メナリ

在オデッサ日本帝國領事館

145

尙粗銅ノ原價ハ昨年ハ一噸ハ八七〇留ナリシカ本年ハ一五六五留ニ引下クル計畫ナルカ實現困難ナリト

□ 亞鉛及鉛

亞鉛及鉛ノ製煉ハ第一次五年計畫期間中ニ「ベロフ」及「ウクライナ」ノ亞鉛工場出來近ク「オルジョニキゼ」(北高架索)及「チエリヤピンスク」亞鉛電解工場竣工スヘク年々長足ノ發展ヲナシツ、アリ其高ハ

	亞鉛	鉛
一九二七—八年度	二、三四〇	二、三四四
二八—九年度	三、一一〇	五、四九四

在オデッサ日本帝國領事館

146

三〇年 四六二一 八六二五
 三一年 九二一八 一六一六八
 三二年 一四七七〇 一八六六四
 三三年計 一八〇〇〇 二〇〇〇〇

本年八ヶ月間ノ「ポリメタル」業成績ハ採鑛七、八%、鉛ノ製煉五
 四五%、亜鉛六、一%ニシテ製銅ニモ及ハサルモノアリ
 各工場中最不成績ナルハ「アルタイ」工場ニシテ経営不良、能力ノ
 五六割作業スルノミ又交通運輸不良ニシテ鑛石ヲ搬出セサルモノ多
 ク右「リデル」ノ製鉛、「ペロフ」「コンスタンチン」亜鉛工場ノ
 作業ニ悪影響ヲ與ヘツ、アリ

有色金屬業ノ質的方面ハ更ニ不良ニシテ原價ノ低下ハ能率場ヲス治

在オデッサ日本帝國領事館

金率低ク燃料及原料ノ使用過多及一般生産計量ノ遂行不能ニ依ル
 原價低下成績ハ左ノ如シ

トラスト	年計量%	實績%
セフツウエトメト (ウラル)	二四〇	四六 五四
後高架索	一九二	(十四二) (十一二五)
北高架索ポリメタル	一六三	向上セリ
「ウクライナ」ハ著シク好成績ナリ		

九 機械製造

在オデッサ日本帝國領事館

機械製造ハ「ソ」聯邦工業中最發展セルモノニシテ本年一月ヨリ九月ニ至ル三期間ノ製造高ハ昨年同期ニ比シ一四五%ノ増加ナリ就中自動車及「トラクター」工業ハ最モ好成績ニシテ「ブラン」ヲ超過シ昨年同期ニ對シ八三、六%ノ増率ヲ示シ之カ爲メニ一般機械製造部門ノミナラス重工業ノ成績タ高メツ、アリ

交通機械及農業機械ハ不振ナリ

本年九ヶ月間ニ電機ハ「トランスフォーマー」ニ、四三八個、發電機「四二九台及「ジイゼル」四九二二〇台、「コムバイン」七六八〇台ヲ製出セリ

イ 自動車及「トラクター」製造

在オデッサ日本帝國領事館

自動車及「トラクター」製造ハ「ソ」聯邦工業中最モ好成績ニシテ計畫超過ヲ示セル唯一ノ部門ニシテ九ヶ月間ニ年「ブラン」ノ八〇、四%ヲ遂行セリ其内自動車ハ年「ブラン」ノ八三、六%ニシテ勞働生産力ノ増加ハ五三、九%ニ及ヒタリ

今其各月各工場ノ製造高ヲ示セハ左ノ如シ

工場	七月	八月	九月	第三期計	製造數	一—九月累計 ブラン
一、貨物自動車	モスク	一、九六七二、〇五四	一、九五〇	五、九七一	一、七〇〇九	一、六六八〇
	ヤロス	一、七六	一、七六	一、八二	五、三四	一、五二七
	ラブリ	一、二八〇	一、三七五	一、四八九	四、一四四	一、〇六五二
	イゴリキ	一、二八〇	一、三七五	一、四八九	四、一四四	一、〇六五二

在オデッサ日本帝國領事館

		第三期	一―九月累計
機關車	プラン	實績	實績 對前年同期
	二八七	二四七	六九四 一一六〇 %
油槽車(七八月兩月)	八〇〇	二七〇	
二十噸無蓋貨車	一七七一	五一一七五	一一三七
一月ヨリ九月迄ニ製造セル各種貨車數ハ一、二、六、七、二輛ニシテ前年同期ニ比シ僅ニ一、一%多キモ年「プラン」ノ四三、七%ナルヲ以テ第四期ニハ一萬三千輛ヲ製造スルヲ要ス 右ノ不成績ハ原料主トシテ鐵類殊ニ板ノ供給不良、工場ノ經營及勞働ノ組織不良等ニ歸スルモノナリ 「ジイゼル」機關車ハ本年申十五台製造ノ豫定ナルカ十月一日迄ニ			

在オデッサ日本帝國領事館

交通部ニ引渡シタルモノ一台、八月中二台ヲ製造セルカ未タ試験中ニテ本年申ニ精々九―十台製造ノ見込 電氣車輛ハ本年申六十九台製造豫定ニ對シ十月一日迄ニ二十九台完成、第四期中三十四台製造ノ見込ナリト ハ「ヂイゼル」製造 「ソ」聯邦「ヂイゼル」製造ハ			
一九一三年	ヂイゼル	千馬力	石油機
	四八		六五
一九二七―八年度	四五八		六四二
一九三二年	九二		一一五

在オデッサ日本帝國領事館

ト發達セルカ昨年來其發達ノ度ヲ減シ全國「ダイゼル」ノ七割ヲ製造スル「ソユズダイゼル」所屬各工場ノ製造高ハ左ノ如ク五年計並初年ノ程度トナレリ（單位千馬力）

	ダイゼル	石油機
一九二八―九年度	三四二	六八四
一九三一年	六五二	一一七九
一九三二年	三四二	一〇〇二
一九三三年九ヶ月間	二二五	八〇五

右ノ如ク複雑ナラサル石油機ヲ製造シ「ダイゼル」ハ工場能力ノ殆ント半分位ヲ使用スルニ過キササル状態ナリト

在オデッサ日本帝國領事館

一〇 輕工業

輕工業生産高ハ本年上半期「ブラン」ノ九四一%、本期七月ハ九三、四%、八月九〇%ニシテ八月ノ重ナル種類ノ「ブラン」實行割合ハ左ノ如シ

綿布	九四一 %
毛織物	八九七
メリヤス靴下	七四九
肌衣	七九四
上衣	九二九

在オデッサ日本帝國領事館

絹織物 一〇五二 %

製靴 五、一六〇千足 九三〇

燐寸 五九二千箱 九四〇

八月ハ前月ヨリ生産減退シ昨年ニ比スレハ「ブラン」遂行ノ割合ハ増加セルモ生産絶対數ハ左程大ナラス

輕工業質的業績ハ不良ニシテ不合格品多クアルモノハ其割合サヘ不明ノモノアリ綿布ハ品質薄弱染色不良ニシテ褪メ易ク工場機械ノ休止依然頻繁ニシテ又労働者移動多ク爲メニ不足アリ其職由スル處ハ工場及企業當局ノ指導カ事務所の官僚的ナルニ在リトセラル

綿業

在オデッサ日本帝國領事館

「ソ」聯邦綿業ハ本年ハ大工場ノ職工勞銀ハ昨年ニ比シ二五%増トナリ技師技手ハ最近三四年ノ間ニ倍加シ労働者ハ不足ナク其移動モ減シ原料及機械モ國產トナリ生産ハ豫定ニ達セサルモ之ニ近ク本年ハヶ月間ニ一般市場ニ出シタル綿布十六億米ニシテ豫定通りナリ

然レトモ右十六億米ノ綿布中不合格品三億五千萬米アリ上半期中「コスト」一、二%低下ノ豫定ニ對シ反對ニ四九%向上シ労働生産力ハ「ブラン」ヨリ六五%少ナク機械ノ休止ハ豫定ノ二三倍ニシテ原料ノ過使ハ紡績五%、織物八九%ニ及ヒ品揃惡ク染色惡ク模様品質共ニ良カラサル等ノ缺陷今尙存スト

綿花買上

在オデッサ日本帝國領事館

本年棉花買上量ハ百三十四萬六千二百噸、其纖維二千六百萬布度即チ四十二萬六千噸ノ豫定ナルカ收納成績良好ニシテ九月中旬「ブラ」一〇%收納ノ豫定ニ對シ一八%即チ四二、四〇九噸ヲ、同月末迄ニ累計年「ブラシ」ノ二五、一%ヲ收納シタリ右ハ昨年同期ニ於ケル成績一五、三%ニ比スレハ非常ニ良好ナリ
十月八年「ブラシ」ノ四五%收納ノ豫定ナルカ十五日現在累計六三、二七六噸即チ年「ブラシ」ノ四六、九%ヲ遂行セリ

一、食品工業

在オデッサ日本帝國領事館

供給部ノ食品工業ハ依然不振ニシテ食料品缺乏ハ緩和セラレサルカ若干ノ資料アルモノニ付テ其業績ヲ示セハ左ノ如シ

イ 罐詰

本年ノ罐詰製造豫定ハ十億箇（四百瓦詰換算）ノ計盪ニ對シ実績七億五千萬箇ナリシニ對シ八億五千萬箇トシ上半期ハ豫定ノ一〇、四%ヲ製造シタリ
第三期ハ約四億二千萬箇製造豫定ノ處七月ノ業績ハ六八%、八月上半月ニ同月「ブラシ」ノ二四、八%ニシテ面白カラス
「オデッサ」ニ於ケル罐詰工場ハ業績極メテ不良ニシテ原料ノ不足當事者ノ背任横領等ノ犯罪モアリ「ウオロシロフ」工場ノ如キ不成

在オデッサ日本帝國領事館

續ノ故ヲ以テ「ウオロシロフ」ナル名稱ヲ剝奪セラレタルカ如キ醜
態アリ七月供給部長、八月初旬同次長實地指導アリタルモ未タ改善
ナキ由

口煙草

煙草ハ一九三一年紙卷六百四十五億本、「マホルカ」二百八十二萬
四千箱、一九三二年紙卷七百四十八億本、「マホルカ」三百二十七
億四千箱ヲ製造シタリ

葉煙草ノ政府納入率ハ昨年ハ北高架索「クリミヤ」「グルジヤ」等
ハ一「ヘクタール」ニ付八一九一一二「ツェントネル」ヲ納入セルカ
本年ハ平均六六「ツェントネル」ノ割合トシ之カ實行ヲ容易ニスル

在オデッサ日本帝國領事館

161

爲メ栽培者ニ對スル保護ヲ加重シ特約前渡金ヲ昨年ニ比シ煙草ハ二
四四％、「マホルカ」ハ四六三％トシ其他特約者ニ對シ供給スル商
品ノ數量ヲ増加セリ

然ルニ收穫ノ進捗面白カラス「マホルカ」ハ九月二十日迄ニ切取ヲ
了シ煙草ハ十月一日迄ニ上葉ヲカキ取り了ルヘキ豫定ナリシ處九月
十五日迄ノ成績ハ煙草ハ三〇％ヲ收穫セルノミ
「ウクライナ」ハ全國「マホルカ」ノ四五％ヲ生産スル處九月十五
日迄ニ三五％ノ收穫ヲ了シ（昨年同期ニハ八三％）タルノミ「ソフ
ホズ」ハ「コルホズ」トノ契約ニ依ル勞働者ヲ得ル能ハサリシ爲メ
「マホルカ」一六％、煙草八五％ノ不成績ナリ

「クリミヤ」ハ十月一日迄ニ煙草ノ收穫ヲ完了スヘキ豫定ノ處九月

在オデッサ日本帝國領事館

162

二十五日迄ニ三、八〇三千連即チ年「ブラン」ノ四八%ノカキ取ヲ了シタリ

本年ノ煙草ノ買上高豫定ハ五萬一千噸其内後高架索ハ一四、五八〇噸即チ二八七%ナルカ其十月二十日迄ノ買上高ハ二、四七三噸「ブラン」ノ一七%ニシテ昨年同期ノ八一七噸一五五%ヨリ好成績ナルカ工場ヘノ發送ハ貨車ノ配給不良其他ニテ僅ニ六百噸ナリト

ハ 漁 業

「ソ」聯邦政府ノ漁業ニ對スル注意ハ年々増大シ本年ノ投資額ハ一億六千萬留ニシテ一九二九年ニ六倍シ幾多ノ設備完全セル罐詰工場及「コムピナト」「トロール」船、「モーター」漁船建造セラレ漁

在オデッサ日本帝國領事館

163

獲ニ機械力ヲ利用シ「モーター」漁業「ステーション」二十七ヶ所ヲ既ニ建設シ漁業者ノ共營ヲ圖リ漁民ノ八割ハ「コルホズ」ニ加入シ「アストラハン」方面ニ於テハ九八%ニ及フ等設備組織非常ニ發展セルモノアリ

本年ノ漁獲高ハ百五十萬噸ノ豫定ナルカ漁業成績舉ラス昨年ニ劣ルモノアリ本年九ヶ月間漁獲高ハ年「ブラン」ノ六七二%ニシテ昨年同期ニ對シ九九五%ナルカ十月ニ入り成績ハ更ニ下降セリ
當方面ニ於ケル主要漁業地タル北「カスピイ」海方面ハ九ヶ月間ニ年「ブラン」ノ五四三%ヲ遂行セルノミナリ而シテ魚類ノ品質ハ漸次下降シツ、アリ

在オデッサ日本帝國領事館

164

ニ製糖

本年十月一日迄ニ作業ヲ開始スヘキ製糖工場ハ百十工場（昨年ハ百五十工場）ノ豫定ニ對シ實際作業開始セルモノ七十工場（昨年ハ四十九工場、一九三一年ハ百五十工場）ニシテ孰レモ原料難ヲ唱ヘ製糖工場ハ十月一日迄ニ甜菜三百八十四萬噸ヲ受入ルヘキ豫定ニ對シ僅ニ六十四萬噸ノ搬入アリタリ原料比較的豊富ナル工場モ十日分位ヲ有スルニ過キスト（甜菜ノ作柄及收穫ハ農業ノ項參照）
尙第三期製糖豫定高ハ百三十五萬噸ニシテ昨年同期ニ比シ六十四萬噸多シ

在オデッサ日本帝國領事館

165

一ニ工場徒弟學校學制ノ改正

九月十五日付聯邦中央執行委員會及內閣ノ決定ニ依レハ工場徒弟學校ハ從來工業及交通ノ熟練労働者五十萬人ヲ出シ幾多貢獻スル處アリタルモ修業年限長過キ專門ノ難易ニ關セス同一修業年限ナルコトアリ專門外ノ學課多ク其趣旨ニ副ハサルモノアリ且學生ハ企業附屬關係ヲ無視シ卒業生ハ他ノ上級學校ニ進ムカ如キ缺點アリ他方都市ニ於テハ労働者ノ文化程度高マリ七年制ノ「ポリテクニク」教育制實現シ職業技術教育モ進歩セルモノアルニ願ミ工場徒弟學校改正ノ機運熟セリトシ改正ノ重ナル點左ノ如シ

在オデッサ日本帝國領事館

166

一、工場徒弟學校卒業生ノ上級學校ニ進ムコトヲ止メ三年以上専門ノ生産ニ従事セシム

二、熟練工養成ノ修業年限ヲ二年ヨリ六ヶ月ニ減シ最モ複雑ナルモノハ一ケ年トス尙成績殊ニ優良ナルモノハ年限前卒業セシム

三、教課ハ八割迄ハ工場ノ實際ニ就テスルコト、ス

四、學生ハ十五―十六歳以上ノ者トス

五、學生ハ作業ニ勤勉ナルモノヨリ撰拔シ工場長之ヲ配屬ス

一三、結

工業ニ關シ以上述ヘタル處ヲ要約スルニ左ノ通り

在オデッサ日本帝國領事館

167

一、第三期四部所管工業ノ生産高ハ輕工業部ヲ除キテ他ハ増産ナルカ各部總體トシテハ期「プラン」ヲ遂行セル部ナシ

二、本年三期間ノ生産累計高ニ付テモ各部共豫定ニ達シタルモノナク國營工業總體ニテ年「プラン」ノ六四五%ヲ遂行シ前年同期ニ對シ四二%ノ増率ヲ見タリ本年統制數字ハ此増率ヲ一六五%トセリ

四部中生産豫定年額ヲ最モ多ク遂行セルモノハ輕工業部ニシテ林業部、重工業部及供給部ノ順位ナリ

三、第三期重工業總生産高ハ「プラン」ノ八七四%ナルカ例年夏期ノ減産ニ反シ本年ハ増産セル爲メ昨年同期ニ比シ一五一%ヲ増セリ

在オデッサ日本帝國領事館

168

一、重工業中本期生産高昨年同期ニ對スル増率カ其平均高ヨリ高キモノニ自動車「トラクター」製造、採炭、採油、鐵鋼ノ如キ基本工業アリ之等ハ昨年不成績ナリシニ反シ本年ハ大ナル缺陷減退ナカリシ結果ナルカ採油、採炭ハ毎月九割以上ノ成績ヲ擧ケ鉄鐵モ八八九%、製鋼モ八四一%ニシテ孰レモ逐月増産從來ニナキ好成绩トス

二、採炭、採油及製鐵ニ於テ本年ノ好成绩ハ「ドンパス」「バクウ」南露及「ウラル」等舊來ノ基本的地方ノ活動ニ依ルモノニシテ新地方ハ未タ甚ダシク振ハス

三、右ノ如ク石炭石油製鋼ハ増産セルモ豫定ニ達セス殊ニ之等ニ對スル需要ト供給トノ開ハ大ナリ

在オデッサ日本帝國領事館

一、今之等重工業主要部門ニ付五年計畫末年度ノ豫定計畫ト同期ノ昨年十月ヨリ本年九月ニ至ル期間ノ生産ヲ算出シテ比較セハ左ノ如シ

大工業生産額	單位	一九三二年 実績	△五年計畫	▲実績
A 類	十億留	三四三	三六六	三五七
B 類	同	一八〇	一七四	一八七
發電力	同	一六三	一九二	一七〇
發電量	百萬 ワツキ	四五	五五	
鉄 鋼	十億 ト 時 ツキ	一三一	二二〇	
	百萬 噸	六二	一〇〇	六八

在オデッサ日本帝國領事館

鋼	百萬噸	五九	一〇三	六三
採炭	同	六四三七	七五〇	六八三
採油	同	二二二九	二一七	二二四
機械製造全部	百萬留	七三六、六	四六八八〇	一
トラクター	千台	五〇二	五五〇	六七〇
自動車	同	二四〇		四四〇
機關車	台	八二七		
貨車（二軸換算）	千輛	二一、六		
化學工業（A類）	百萬留	一、〇三九九	一、四一三、〇	一

備考 △ハ五年計畫ノ一九三二―三年度豫定、▲ハ一九三二年十月ヨリ三三年九月ニ至ル実績

在オデッサ日本帝國領事館

右表ニ見ル如ク採油、自動車其他ノ機械類製造等ノ生産ハ昨年中既ニ五年計畫末年度ノ豫定高ヲ超過シタルカ五年計畫末年度ト同一期間ニ於ケル実績モ同様ニシテ石炭、電化及製鐵ノ三大部門ハ未タ五年計畫ノ豫定ニ遠ク及ハス
輕工業モ又五年計畫末年度豫定ニ及ハス之ヲ以テ消費物方面ノ生産ハ尙未タ大ニ不足ナルコトヲ知り得ヘシ

在オデッサ日本帝國領事館

運
輸

本年八月迄ノ鐵道及河川ニ依ル貨物運輸ハ豫定計畫ニ達セス昨年同
期ニモ劣ル成績ナリ九月ニ入り鐵道ハ少シク改善ヲ見タリ

一、鐵道運輸

在オデッサ日本帝國領事館

173

イ 第三期運輸成績

本年上半期鐵道運輸ハ非常ニ不成績ニシテ鐵道當局者モ「ソウエト
」鐵道運輸史上最惡ノ成績ナリト稱スル程ニシテ貨物及旅客輸送量
ハ昨年同期ノ千二百三十一億噸糶ニ對シ千百七十二億噸糶即チ約五
%ノ減少ニシテ一日平均貨物積出貨車數ハ昨年同期ノ五萬二千三百
車ニ對シ四萬九千七百車、機關車ノ一日平均走行里數ハ昨年ノ一六
三四一七四四糶ニ對シ九四四糶ナリ

七月ニ入り昨年同期ヨリ増加セルモ其程度低ク七月三日付鐵道運輸
改善ニ關スル政府及黨ノ決定モ漸ク九月ニ入り其効果ヲ現ハシタル
ノミニテ本期七月ノ成績ハ六月ヨリ更ニ降り八月後半ニ至リ少シク

在オデッサ日本帝國領事館

174

恢復シ九月ニ入り向上ヲ見タリ今貨物一日平均積出貨車數ヲ示セハ
左ノ如シ

	一九三三年 對ブラン	三二年	三一年
上半期	四九六五〇	五二、三〇〇	四五八〇〇
六月	五一、八六九	五二、五一九	五四六三五
七月	四九九五〇	八七六	四九一四六
八月	五一、〇二八	八七九	四八九〇〇
九月	五四、一三五	九三、〇	五二、一六〇
第三期平均	五一、七九四	八九六	五〇、〇七〇
本期貨物積出貨車數ハ昨年同期ヨリ三、四％多キモ一九三一年同期ヨリ			五二、四〇〇

在オデッサ日本帝國領事館

175

一二％少ナシ

尙貨物輸送量ハ一月以降八月迄ノ累計一億七千七千萬噸ニシテ年一
「ブラン」ノ五七％ニ當ル

九月中ノ重要貨物ノ平均一日積出貨車數ハ左ノ如シ

	豫定	実績	八月実績
穀物	一一、五七七	八六九〇	七三九〇
石炭	一一、七〇六	一〇、七〇六	八七四四
金屬	二、五五九	△二、一二三	
鑛石	三、一五八	▲二、五四〇	二、二六六
備考	△ハ中旬、▲ハ上半月		

石油ハ初中二旬ニ於テ「ブラン」ノ九〇、五％、「コークス」ハ九〇、

在オデッサ日本帝國領事館

176

四%、「フリユス」ハ七六%、耐火煉瓦四七%ノ割合ニテ野菜ハ二十五日迄ノ成績ハ一〇六六%ナリ

右貨物中穀物ノ輸送ハ「オデツサ」方面、北高架索、「ウラル」方面不良、石炭ハ南方鐵道、鑛石ハ「エカテリンスカヤ」鐵道不良ニシテ鑛石輸送ノ割合ハ他ニ比シ遙ニ不良ナリ
右ノ原因ハ(一)空車ノ交換行ハレス(二)荷卸ノ手間取ルコト(三)車輛及機關車ノ修繕不良ナル爲メナリトセラル

ロ 南露諸鐵道ノ業績不振

石炭、鑛石、金屬及穀物等重要貨物ヲ主要輸送貨物トスル「エカテリンスカヤ」南方、西南諸鐵道ノ業績ハ他ノ諸鐵道以上ニ不成績ナ

在オデッサ日本帝國領事館

ルヲ以テ秋冬貨物出廻期ニ對スル準備モアリ交通部長「アンドレエフ」ハ七月末ヨリ八月ニ掛ケ南露各鐵道ヲ視察セルカ同部長ノ「キエフ」及「ドネプロベトロフスク」ニ於ケル演說ニ依レハ「エカテリンスカヤ」鐵道ニ於テハ穀物輸送ニ堪ユル貨車ハ三五%ニシテ七月中鑛石一萬一千車積出不能アリ爲メニ六月百三十萬噸アリタル製鐵工場ニ於ケル鑛石ノ貯藏高ハ八月初ニハ六十萬噸ニ減シ或ル工場ノ如キハ四日分ヲ有スルニ過キサリ如キ狀態ニシテ他方使用セサル空車五千車モアリ而シテ西南鐵道ニ於テモ同様ニシテ其業績ノ重ナル點ヲ數字ヲ以テ示セハ左ノ如シ

積出貨車數	單位		西南鐵道	
	對プラン%	エカテリン		
	六月	七月	六月	七月
	九一、五	八五	九四七	八三

在オデッサ日本帝國領事館

貨車ノ回轉日數	日	三八七	四二	三五五	三七四
病車及病機關車ノ割合	%	一八三	一八七		
機關車走行里數一日平均	杆			一六五	一六一

車輛及機關車ノ修繕モ不良ニシテ西南鐵道ニ於ケル機關車ノ再修繕ハ二割餘ニ及ヒ保線及線路其他建物ノ建築等甚タシク遅レ居レリト其後ノ「エカテリンスカヤ」鐵道ノ狀態ニ付テハ貨物積出貨車ノ割合ハ八月八七・二%ニシテ七月ヨリ少シク改善セルカ同鐵道輸送貨物中最重要ナル鑛石ノ八月積出率ハ七〇・八%ニシテ其結果製鐵工場ノ貯藏高ハ漸減ヲ來シ病機關車ノ割合ハ一六・四%ノ割合ニ對シ一九・五%トナリ機關車運轉ノ狀態モ不良ニシテ貨車ノ狀態ハ前記交通部長報告ノ七月ト大差ナク醜態ヲ極メツ、アリ

在オデッサ日本帝國領事館

同鐵道ハ全聯邦鑛石ノ三分ノ二、金屬ノ四割、石炭、穀物ノ大部分ヲ輸送シ其運輸成績ノ如何ハ聯邦製鐵業ノ運命ヲ左右スルモノナル處業績益々不振ニシテ九月初旬中鑛石ノミニテ三、九七八車ノ積出不能アリ其結果「ベトロフスキ」製鐵所ノ鐵鑛貯藏高ハ本年初九萬噸ナリシカ七月ニハ七萬二千噸ニ降り六七月ノ貯藏期ニ搬入ナク九月一日ニハ五萬三千噸ニ降り昨年ノ六割トナリ十月迄二十萬噸ニ達セシムヘキ豫定ハ實現シ難ク耐火煉瓦モ同様ニシテ「ベトロフスキ」工場用石灰石モ十月一日迄ニ五萬九千噸ヲ貯藏スヘキ豫定ニ對シ九月初メ一萬五百噸ニシテ其他ノ工場ニ付テモ之ト大差ナキニ至レリ

之ヲ以テ黨本部ハ九月十七日付決定ヲ以テ右ハ同鐵道管理局長「チ

在オデッサ日本帝國領事館

ユレンコフ」其他ノ指導不良ニシテ七月三日ノ決定モ形式的官僚的ニ施行シ之カ徹底ヲ期セサリシニ依ルモノトシテ之カ遂行ヲ命シ若シ改善ヲ見サルニ於テハ「チュレンコフ」及同鐵道政治科長ヲ免職兼籍除名ヲナスヘキコト、セリ
其後同鐵道ノ業績ハ十月初中旬ニ石炭ハ初旬九六%、中旬九一%、「フリユス」ハ二月中旬千七百車積出不能、耐火煉瓦ハ六五―六八%ニシテ左シタル改善ヲ見ス

黨本部ハ「エカテリンスカヤ」鐵道ト同時ニ「クウルスク」鐵道ニ付テモ改善方ヲ警告セルカ同鐵道ハ「ドンバス」方面ノ金屬、鑽石穀物等ヲ中央及北方工業ニ送達スヘキ重要鐵道ナル處其業績不良ニシテ保線事業ハ混亂シ貨物輸送ハ七月下旬ニハ三千五百車ノ餘剩ア

在オデッサ日本帝國領事館

181

リナカラ「ブラン」ノ七七%、八月三日ノ如キ千車ノ空車アリテ積出ハ五六%ニ過キス殊ニ穀物及石炭ノ輸送不足シ機關車及貨車ノ配給修繕不良、車輛其他ノ破損頻發シ事故件數ハ六月ノ二―一件ニ對シ七月ハ二三五件、八月二六五件ニ漸増シ其八六%ハ從業員ノ紀律ノ弛緩ニ因ルモノナリト云ヘリ
右ノ外北高架索鐵道モ石炭穀物輸送上重要ナルモノナルカ其狀態良カラス七月中病機關車ハ一七%ノ豫定ニ對シニ〇九%、病貨車ハ七三五車ノ豫定ニ對シ一―二五車アリ機關車運轉ノ制度モ規定ニ違反セルモノ増加シ保線建築ハ四二%、枕木取換ハ豫定ノ二九%ヲ行ヒタルニ過キスト云フ

在オデッサ日本帝國領事館

182

ハ 車輛ノ不足

鐵道運輸ノ成績不良ノ原因ニシテ機關車及車輛並ニ「レール」等ノ納入遲延シテ豫定ニ達セサルコト多大ナルモノアルカ車輛ハ九月末迄ニ年「ブラン」ノ三六八%ヲ納入シタルノミナリト

ニ 「レール」ノ不足

鐵道用「レール」ハ一九三〇年以來毎年二十九萬乃至三十一萬噸ヲ製造シ來レルカ右ハ孰レモ豫定ニ達セス此不足ノ爲メ鐵道ノ改良ニ遲延ヲ來シ「レール」取換延長ハ(杆)

豫定	実績
七四三	一四〇
二九五九	九六九
一、一五二	二五七

在オデッサ日本帝國領事館

183

一九三一年

七四三

一四〇

三二年

二九五九

九六九

三三年上半期

一、一五二

二五七

ナリ

本年ノ「レール」製造豫定ハ五十三萬噸ナル處上半期交通部ニ引渡シタルモノハ十三萬七千噸即チ豫定ノ六九%ニシテ七八月中ニ三萬六千噸ヲ引渡シタルノミナリ九月一日迄ニ「レール」納入ハ年「ブラン」ノ三一七%ナリト

之ヲ以テ勞働國防會議ハ八月十一日付決定ヲ以テ製造引渡促進方ヲ命シタルカ成績不良ニ付實行委員會ハ關係當局及工場責任者ノ報告ヲ徴シタル上九月二十六日付ヲ以テ「エネキフ」工場ノ外各工場

在オデッサ日本帝國領事館

184

共成績不良ニシテ第三期「ブラン」ハ七八兩月間ニ「ケルチ」工場
ハ二四七%、「ベトロフスキイ」工場ハ四三、六%ヲ實行セルニ過キ
ス「クズネツク」工場モ同様ナルカ右ハ當局ノ指導不良ノ爲メナリ
依テ重工業部金屬工業本廳ハ九月ヨリ十二月迄ニ十七萬四千二十噸
(内一萬噸ハ二等品トス)ヲ交通部ニ引渡スヘク同期間ニ「クズネ
ツク」工場ハ六七〇〇噸、「エナキエフ」工場ハ二、八六〇噸、
「ベトロフスキイ」工場ハ一七二五〇噸、「デルジンスキイ」工場
ハ三六六四〇噸、「ケルチ」工場ハ一九二七〇噸ヲ引渡スヘキ旨嚴
命セリ
然ルニ九月ノ成績ハ四萬一千噸ヲ交通部ニ引渡スヘキ筈ナル處製造
高二、四九三噸、發送高二〇、〇九七噸ナリ

在オデッサ日本帝國領事館

185

ホ 鐵道收入

本年ノ國家豫算ノ鐵道收入ハ二十五億留ノ豫定ナルカ九月末迄ノ九
ヶ月間ノ收入ハ豫定ノ九二、七%ニシテ他方支出ハ九八%ナリ

ヘ 鐵道ノ建設

鐵道建設工事ハ進捗セス全聯邦ニテ九月二十日迄ニ年「ブラン」ノ
四六%出來上リタルノミ、「モスクワ」―「ドンバス」ノ超幹線モ
豫定通りニ進捗セス

本年ノ鐵道建設工事中「アムウル」鐵道「カルイムスカヤ」―「ウ
ルシャ」間ノ複線工事ハ昨年來ノ繼續事業ナルカ極東ニ於ケル政治

在オデッサ日本帝國領事館

186

的狀態ノ緊張セル爲メ外間ニハ發表セサルモ急速工事ヲ進メ居リ十
 一月初メ浦潮向穀物輸送ノ爲メ被傭船「オデツサ」ニ來航セル獨逸
 船ハ契約ヲ變更シテ同地行「レール」ヲ積込ミツ、アル程ナリ

ニ、河川運輸

イ 上半期ノ成績

本年上半期河川運輸成績ハ思ハシカラス運輸貨物總量一八一三、七
 〇〇噸ニシテ「ブラン」ノ六割台、航行全期「ブラン」ノ三割、昨
 年同期ノ九一、五%ナリ重ナル河川ノ實績左ノ如シ

在オデッサ日本帝國領事館

汽船部

輸送量(千噸) 對航行全期% 對前年同期%

ドネブル	七六八一	二二、〇	七一、五
ウォルガ	五六〇八三	三〇、〇	八三、八
モスクワ—オカ	九〇、二	二八、六	九〇、〇
北方	三、二二〇、八	三五、九	九二、〇
北西方	三、二五〇、九	二七、四	九八、一
カマ	二、四九〇、八	三六、七	一一二、五
全國合計	一八一三、七	三〇、〇	九一、五

各地方中「ウクライナ」ノ不成績最顯著ナリ右不成績ノ原因ハ河川
 運輸當局カ荷物吸收ノ策ヲ講セス荷主側カ河川輸送ヲ避クルニ至リ
 タルコトヲ主トシ部分的ニハ荷役ノ不良等重ナルモノトセラル

在オデッサ日本帝國領事館

口 第三期実績

水運部機關雜誌所報ニ依レハ八月末迄ニ本年河川航行期ハ七一、一%ヲ經過セル處貨物ノ輸送量ハ約三千四百六十七萬噸、年「プラン」ノ五七、二%ニシテ昨年同期ノ九三、四%ナリ其貨物内譯ヲ示セハ左ノ如シ(單位千噸)

	輸送高	對年プラン%	對前年同期%
穀物	二二五五七	五六一	一五、九
セメント	二〇二二	三九四	六三、二
礦物建築材料	二二三六〇	二九〇	五六七
鹽	七五五八	六一八	一〇五、一

在オデッサ日本帝國領事館

189

木材(船舶)	五四四八三	六四八	一〇九七
石炭	四四八〇	四九四	一一、八
其他	二八三三一	四四三	九七三
計	一四二七九一	四八八	九五七
筏	一六〇二五八	六七八	九四三
石油	四三六四二	五九八	八一七
合計	三四六六九一	五七二	八三、四

右ノ如ク孰レモ航行期間ノ割合ト同程度ニ輸送ヲナシタルモノナク昨年同期ニ比シ穀物、鹽、木材(船舶ニ依ル)、石炭ハ増大セルモ其他ハ減少シ「セメント」及礦物建築材料ハ極メテ不成績ナリトス

在オデッサ日本帝國領事館

190

商業

商業

本年上半期ノ商品取扱高ハ昨年同期ニ比シ二五、四％ノ増加ナルカ取引ニ關スル計畫遂行未能ノ爲メ餘剩商品ノ「ストック」増加シ商品ノ回轉速度減シ其結果財務上ノ困難トナリ商品ノ引取ニモ支障ヲ來シツ、アリ

財務部機關新聞「エコノミイチェスカヤ、ジイズニ」(八、八)所

在オデッサ日本帝國領事館

191

報記事ニ依レハ消費組合關係ノモノノミニテモ左ノ如シ

	一九三二年末	一九三三年六月一日現在
滞貨高	回轉速度	滞貨高
都市	四八一	百萬留
村落	四〇九	二〇二
卸賣	二七三	四九
計	一、一六三	二〇八
右ノ原因ハ商品回轉ニ關スル計畫ヲ村落ニ於テ組織的ニ遂行セサルニ歸スヘク都市及村落ニ於ケル右遂行率ヲ示セハ左ノ如シ(%)	一三、五	五〇三
	日	百萬留
	一五二	日
	四八五	二四五
	三二〇	六一
	一、三〇八	二四八

消費組合

國營商店

第一期

第二期

第一期

第二期

在オデッサ日本帝國領事館

192

村落	九四七	九二〇	八五〇	九二四
	九七七	九一〇	八三〇	一〇八六
工業側ノ商品回轉ヲ阻礙セル原因ノ重ナルモノハ商品ノ發送及販賣「プラン」ヲ遂行スルコト不良ナルニ在リ例ヘハ供給部ノ調査ニ依レハ中央供給ノ十二種工業製品ノ發送及販賣「プラン」ノ遂行程度ハ左ノ如シ(%)				
	都市			
第一期	第二期	第一期	第二期	第一期
發送	八七、八九、〇	八九、三九、二	九六、〇	九四、八
販賣	八九、三八、九七			

食料品ノ發送ハ重要品全般ニ涉リテ不良ナリ
 商品ノ發送中一般市場向ノ工製品ノ「プラン」遂行率ハ綿布ノ外全

在オデッサ日本帝國領事館

部生産ノ夫ヨリ劣リ而シテ市場向ニ非サル分ノ發送率ハ市場向商品ヨリ好ク例ヘハ第二期ニ於テ裁縫製品ノ市場外消費者向ノモノハ九五%ナルニ市場向ノモノハ八四%、
 「メリヤス」製品ハ一一〇%ト九二%、洗濯石鹼ノ如キハ三八%ト一五%ナリ
 商品回轉ノ發達ヲ妨クルモノニ地方ニ依リ發送ノ度均シカラサルモノアリ「モスクワ」「レニングラド」州ハ「プラン」以上ニシテ遠隔ノ地方ニハ不足ナリ
 農産物ノ地方的買付ハ「ソウェト」商業ノ重要ナル方面ナル處消費組合ハ本年上半期ニ於テ此「プラン」三五%ヲ遂行シタルノミニシテ其買付セサリシ金額三億五千萬留ニ上レリ國營商店ニ付テハ統計ナキモ同様ナリ

在オデッサ日本帝國領事館

消費組合及國營商店ノ業績中不良ナルモノニ取扱費諸掛ノ超過ニシテ消費組合ハ昨年取扱費一%低下ノ豫定ニ對シ、四%向上シ今年ハ昨年ニ比シ八六%ヲ低下シ二億五千萬留ヲ節約スヘキ計畫ニ對シ第一期ハ二五%ヲ低下シタルノミナリ第二期ニ關シテハ決算遲レテ未タ計算スル能ハス

第三期

第三期七八兩月間ノ商業ニ付テハ全取扱高ノ六割ヲ占ムル消費組合ノ小賣ハ右兩月間ニ期「プラン」ノ五五二%、内村落關係五〇八%都市五八七%ヲ遂行シ豫定ノ業績ヲ擧ゲ得ス地方殊ニ收穫期ニ當リ商品供給ノ重要ナル北高架索ハ四〇一%、「クリミヤ」四六三%、

在オデッサ日本帝國領事館

193

「ウォルガ」下流三四%ノ不成績ナリ

國營商店系統ノ業績ハ更ニ不良ニシテ第三期中全國村落ニ十六億留ノ商品ヲ供給スヘキ豫定ノ處此兩月間ニ「ウクライナ」ニ付テハ期「プラン」ノ三六四%、北高架索ハ三九九%、「ウォルガ」下流ハ二九一%ヲ實行シ九月十日現在成績ハ全國村落ニ於テ四七八%、都市七二八%ナリ

商品發送ノ期「プラン」實行ハ八月二十日現在ニテ四六九%ニシテ村落ニ於ケル商品賣却ノ「プラン」ハ綿製品ニ付テハ四〇五%、毛織物二九九%、製靴三六六%、裁縫製品三〇五%等ニシテ發送「プラン」ノ實行率ヨリモ低ク斯クシテ滞貨ヲ來シツ、アリ

滞貨ハ組織的ニ毎月増加シツ、アルカ消費組合ノ商品十二種及二十

在オデッサ日本帝國領事館

196

三州ニ付テ見ルニ卸賣部ニ於テハ其高七月一日一三三、六〇〇千留ヨ
リ九月一日四三、一〇〇千留トナレリ小賣ニ付テハ十州ニ於テ左ノ如
シ（單位百萬留）

内 村 落

	七月一日	九月一日	七月一日	九月一日
消費組合	一六九六	一七八六	一〇八七	一二八四
國營商店	三二九九	三四〇二	八二〇	一〇八四
計	四九九五	五一八八	一八九七	二三六八

右ノ原因ハ工場及販賣機關カ商品發送ヲ豫定通り行ハス鐵道モ又輸
送ヲ怠リ地方販賣機關カ又勵精セサル等ニシテ各段階ヲ經ルニ從ヒ
「プラン」ノ未遂行ヲ加ヘ右數字ノ示スカ如キ狀態ヲ作リツ、アリ
（消費組合ハ仕入ノ商品代未拂ハ昨年中六億留ニ達セリ）

在オデッサ日本帝國領事館

第三期トシテ小賣ハ人民ノ需要ヲ充シ得ス消費組合ノ取扱高ハ第二
期ハ第一期ニ比シ一〇〇、二％、第三期ハ第二期ニ對シ一〇〇、六％ニ
シテ三期間合計ニテ昨年同期ニ對シニ七セ％増ナリ
此原因ハ「オボルトニスト」的靜觀主義「ネツプマン」的精神ノ存
スルアリテ業ニ熱心ナラス商品ノ回轉促進ヲ圖ラス交通運輸及金融
モ之ヲ助長セサルモノアルニ依ル

ニ、外國貿易

外國ヨリノ輸入制限ハ本期モ續テ行ハレ鐵鋼及同製品、機械類ノ輸

在オデッサ日本帝國領事館

入激減シ輸出ニ於テハ新穀物ハ未タ昨年同期ニ及ハス木材類ハ増加
シ石油ハ内國ノ需要及貯蔵増加ノ爲メカ減少シ銀及貴金屬屑ノ輸出
目立チタリ

米國ヨリノ棉花輸入、波蘭及佛國ヨリノ輸入激增等外交關係ノ貿易
ニ表ハル、モノ漸ク顯著ナリ

今左ニ税關統計ニ依リ特殊ノ點ヲ示セハ次ノ如シ

イ 輸出入品

本年六月ヨリ九月ニ至ル各月外國輸出入貿易額ハ税關統計ニ依ルニ
左ノ如シ（單位百萬留）

在オデッサ日本帝國領事館

199

E-0288

0236

0237

E-0288

	六月	七月	八月	九月	一九月累計	一ヶ月平均
	月	月	月	月	計	平均
一九三三年	輸出	三六五	三七九	五二八	三六七三	四〇八
	輸入	二一八	三〇三	二五五	二七四二	三〇四
	計	五八三	六八二	七八四	六四一六	七二二
	バランス	一四七	三七六	四七九	四一〇九	四五九
一九三二年	輸出	六四四	四七三	五三九	四六三	六一四
	輸入	一〇八八	八三三	一〇二八	六三三	一〇七〇
	計	一七三二	一三〇六	一五六七	一四九六	一四二〇
	バランス	三〇四	一三三	一六〇	一四二〇	一五七

在オデッサ日本帝國領事館

(三) 各月ノ輸出入「バランス」ハ昨年ハ八月迄ハ入超ナリシニ本年ハ各月共出超ナリ

(四) 年初以來九ヶ月ノ累計ニテ輸出入合計額カ三億二百三十萬留即チ三・三%減ナルニ昨年同期ノ一億四千二百萬留ノ入超ニ反シ本年ハ九千三百萬留ノ出超ナリ斯ル現象ハ此三年來初メテノコトナリ右ハ主トシテ「クレヂット」ノ仕拂期トナリタル爲メ輸入ヲ制限シテ輸出ニ努メタル結果ナリトス

右四ヶ月間ノ重要輸出入品ノ増減ニ付テハ輸出ニ於テハ木材ハ六七兩月減退シ八月ニ至リ増加シ石油類ハ七八九ノ三月大ニ減退シ貴金屬及銀ハ毎月増加アリ穀物ハ八月ヨリ輸出初マリタルモ九月ハ昨年ニ及ハス

在オデッサ日本帝國領事館

201

輸 入	一九三三年		一九三二年	
	千噸	千留	千噸	千留
穀 物	七七一・二	二一、八四七	一、一〇一・九	三、五二五・七
木 材	四、五〇七・二	五、六〇二・六	三、九五〇・六	五、六二四・〇
石 油	三、六六二・九	六、〇二七・九	四、四六六・四	七、八六六・七
貴金屬	一・八	二、八四四・九	一	一

輸入ニ於テハ穀物牛羊等ハ激減シ鐵類、機械、同部分品、電機類共減退シ増加モルモノハ鐵管、船舶等ニシテ八月ヨリ米棉ノ輸入初マリタリ

一月ヨリ九月ニ至ル主要輸出入品ノ累計高ハ左ノ如シ

輸 出

在オデッサ日本帝國領事館

202

ヒタル趣ナルカ外國輸出ハ多カラス七月ハ「ライ」麥及少許ノ小麥計一千噸、二萬四千留（昨年同期ノ二十噸、八百留）ナリシ處八月ヨリ増加シ八九兩月ニテ左ノ輸出アリ					
本年ノ新麥類輸出ハ昨年ニ比シ小麥カ多キコト燕麥ノ極少量ナルト	小麥	一九三三年	一九三二年	一九三一年	
	千噸	千留	千噸	千留	千留
	二二、四六九	二七一	一六四九	五九三	一、〇四三
	三〇、九七二	六一〇	一、六〇六	一九九六	四八一〇
	一四、五四二	七九一	一八八三	一一一	三一四七
	一四、五四二	七九一	一八八三	一一一	三一四七
燕麥	〇	一	〇、三	三一	一一五八
計	二八七八	九四四〇	三四五	一九六七	九一、六七三
在オデッサ日本帝國領事館					

「ソ」聯邦輸出品中最重要ナル穀物ニ付テハ本年ハ豐作ニシテ政府買上穀物モ買上法ヲ改正シテ租税ノ如ク徵集スルコト、シ且黨部ヲ動員シテ徵集ヲ勵行セル爲メ八月迄ノ收納高ハ昨年同期ノ三倍ニ及					
口 穀物ノ輸出	鐵類	三、八九八	三、六〇六	六、〇五四	五、二二八
	鐵鋼製品	九、九九九	二、五四〇	三	三、五八六
	機械	一〇、九〇〇	七、九六五	一、九二八	一、七一二
	同部分品	一、六三	一、六一六	四、三七	五、三七二
	電機類	一、六七	一、六〇八	三、七三	五、八七九
	電機類	一、六七	一、六〇八	三、七三	五、八七九
在オデッサ日本帝國領事館					

七月ヨリ九月ニ至ル南露黒海主要港ノ麥類輸出量ハ左ノ如シ

在オデッサ日本帝國領事館

クリミヤ	八、〇	四四、五	五〇、七	一	一	一三、六	三三、八
マリ	一	六〇、六	一	一	一	五、六	一一、九
ボリ							
ノウ	五	六	二	一	三	六	二
オロ	二	六	二	一	三	六	二
シイ	二	六	二	一	三	六	二
スク	二	六	二	一	三	六	二
計	二、六	九、〇	二、三	一、六	八、二	七、五	四、五
右ノ如ク穀物早熟ノ南露地方ヨリノ穀物輸出ハ小麥以外ノ麥類及麥							
類總計高ニ於テハ本年ハ昨年ニモ及ハス右ハ外國市場ノ關係及内國							
ニ於ケル軍用其他ノ目的ノ爲メ貯藏ヲ多クセルモノアルモ又豐作ノ							
實際結果ヲモ疑ハシムルモノアルヤモ知レサルナリ							

在オデッサ日本帝國領事館

E-0288

0240

本年六月迄ノ棉花輸入總高ハ昨年同期ノ一萬七千八百餘噸ニ對シ四千八百噸ニシテ其内米棉一、三九九噸ナルカ右ハ米國ヨリ直接輸入セラレタルモノニ非ル處本夏米國トノ話合ニ依リ七月以降米國ヨリ棉花ヲ輸入スルコト、ナリ七月七六八噸、三十五萬七千留、八月九七六六噸、四百二十四萬七千留、九月六九五〇噸、二百八十二萬三千留、計一萬六千七百十三噸、七百七萬留ヲ「レニングラド」港ニ輸入セリ右ハ米國ヨリノ輸入金額ノ五割ニ當ル而シテ一月以降九月迄ノ外國棉花輸入總量ノ七七三%ヲ占ム

尙九ヶ月間ノ棉花輸入高ハ昨年ノ二萬七百噸ニ對シ本年ハ二萬一千七百噸ナリ

在オデッサ日本領事館

二 波蘭及佛國ヨリノ輸入ノ躍進ト日本輸入ノ不振

「ソ」聯邦外國貿易殊ニ輸入ハ外交政策及「クレヂット」ノ關係ニテ非常ニ容易ニ變動セラル、處本年九ヶ月間ノ主要國別ニ依ル輸入高ヲ示セハ左ノ如シ（單位千留）

輸入總額	一九三二年		一九三三年	
	一―九月		一―九月	
				對前年同期 %
英國	五五、九二一	二七、四二八	五	四九、六
獨逸	七、四〇一	二四、九三八	三	四八
伊太利	二五、四二五	一三、四八三	五	一、三
波蘭	二三、六三九	一二、五三一	五	三、〇
	三、三二七	一〇、一九六	三	〇六、四

在オデッサ日本領事館

米國	二四一〇五	一四一三七	五八六
佛國	二五四四	三九九六	一五七〇
致須國	九五三一	二八〇三	二九四
瑞典	一八八五七	三〇九七	一六四
日本	三、五八五	一、三〇九	三六五
支那（蒙古新疆ヲ除ク）	五、六九四	二、一七六	三八二

右ニ舉ケタル十ヶ國中輸入高ノ昨年同期ニ比シ絶對ニ増加セルハ波蘭及佛國ノミニテ一般輸入高ノ減少セル割合程ニ減少セサルモノハ米伊獨三國ニシテ他ハ激減セリ

日本トノ貿易ハ「ソ」側ヨリ云ヘハ常ニ出超ニシテ日本ハ復交年以來左ノ金額ヲ過拂ヒセリ（單位千留）

在オデッサ日本領事館

	「ソ」側ヨリ輸出	「ソ」側ヘ輸入	日本ノ過拂額
一九二四―五年度	二、六二三	二、六七八	一九九四五
一九二五―六年度	一、二七二六	二、五七二	一〇、六五四
一九二六―七年度	一九二〇二	三、六一七	一五五八五
一九二七―八年度	一七五七六	五、四一九	一、二一五七
一九二八年十一月十二月	缺		
一九二九年	一九三三三	八、二六九	一、一六四
一九三〇年	一六、一九二	一六、七八四	(-) 五九二
一九三一年	一九、八四〇	一、二、六六八	七、一七二
一九三二年	一〇、一九九	四、七八六	五、四一三
一九三三年九月	四、七一四	一、三〇九	三、四〇五

在オデッサ日本領事館

計

一四二四〇五

五八一〇二

八四三〇三

即チ「ソ」聯邦ハ此期間ニ我邦ヨリ約五千八百萬留ヲ輸入シ我邦ハ
八千五百萬留程ヲ過拂セル次第ナリ

在オデッサ日本領事館

2/1

財
務

第三期財務計畫ノ実績

第三期ニ於ケル財務計畫ノ實行ハ財務機關執務方法ノ改正及其各州
地方競争ニ依リ地方ニ依リ又強制力ヲ適用シ得サル方面ニ於テ缺陷
アリシモ全體トシテハ好成绩ヲ舉ゲタリ之ヲ計數ヲ以テ示セハ左ノ
如シ

在オデッサ日本領事館

2/2

E-0288

0243

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

	第三期プラン實行	九ヶ月累計 對年プラン
國庫收入	一〇七一%	七五〇%
内 民間資金動員	一〇九〇	七三九
農業税	一三二七	
自課税	一七六八	
保 險	一三二七	
文化税	一二六七	
公債(村落)	八七九	
貯金局預金	三八九	
消費組合株金	七四四	

在オデッサ日本領事館

2/3

(上半期國庫收入金額ハ一六一九二百萬留、年額ノ五三、四%、昨年
同期一六二〇九百萬留一五一%ナリ)

地方別ニ付テハ第三期「プラン」ヲ遂行セルモノハ國庫收入三十四
共和國及地方、民資動員ニ付テハ三十共和國及地方ニシテ大部分好
成績ヲ舉ケタルカ東部西伯利(國庫收入九二、六%、民資動員六五%
「キルギジャ」「カザクスタン」「タジクスタン」等ハ不成績ニ
シテ中央黒土地方ハ七八兩月中ノ不成績ニ依リ國庫收入カ「プラン
」ノ八九六%ナリシコトハ同地方カ穀物收穫其他ノ農事ノ不成績ト
共ニ注意スヘキ處ナリ

「ウクライナ」ハ「チエルニゴフ」州ノ民資動員ノ九七八%ヲ除キ
各州トモ好成绩ニシテ同共和國全體トシテ民資動員一〇九一%、取

在オデッサ日本領事館

2/4

E-0288

0244

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

扱高稅收入一〇、七%ニシテ「プラン」以上ノ收入四千七百萬留ニ
 達シタリ但シ不成績ノ方面ニハ貯金局預金ハ「プラン」ノ五七%、
 村落ニ於テハ三七%、公債收入ハ村落九、四%、都市九七六%、消
 費組合株金收入ハ村落七〇%、都市七四五%ナリ
 「ゴリキイ」地方ハ全聯邦中最優ノ成績ヲ舉ケ民資動員一五〇、四%
 國庫收入一〇、五七%ニシテ「プラン」以上ニ六千三百七十萬留ヲ徵
 集セリ

本年國家豫算ノ中社會化部門ヨリノ收入ハ全歳入額ノ八三、一%ヲ占
 メ最モ重要ナル科目ナルカ其重ナル項目ハ取扱高稅二百十七億九千
 萬留、鐵道收入二十五億一千七百萬留、利益分納金十一億一百萬留
 ナリ（本年上半期社會化部門ノ收入ハ一三、九九一百萬留、年額ノ五

在オデッサ日本領事館

二五%ニシテ昨年同期ハ一〇、八九九百萬留、五三、六%ナリ

イ 右取扱高稅ノ徵收成績ハ左ノ如シ

	第一期		第二期		△上半期		第三期
	一九三二年	%	一九三三年	%	徵集額 百萬留	對上年 %増	%
重工業部	一〇、三、四		九、八、七		八、一、七〇	五、五、八	九〇、七
供給部	一〇、三、九		一〇、一、九		一、一、八四〇	五、四、一	一〇、六、〇
(△上半期計ニハ特別貨物基金ヲモ含ム)							
各部門ノ本取扱高稅納入成績ハ左ノ如シ							
	第一期		第二期		第三期 (七、八月)		
重工業部	九、七、八		一〇、八、九		七、一、四		
供給部	一、一、二、〇		一、一、六、〇		八、一、九		

在オデッサ日本領事館

輕工業部

八、九

九四、五

五五、〇

輕工業部ノ納税成績ノ不良ハ其業績ノ不良ニ因ルモノニシテ同部所管工業ハ其生産年計畫ヲ八ヶ月間ニ六〇、五%遂行シタルノミナリ林業部モ納税成績良好ナリト

口 鐵道收入ハ運輸ノ不成績、事務ノ事務所の官僚的ニシテ不良ナルト豫算紀律ノ低劣ナル爲メ其國庫納入金ハ二十五億二千八十萬留ノ豫算ニ對シ九ヶ月間ニ十七億七千九百萬留即チ六九%ヲ納入セルノミニテ三億七千五百萬留ノ不足ナリ

ハ 利益上納金成績ハ左ノ如シ

第一期

第二期

第三期

重工業部

一〇〇%

九九、八%

一一、一%

在オデッサ日本領事館

2/7

輕工業部

九四

九四

△七三

△六七、八兩月

輕工業部ハ取扱高税及利益上納金ニテ八ヶ月間ニ約三億五千萬留ノ上納不足ヲ來セリ林業部、供給部共ニ本上納金納入成績良好ナリ産業組合ノ上納金ハ其業績不良ナル爲メ第二期八六%、第三期八二ヶ月ニテ五四%、期毎ニ成績低下ス

消費組合ノ成績不良ナルカ爲メ工業ハ上納金ヲ滯ラセ昨年ノ如キ此商品代未拂額六億留之カ爲メ工業部ノ取扱高税未納額三億留ニ及ヒタリト

第四期財務計畫

在オデッサ日本領事館

2/8

第四期ノ財務計畫ハ國家豫算ノ收入ハ過去三期間ニ年額ノ七五%ヲ得タルヲ以テ二五%ナルカ其八八%ハ社會化部門ノ收入ニ待ツモノニシテ之カ達成ニハ工業ノ原價低下ハ重工業ニ於テハ八%、輕工業ニ於テハ九%ヲ獲得スルヲ要シ商品ノ賣却ハ第三期ニ比シ三〇%増トスルヲ要スト民資動員ハ約十億留トス
支出中最大科目ハ國民經濟ニ對スル「ファイナンス」ニシテ全支出額ノ六〇%ヲ占メ其内二十二億留ハ新建設事業ニ投スルモノナリ

在オデッサ日本領事館

219

結

本年ハ近年ニナキ程豐作ニシテ穀物ノ收穫ハ其業績ニ於テモ收穫高ニ於テモ農民ノ收得ニ於テモ昨年ニ優レルコトハ疑ナキ處ナルカ之ヲ一九三〇年ノ豐年ニ比シテハ若干劣ルモノアリ全般ニ於テ一九三一年ト伯仲ノ間ニ在ルモノト見ル可ク政府穀物ノ徵集ハ十一月初メ迄ニ大體ヲ收納シタルヲ以テ從來ノ如ク買上ニ對スル宣傳努力ハ最早必要ナラサルコト、ナリ之カ爲メ「ソウエト」及黨部ノ中央並ニ

在オデッサ日本領事館

220

地方當局カ國務ノ遂行ニ幾何カ安易トナリタルコトハ爭フヘカラサル事實ナリ而シテ穀物買上ノ改正法モ、作付反別減縮多收穫主義ノ政策モ豐年ニ依テ成功ヲ齎ラセリ

工業基本部門ノ採炭、採油及製鐵カ豫定計畫通りノ成績ヲ舉ゲ得ストハ云ヘ少シ乍ラ逐月増産ニテ從來ノ如キ缺陷又ハ大變動ヲ見サルコトハ健實ナル發達ノ途ニ入ルモノト思ハル

鐵道及其他ノ運輸ハ本年豫定ノ業績ヲ舉クルコトハ不可能ナルヘキモ鐵道運輸ハ九月ヨリ十月ニ入り著シク改善セリ

商業ハ内外トモ未タ活潑ナラス財務ハ強制的ノモノハ所定以上ノ成績ヲ舉ケツ、アルモ隨意ニ屬スルモノハ不成績ニシテ既ニ黨部ハ十一月大祭後公債缺陷補填ノ爲メ集金運動ヲ開始セリ然シ國庫歳出計

在オデッサ日本領事館

221

ハ大ナル困難ナクシテ收支相償フヘキ見込アリ

(終)

在オデッサ日本領事館

222